

Ⅱ 18歳以上の区民の方が対象

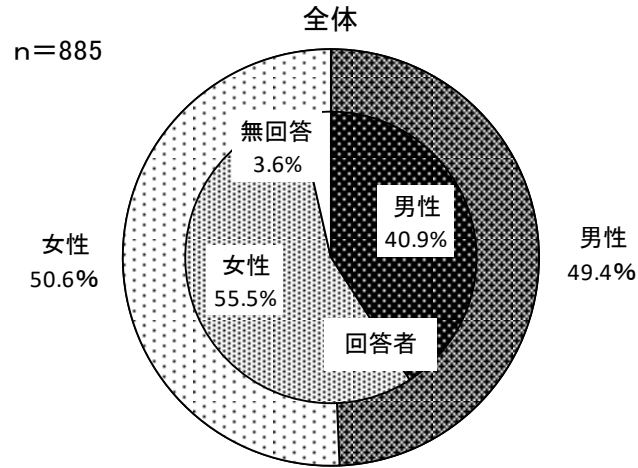
①地域力・まちづくり・環境分野などの調査結果

1 回答者の属性

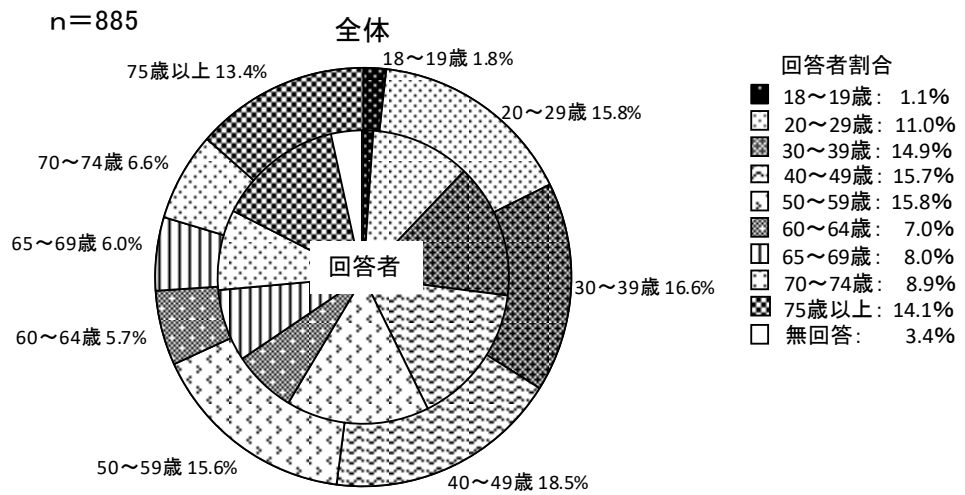
【性別】

全体：大田区の18歳以上の人口（n=638,565）※令和3年1月1日

回答者：有効回収数（n=885）

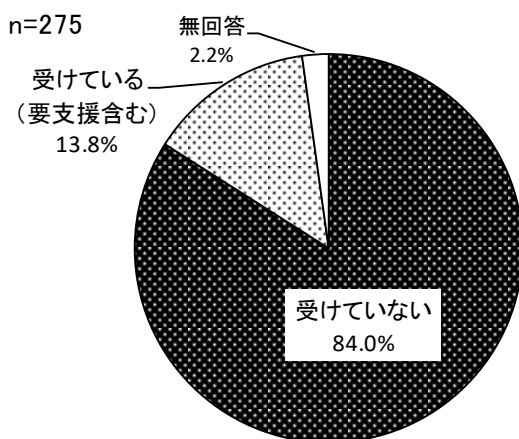


【年齢】

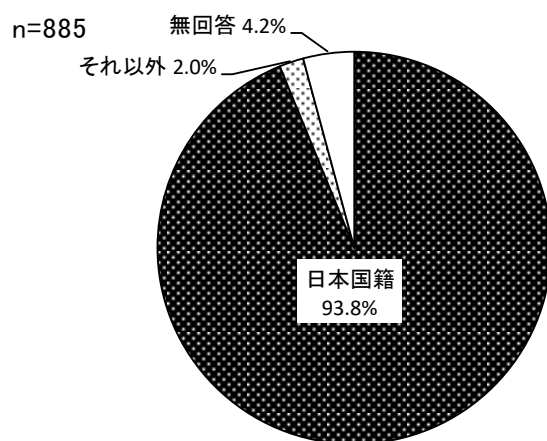


【出典】大田区：年齢別人口報告表資料（日本人+外国人）令和3年1月1日現在版

【介護保険制度の要介護認定を受けているか（65歳以上の方）】



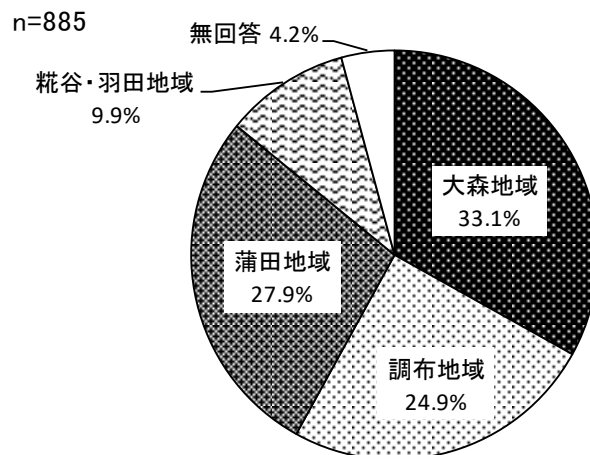
【国籍】



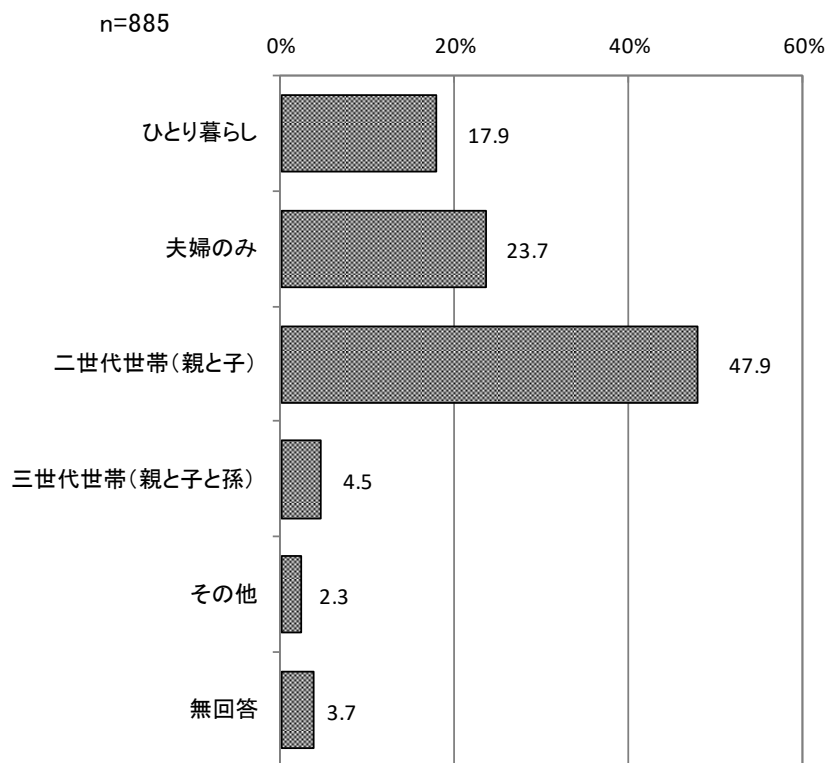
(日本国籍以外)

	中国	韓国	台湾	ネパール	ガーナ	フィリピン	ベトナム	無回答
人数	8	4	1	1	1	1	1	1

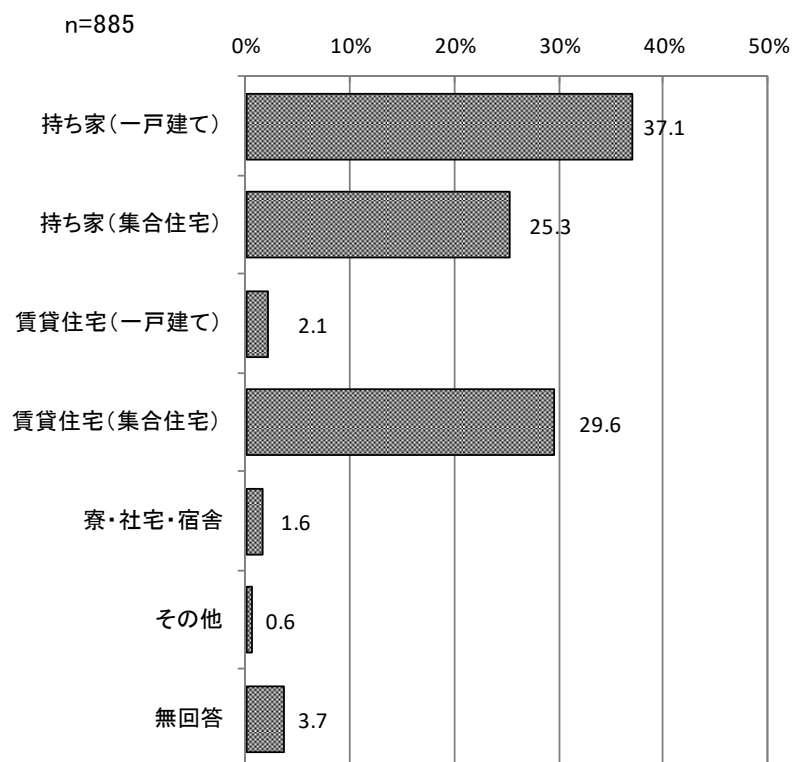
【住まいの地域】



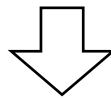
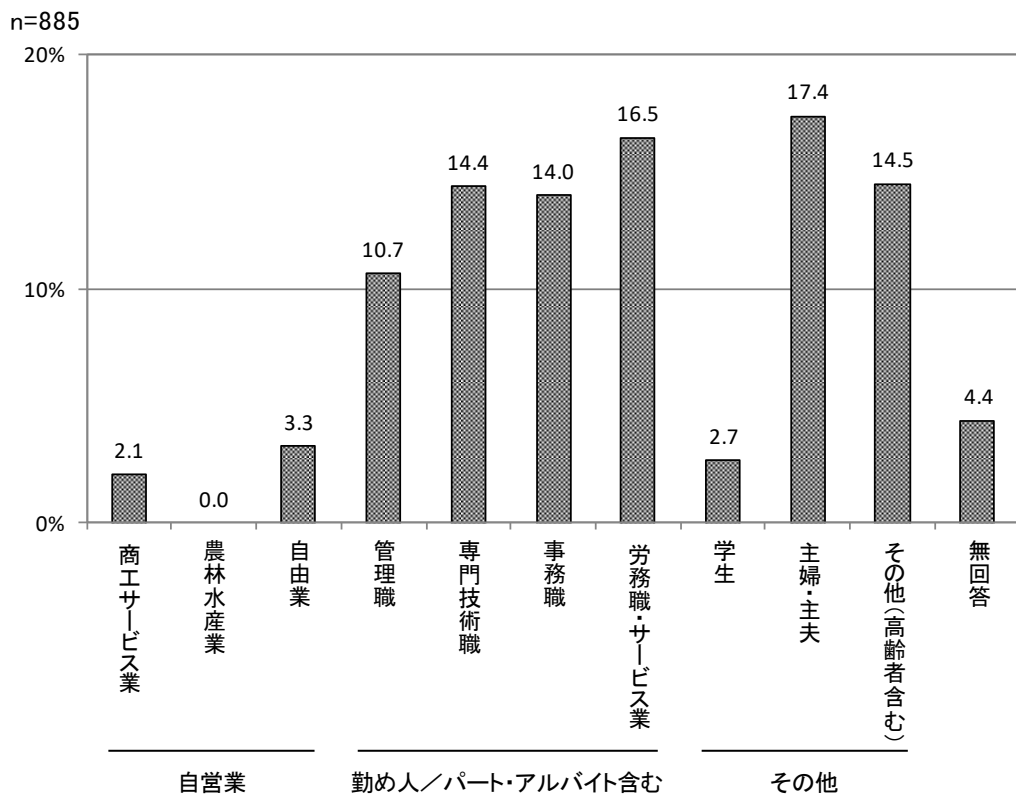
【家族構成】



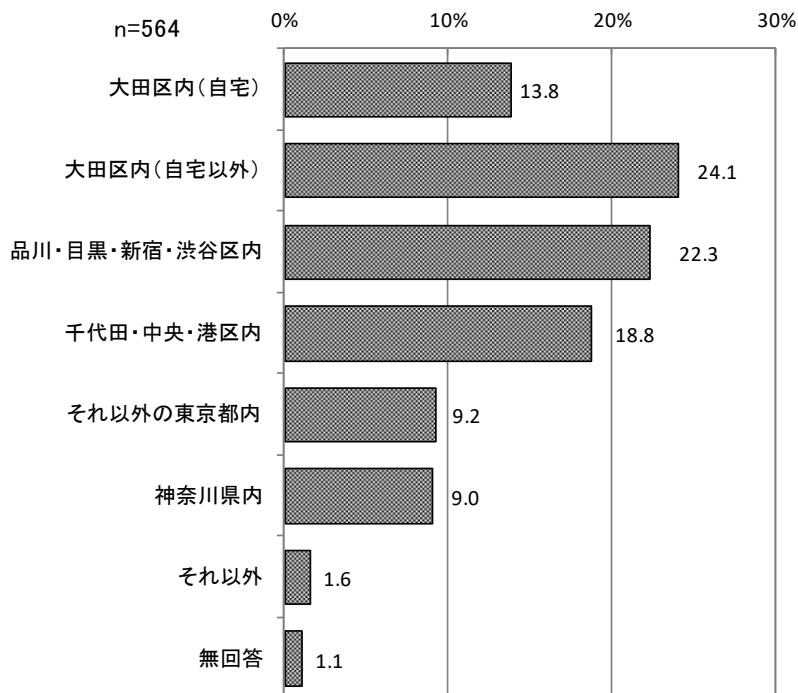
【住まいの種類】



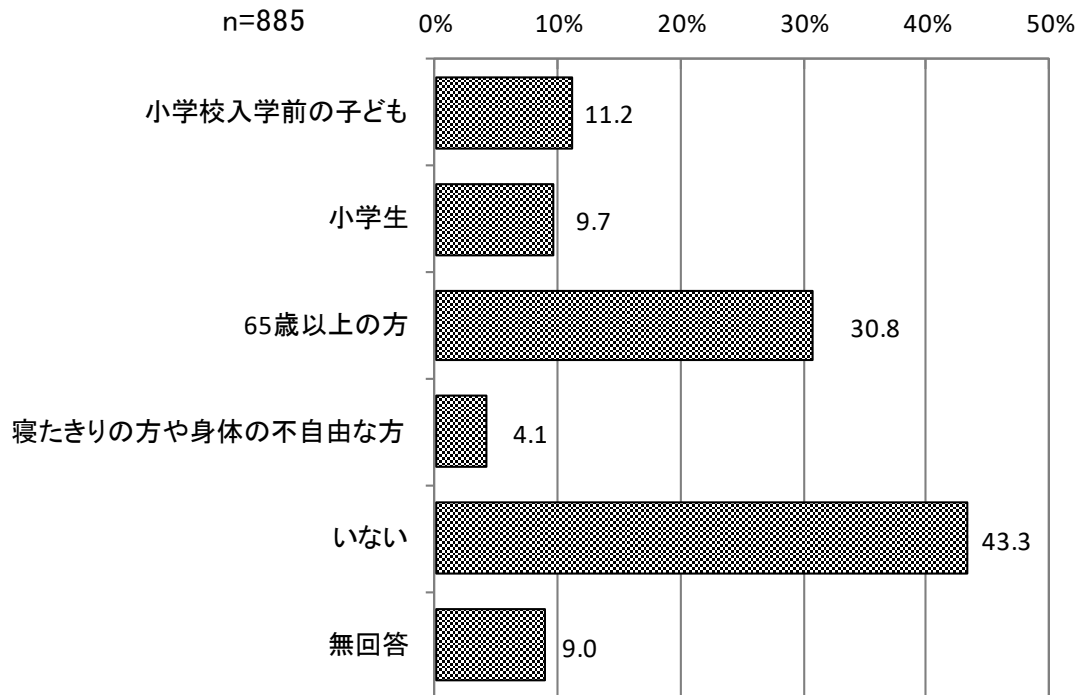
【職業】



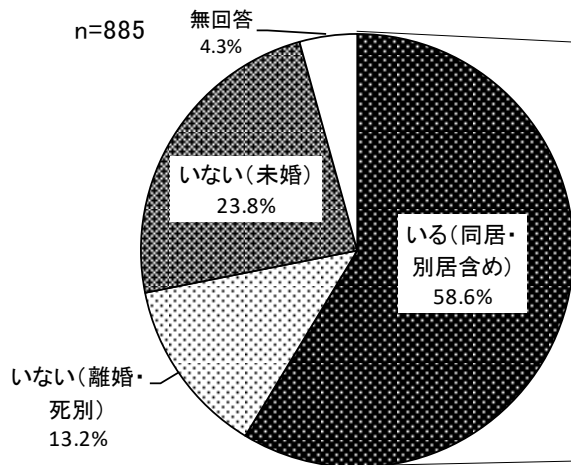
【主な通勤・通学先】



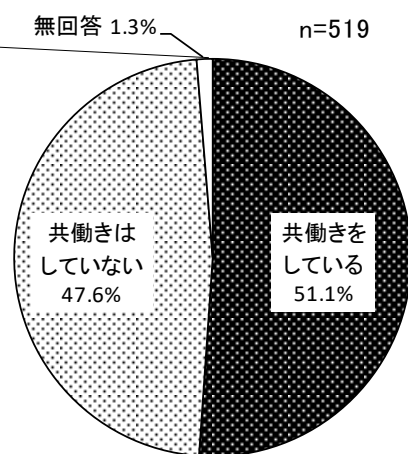
【同居家族】



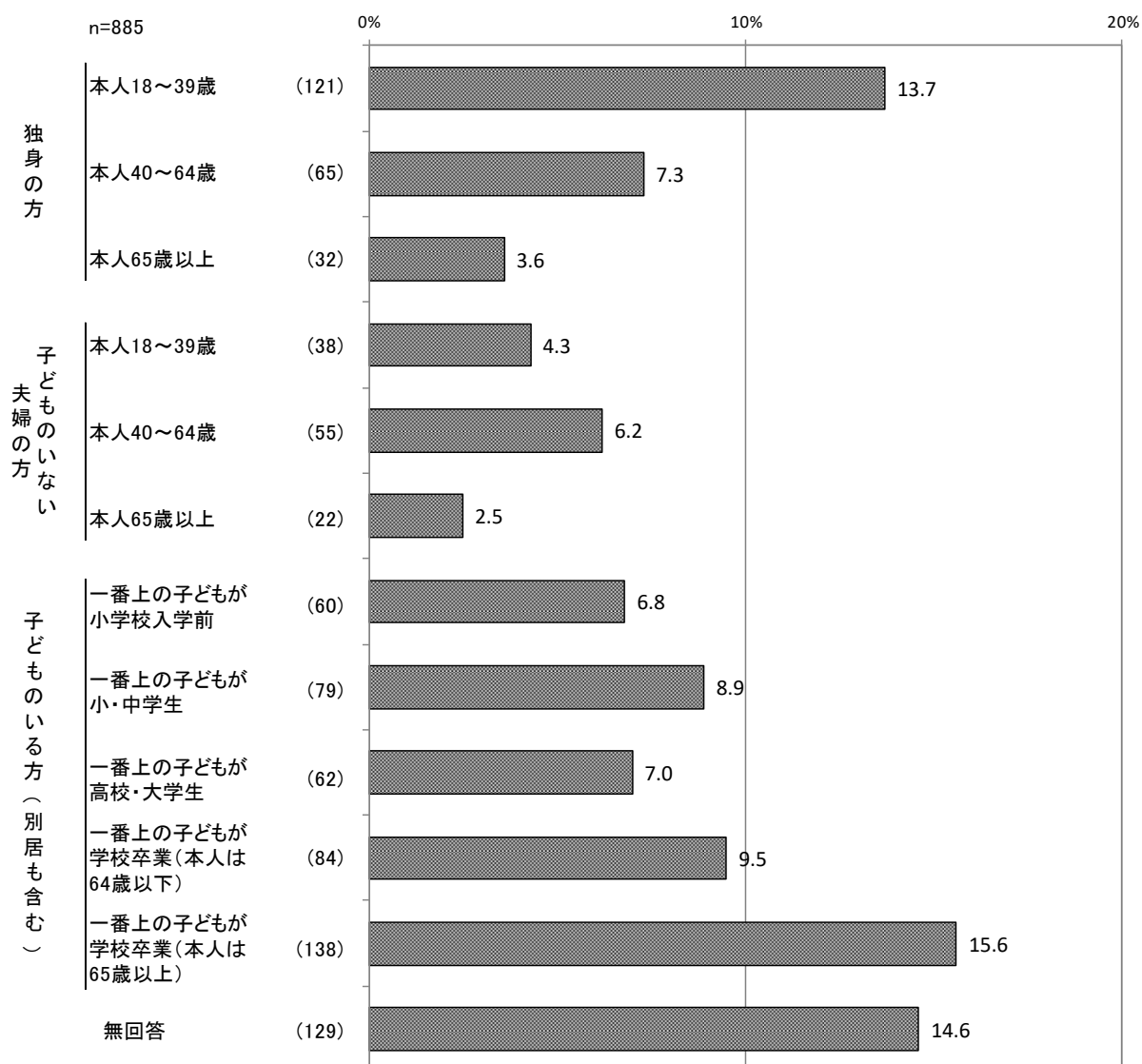
【配偶者の有無】



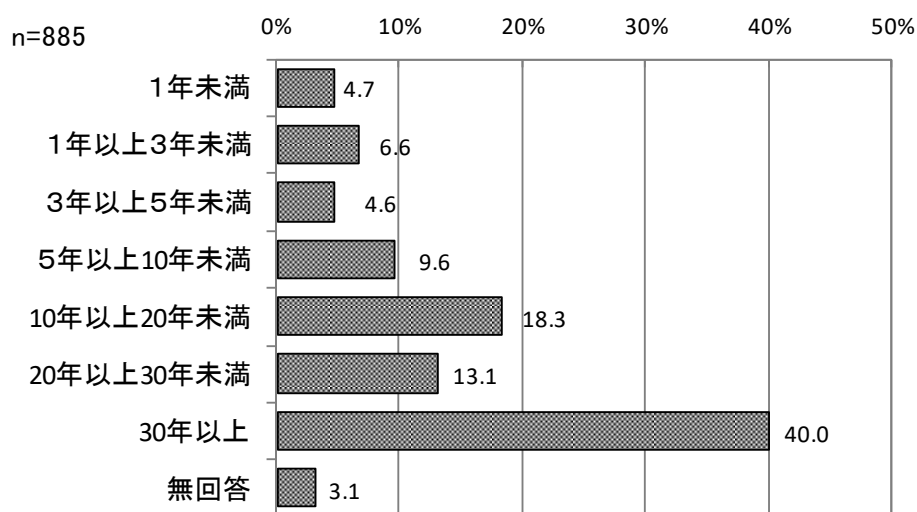
【(配偶者のいる方) 共働きについて】



【ご自身のステージ】



【大田区にお住まいの期間】



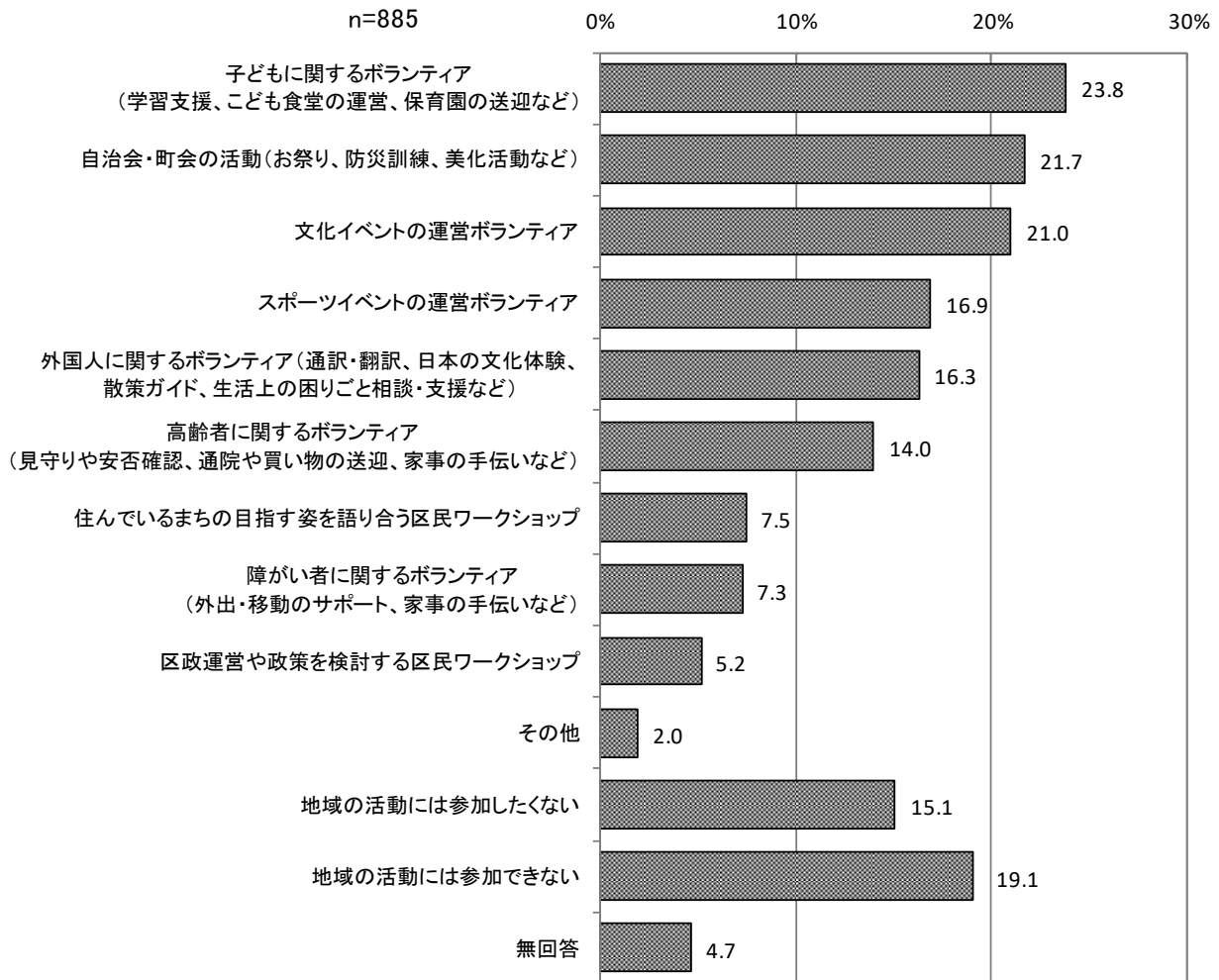
2 地域活動について

(1) 参加してみたい地域活動

◎「子どもに関するボランティア（学習支援、こども食堂の運営、保育園の送迎など）」が最も高い

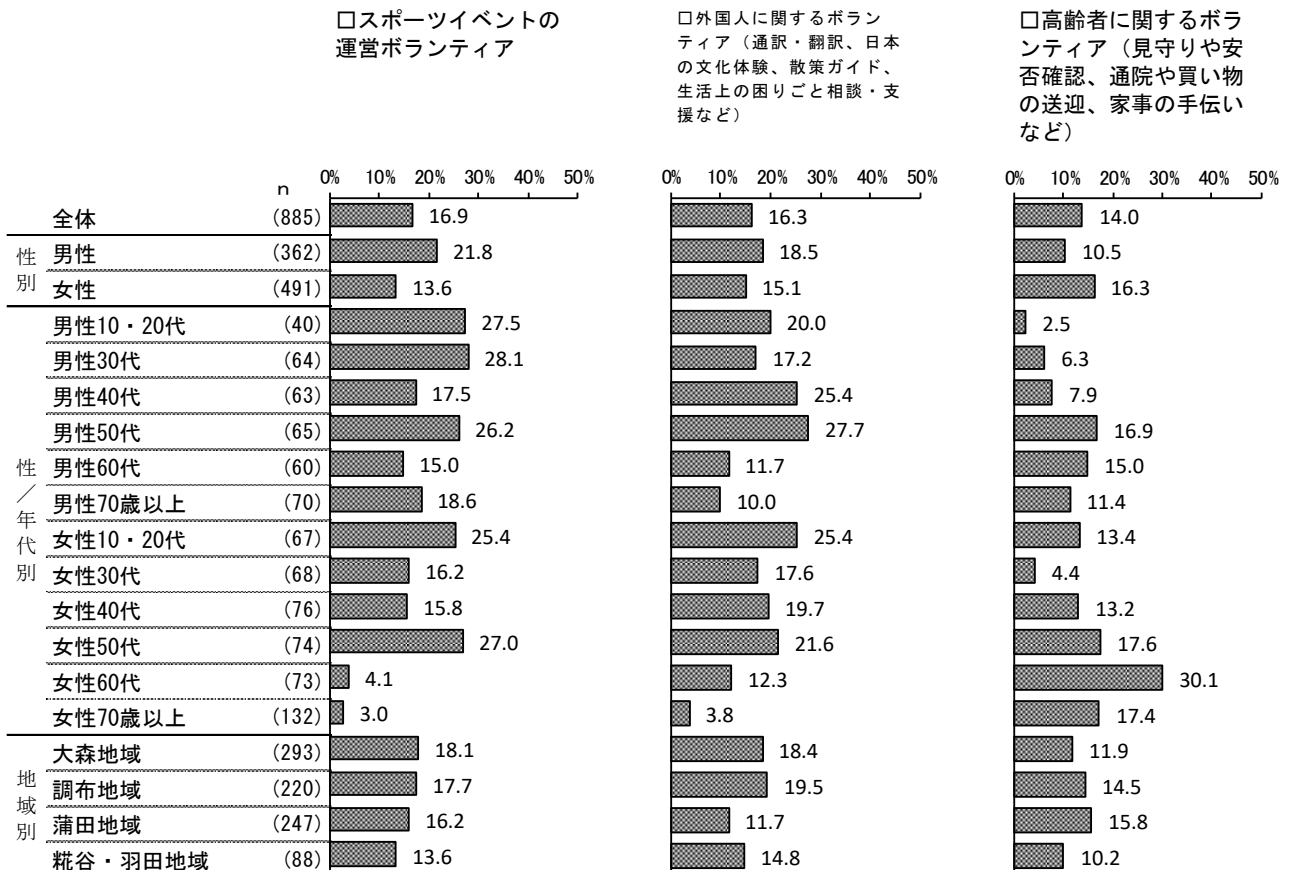
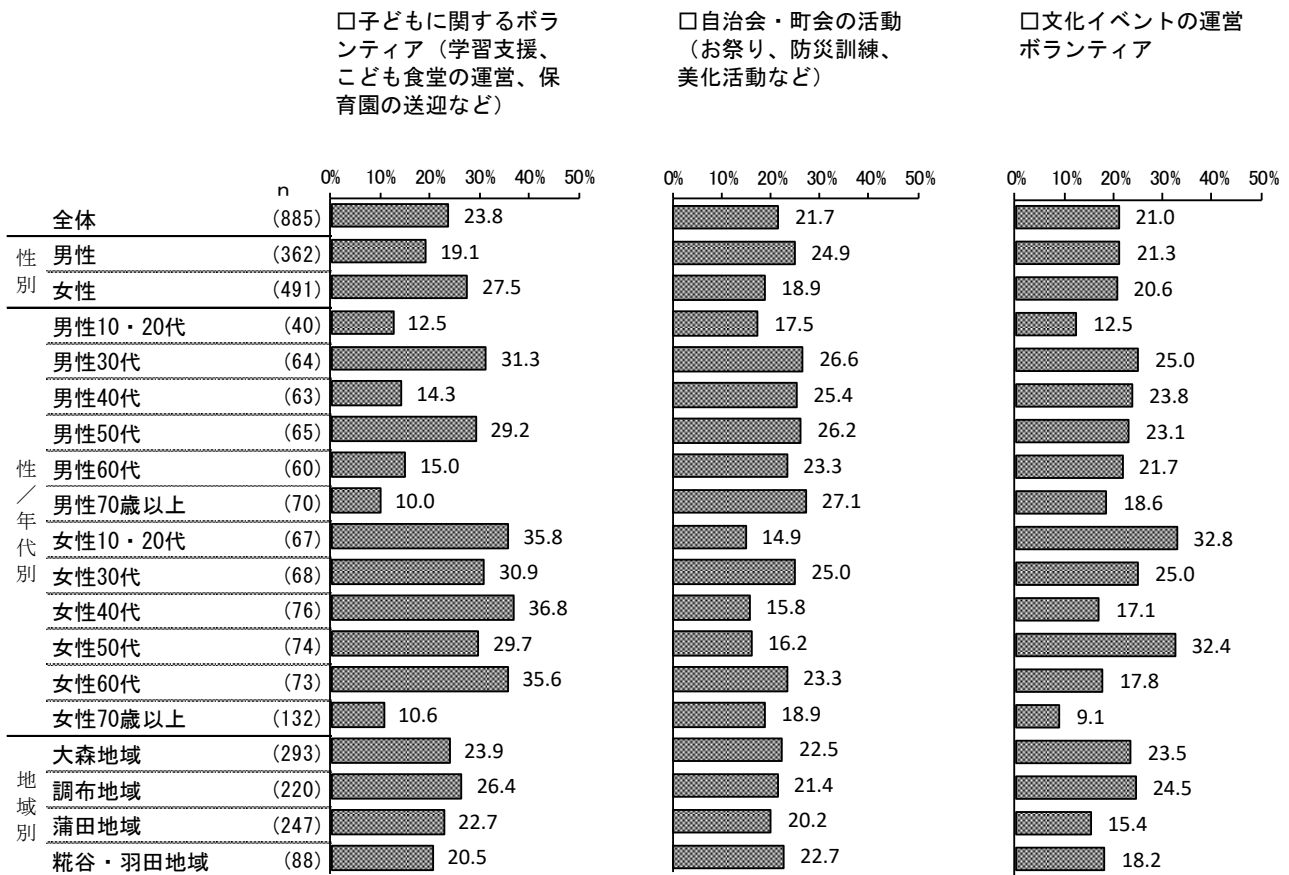
問1 あなたが参加してみたい地域活動を全て選択してください。(〇はいくつでも)

図表2-1 参加してみたい地域活動



参加してみたい地域活動を聞いたところ、「子どもに関するボランティア（学習支援、こども食堂の運営、保育園の送迎など）」が23.8%で最も高く、次いで、「自治会・町会の活動（お祭り、防災訓練、美化活動など）」(21.7%)、「文化イベントの運営ボランティア」(21.0%) となっている。(図表2-1)

図表 2-2 参加してみたい地域活動（性別・性／年代別・地域別 上位6項目）



参加してみたい地域活動について、上位6項目を性別で見ると、女性では「子どもに関するボランティア（学習支援、こども食堂の運営、保育園の送迎など）」(27.5%)が、男性では「自治会・町会の活動（お祭り、防災訓練、美化活動など）」(24.9%)が最も高くなっている。「子どもに関するボランティア（学習支援、こども食堂の運営、保育園の送迎など）」では女性(27.5%)が男性(19.1%)を8.4ポイント、「スポーツイベントの運営ボランティア」では男性(21.8%)が女性(13.6%)を8.2ポイント上回っている。

性/年代別で見ると、男性では「子どもに関するボランティア（学習支援、こども食堂の運営、保育園の送迎など）」が30代、50代で約3割と、その他の年代より高くなっている。女性では「高齢者に関するボランティア（見守りや安否確認、通院や買い物の送迎、家事の手伝いなど）」が60代で約3割と、その他の性/年代より高くなっている。

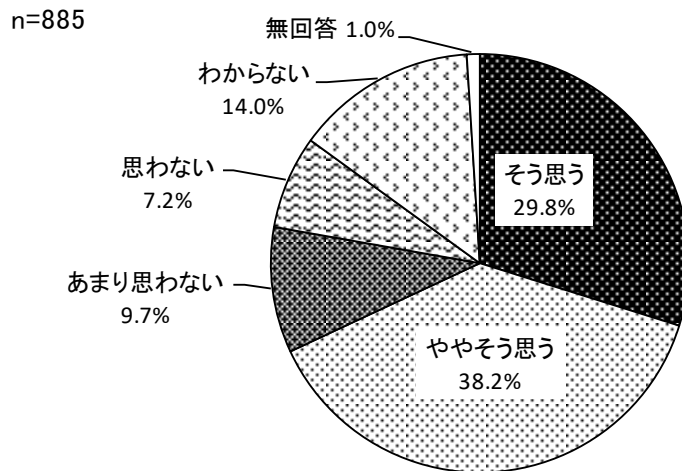
地域別で見ると、大森地域、調布地域、蒲田地域では「子どもに関するボランティア（学習支援、こども食堂の運営、保育園の送迎など）」が、糀谷・羽田地域では「自治会・町会の活動（お祭り、防災訓練、美化活動など）」が最も高くなっている。（図表2-2）

(2) 情報の有無と地域活動への興味・関心、参加へのつながり

◎《そう思う(合計)》が6割後半

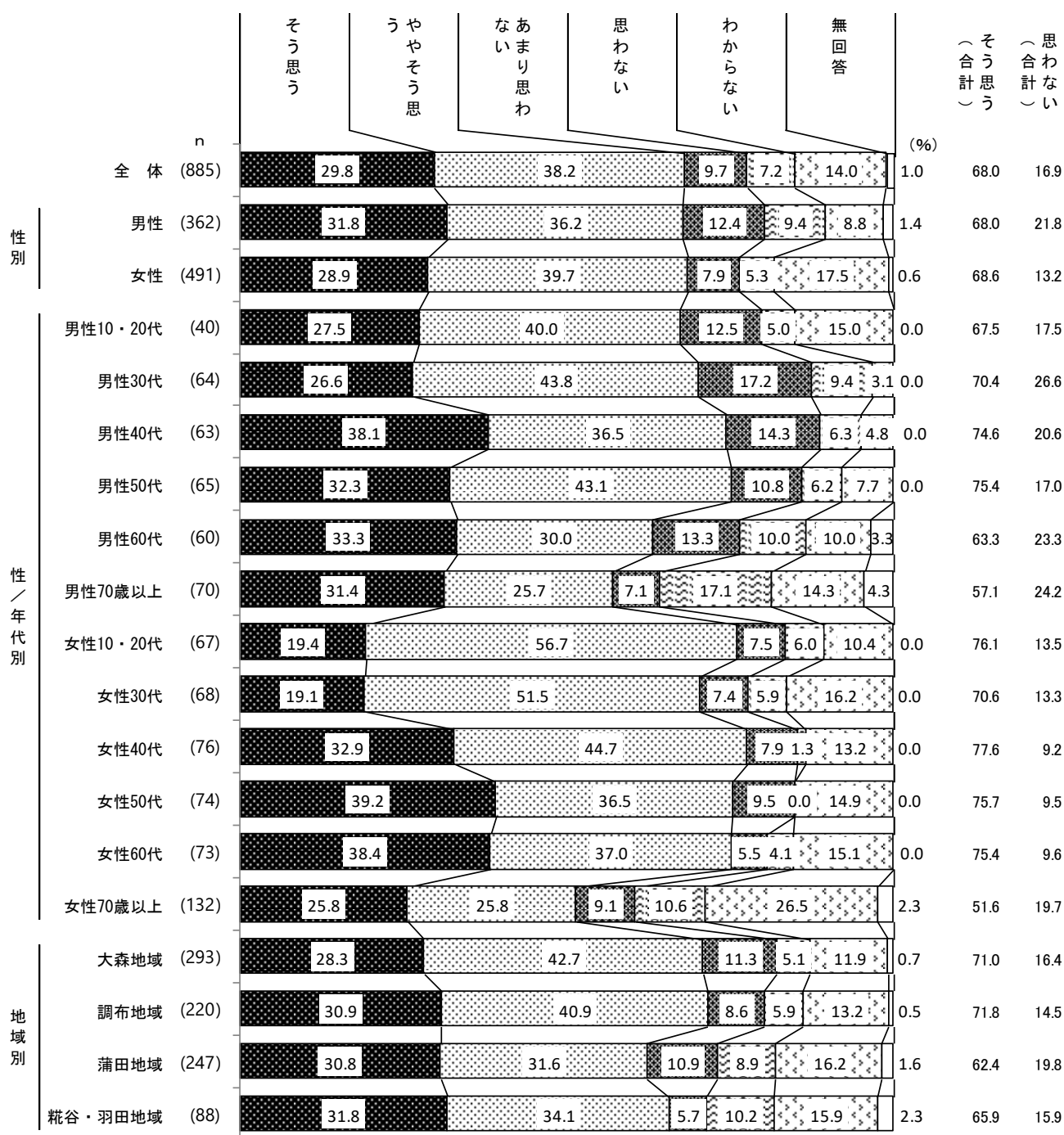
問2 あなたは、情報があれば地域活動への興味・関心や、参加につながるといいますか。
(○は1つ)

図表2-3 情報の有無と地域活動への興味・関心、参加へのつながり



情報があれば地域活動への興味・関心や、参加につながるといえるか聞いたところ、「ややそう思う」が38.2%で最も高く、「そう思う」(29.8%)と合わせた《そう思う(合計)》は68.0%となっている。「あまり思わない」(9.7%)と「思わない」(7.2%)を合わせた《思わない(合計)》が16.9%、「わからない」が14.0%となっている。(図表2-3)

図表2-4 情報の有無と地域活動への興味・関心、参加へのつながり（性別・性／年代別・地域別）



情報があれば地域活動への興味・関心や、参加につながると思うかを性別で見ると、「《そう思う（合計）》」は男性（68.0%）、女性（68.6%）ともに6割後半となっている。

性／年代別にみると、「《そう思う（合計）》」は70歳以上が男性（57.1%）、女性（51.6%）ともに5割台とその他の年代より低くなっている。

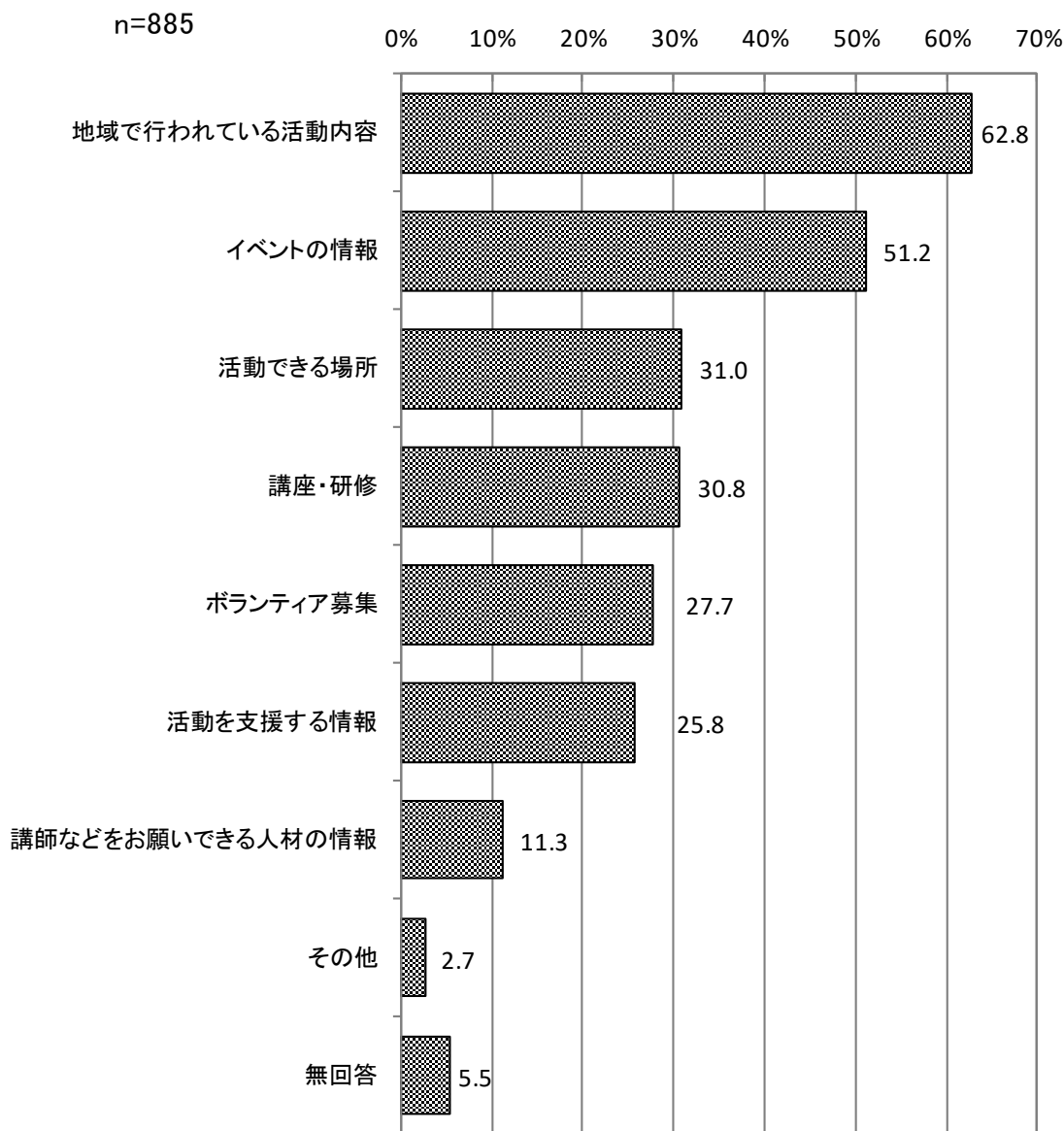
地域別にみると、「《そう思う（合計）》」は大森地域（71.0%）、調布地域（71.8%）で約7割、蒲田地域（62.4%）、糞谷・羽田地域（65.9%）で6割台となっている。（図表2-4）

(3) 必要な地域活動に関する情報

◎「地域で行われている活動内容」が6割前半で最も高い

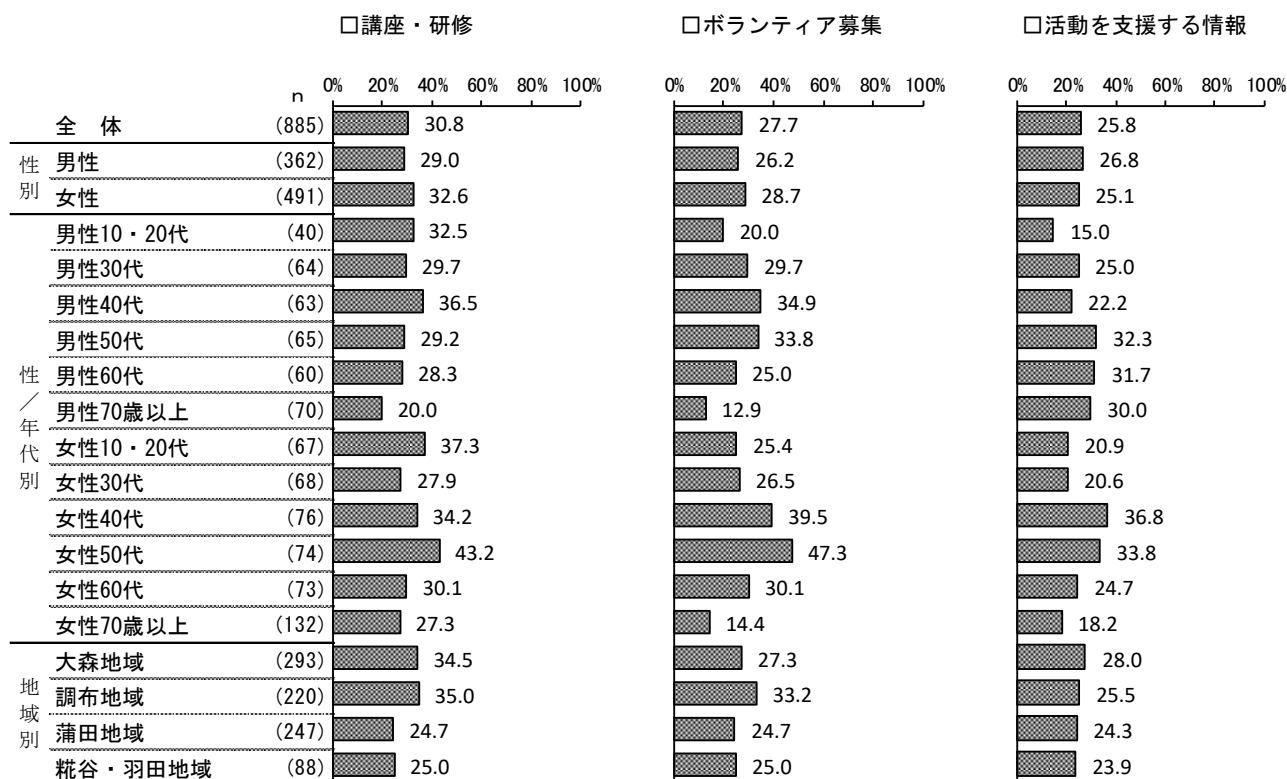
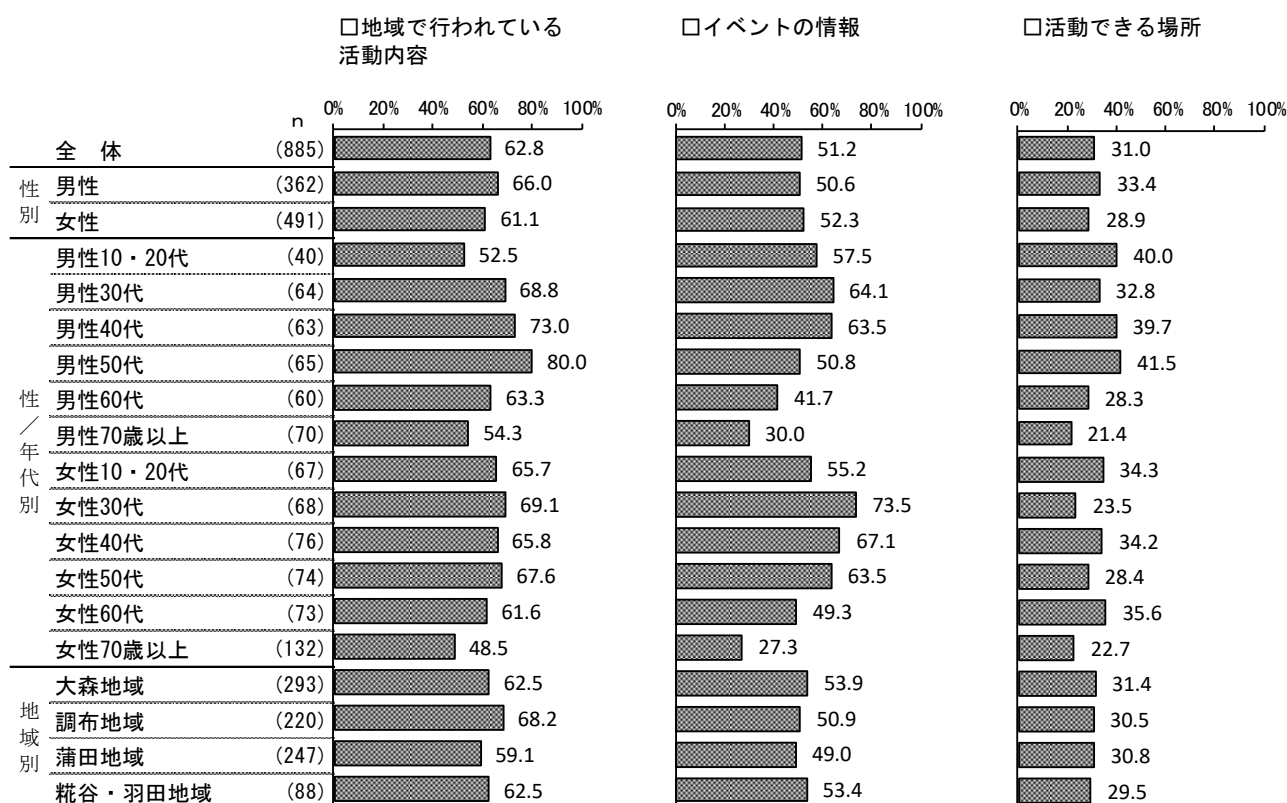
問3 あなたは、どのような地域活動に関する情報が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

図表2-5 必要な地域活動に関する情報



どのような地域活動に関する情報が必要だと思うか聞いたところ、「地域で行われている活動内容」が62.8%で最も高く、次いで、「イベントの情報」(51.2%)、「活動できる場所」(31.0%)となっている。(図表2-5)

図表2-6 必要な地域活動に関する情報（性別・性／年代別・地域別 上位6項目）



どのような地域活動に関する情報が必要だと思うか、上位6項目を性別で見ると、「地域で行われている活動内容」が男女ともに最も高くなっている。

性/年代別で見ると、男性10・20代、女性30代、40代で「イベントの情報」が、その他の年代では「地域で行われている活動内容」が最も高くなっている。

地域別で見ると、すべての地域で「地域で行われている活動内容」が最も高くなっている。

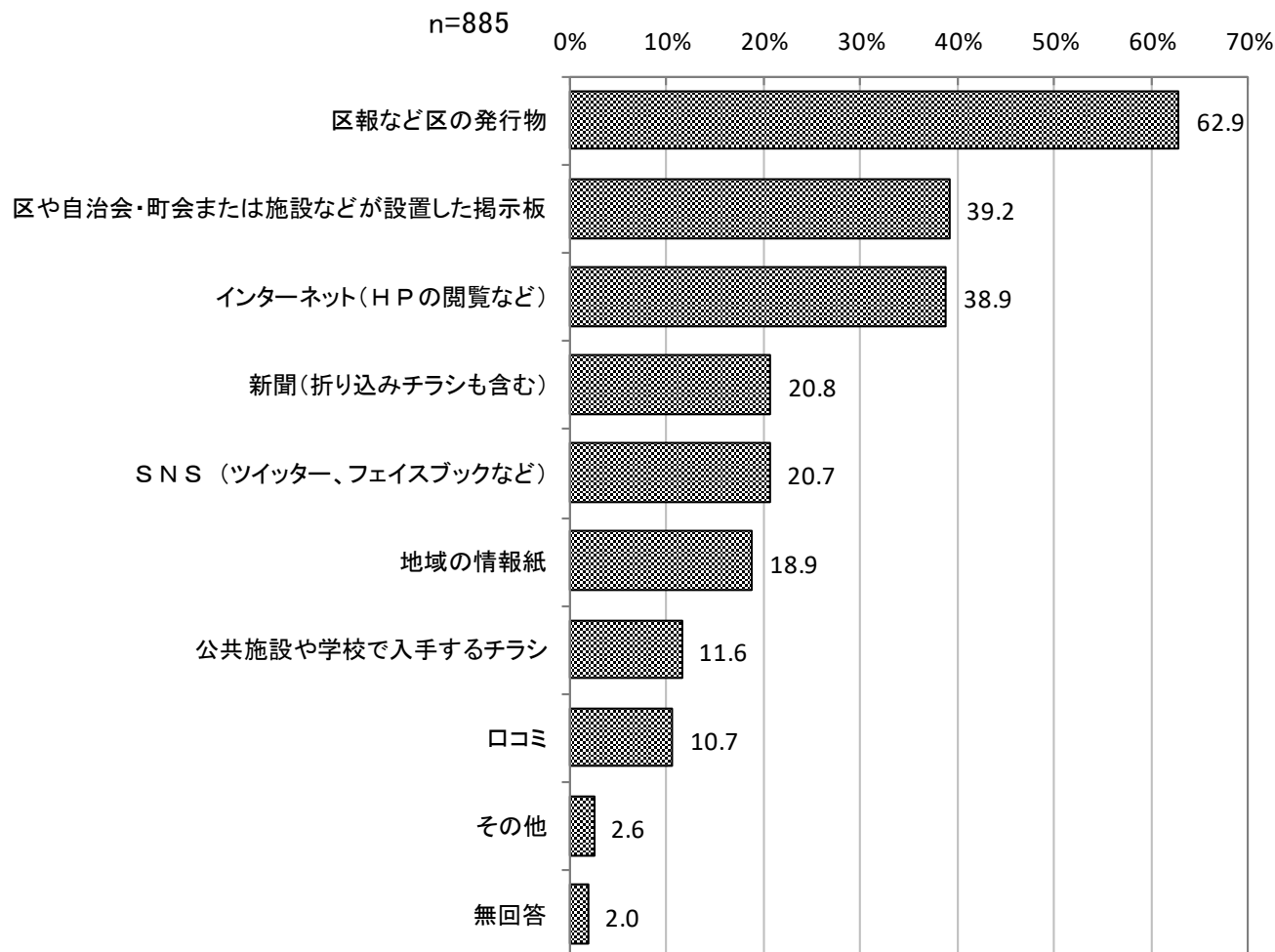
(図表2-6)

(4) 地域活動の情報の収集方法

◎「区報など区の発行物」が6割前半で最も高い

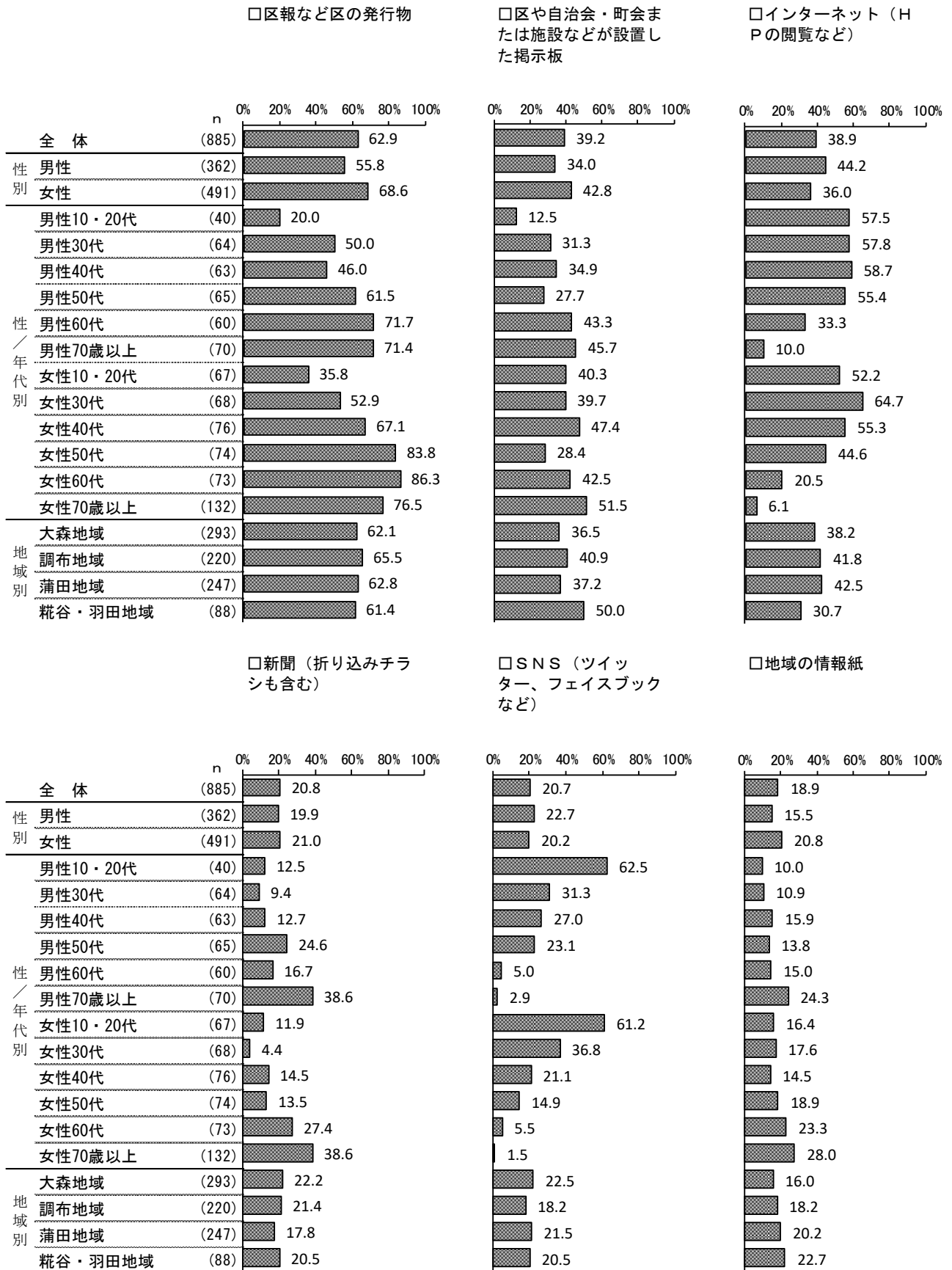
問4 あなたが普段、地域活動に関する情報を収集する方法はなんですか。(〇はいくつでも)

図表2-7 地域活動の情報の収集方法



地域活動の情報の収集方法について聞いたところ、「区報など区の発行物」が62.9%で最も高く、次いで、「区や自治会・町会または施設などが設置した掲示板」(39.2%)、「インターネット(HPの閲覧など)」(38.9%)となっている。(図表2-7)

図表 2-8 地域活動の情報の収集方法（性別・性／年代別・地域別 上位6項目）



地域活動の情報の収集方法について、上位6項目を性別で見ると、男女ともに「区報など区の発行物」が最も高く、次いで、女性は「区や自治会・町会または施設などが設置した掲示板」、男性は「インターネット（HPの閲覧など）」となっている。「区報など区の発行物」では女性（68.6%）が男性（55.8%）を12.8ポイント、「区や自治会・町会または施設などが設置した掲示板」では女性（42.8%）が男性（34.0%）を8.8ポイント、「インターネット（HPの閲覧など）」では男性（44.2%）が女性（36.0%）を8.2ポイント上回っている。

性／年代別で見ると、男女ともに10・20代で「SNS（ツイッター、フェイスブックなど）」が、男性30代、40代、女性30代で「インターネット（HPの閲覧など）」が、その他の性／年代で「区報など区の発行物」が最も高くなっている。「SNS（ツイッター、フェイスブックなど）」は男女ともに年代が若いほど高くなっている。「新聞（折り込みチラシも含む）」は男女ともに70歳以上で3割後半と、その他の性／年代より高くなっている。

地域別で見ると、「区報など区の発行物」がすべての地域で最も高くなっている。（図表2-8）

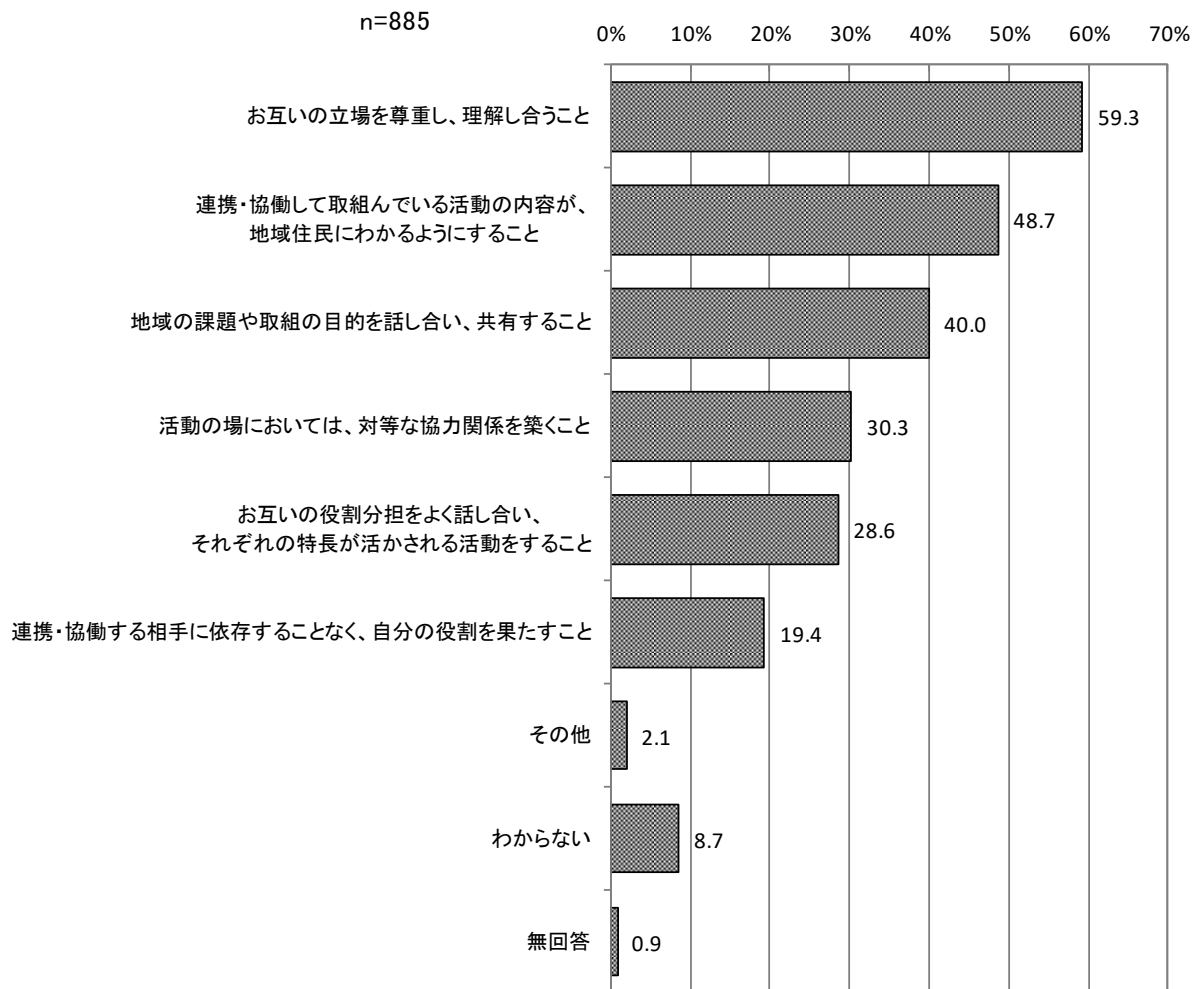
3 協働について

(1) 連携・協働をするために重要なこと

◎「お互いの立場を尊重し、理解し合うこと」が約6割で最も高くなっている

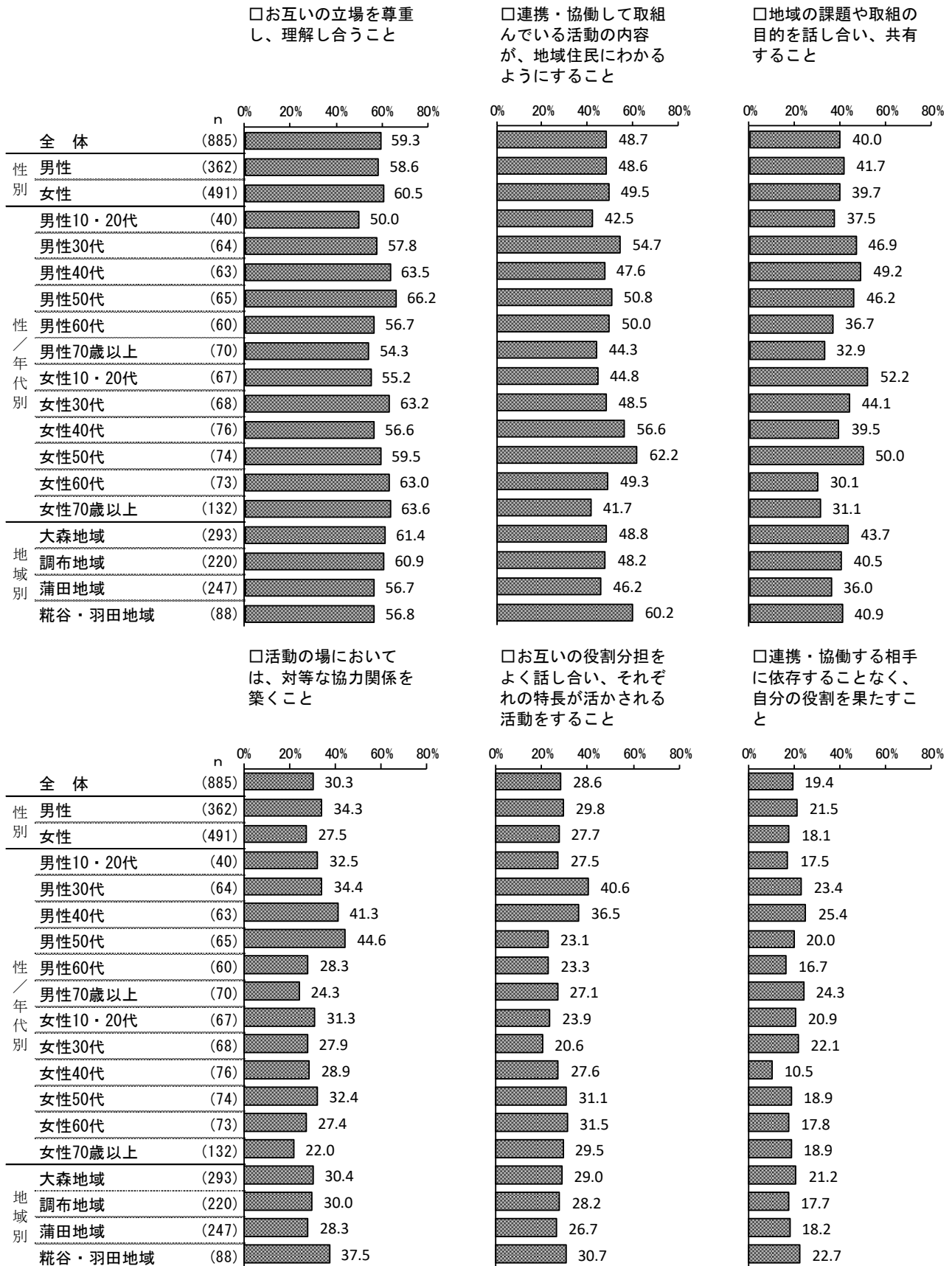
問5 豊かで魅力に満ちたまちづくりを進めるための連携や協働をするにあたり、どのようなことが重要だとお考えですか。(〇はいくつでも)

図表3-1 連携・協働をするために重要なこと



連携・協働をするために重要なことについて聞いたところ、「お互いの立場を尊重し、理解し合うこと」が59.3%で最も高く、次いで、「連携・協働して取組んでいる活動の内容が、地域住民にわかるようにすること」(48.7%)、「地域の課題や取組の目的を話し合い、共有すること」(40.0%)となっている。(図表3-1)

図表3-2 連携・協働をするために重要なこと（性別・性／年代別・地域別 上位6項目）



連携・協働をするために重要なことについて、上位6項目を性別で見ると、男女ともに「お互いの立場を尊重し、理解し合うこと」が最も高くなっている。「活動の場においては、対等な協力関係を築くこと」では男性（34.3%）が女性（27.5%）を6.8ポイント上回っている。

性／年代別にみると、女性50代では「連携・協働して取組んでいる活動の内容が、地域住民にわかるようにすること」が最も高く、女性40代では「お互いの立場を尊重し、理解し合うこと」「連携・協働して取組んでいる活動の内容が、地域住民にわかるようにすること」が同率で最も高くなっている。その他の性／年代では「お互いの立場を尊重し、理解し合うこと」が最も高くなっている。

地域別で見ると、大森地域、調布地域、蒲田地域では「お互いの立場を尊重し、理解し合うこと」が、糀谷・羽田地域では「連携・協働して取組んでいる活動の内容が、地域住民にわかるようにすること」が最も高くなっている。（図表3-2）

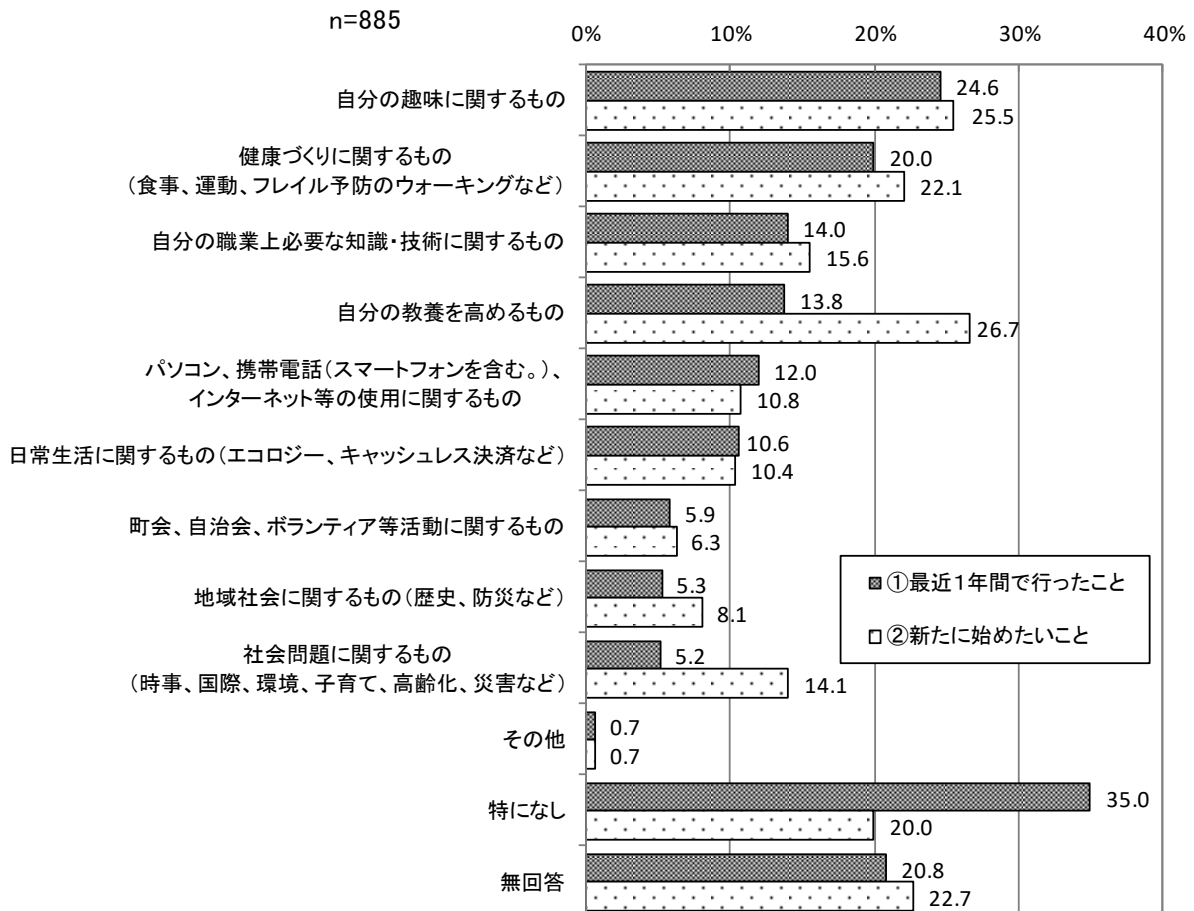
4 生涯学習について

(1) 最近1年間の生涯学習の活動と新たに始めたいもの

◎行った活動は「自分の趣味に関するもの」が、新たに始めたい活動は「自分の教養を高めるもの」がそれぞれ2割半ばで最も高くなっている

問6 あなたはこの1年間に、学校、区が行う講座や文化、スポーツ、趣味等のサークル活動、地域活動、仕事・就職活動や日常生活でどのような調べ事や学び（生涯学習）を行いましたか。また、新たに始めてみたいことはありますか。
 （「①最近1年間で行ったこと」「②新たに始めたいこと」、それぞれ〇はいくつでも）

図表4-1 最近1年間の生涯学習の活動と新たに始めたいもの



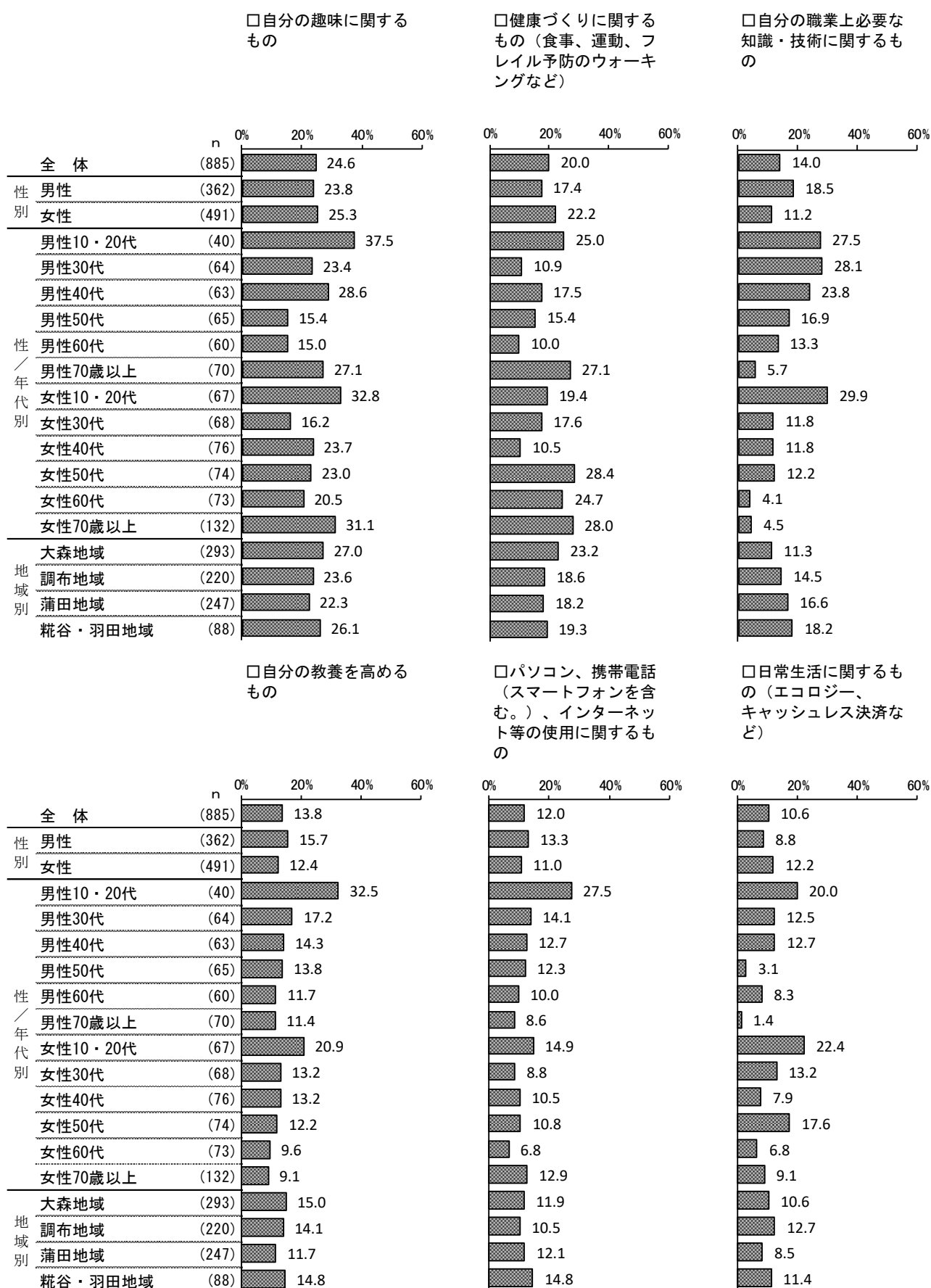
【最近1年間で行った】生涯学習について聞いたところ、「自分の趣味に関するもの」が24.6%で最も高く、次いで、「健康づくりに関するもの(食事、運動、フレイル予防のウォーキングなど)」(20.0%)、「自分の職業上必要な知識・技術に関するもの」(14.0%)となっている。

一方、「特になし」は35.0%となっている。

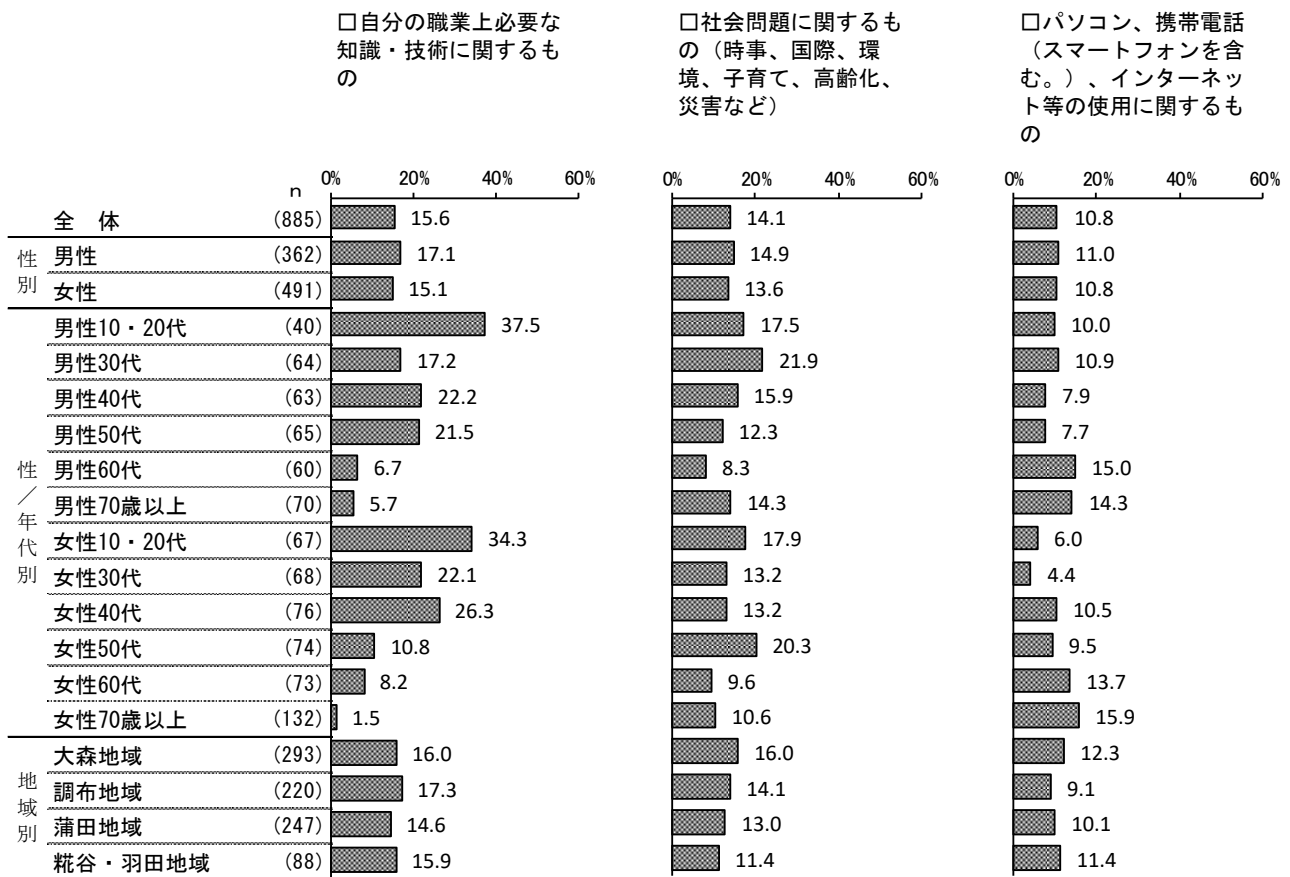
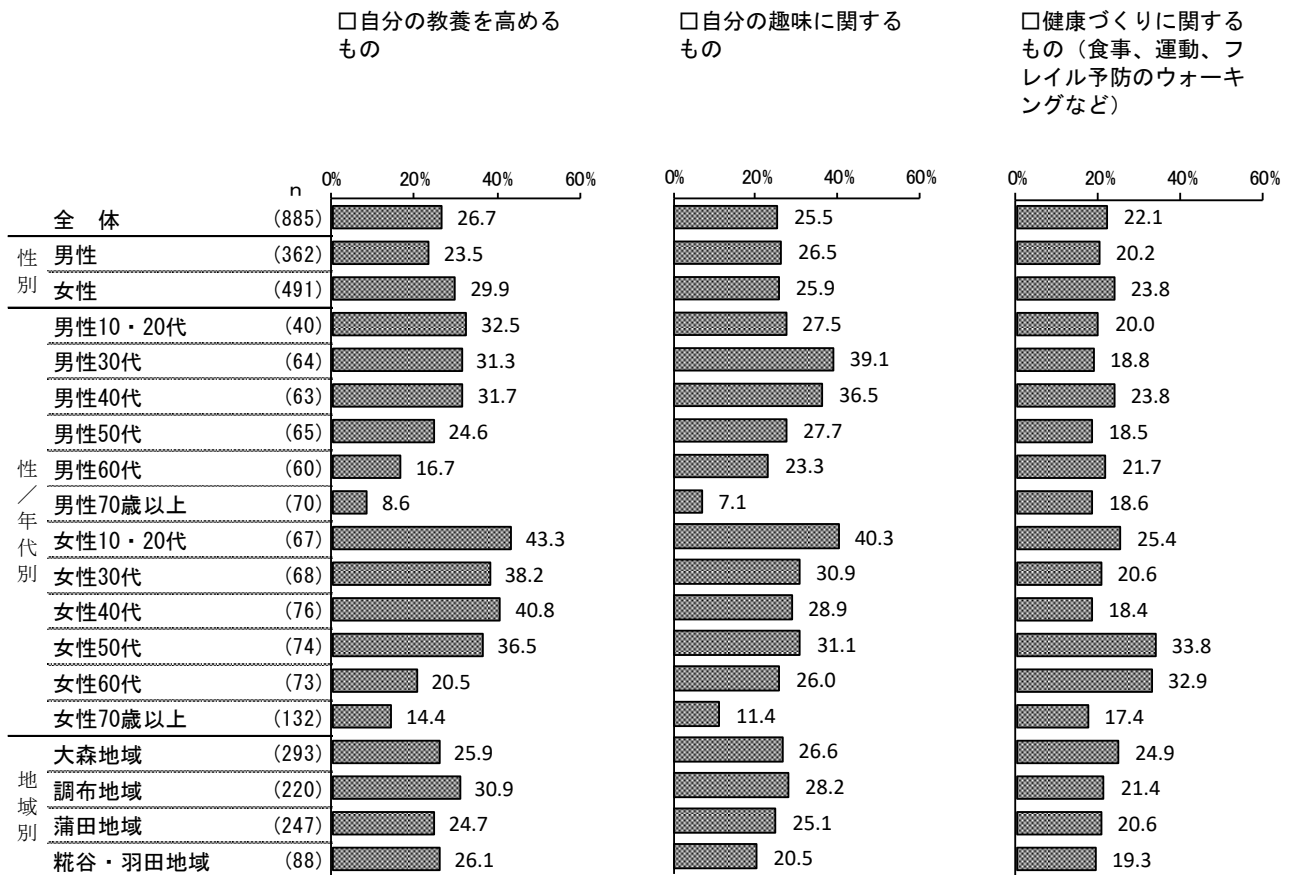
【新たに始めたい】生涯学習について聞いたところ、「自分の教養を高めるもの」が26.7%で最も高く、次いで、「自分の趣味に関するもの」(25.5%)、「健康づくりに関するもの(食事、運動、フレイル予防のウォーキングなど)」(22.1%)となっている。

一方、「特になし」は20.0%となっている。(図表4-1)

図表4-2 最近1年間の生涯学習の活動（性別・性／年代別・地域別 上位6項目）



図表4-3 新たに始めたい生涯学習の活動（性別・性/年代別・地域別 上位6項目）



【最近1年間で行った】生涯学習について、上位6項目を性別で見ると、男女ともに「自分の趣味に関するもの」が最も高くなっている。「自分の職業上必要な知識・技術に関するもの」では男性(18.5%)が女性(11.2%)を7.3ポイント上回っている。

性/年代別にみると、「自分の趣味に関するもの」は男性10・20代、女性10・20代、70歳以上で3割台となっている。「自分の職業上必要な知識・技術に関するもの」、「自分の教養を高めるもの」は、男女ともに概ね年齢が若いほど高くなっている。

地域別にみると、いずれの地域も「自分の趣味に関するもの」が最も高くなっている。(図表4-2)

【新たに始めたい】生涯学習について、上位6項目を性別で見ると、男性は「自分の趣味に関するもの」、女性は「自分の教養を高めるもの」が最も高くなっている。

性/年代別にみると、女性10・20代~50代では「自分の教養を高めるもの」が、男性30代~60代では「自分の趣味に関するもの」が、男性70歳以上、女性60代、70歳以上では「健康づくりに関するもの(食事、運動、フレイル予防のウォーキングなど)」が、男性10・20代では「自分の職業上必要な知識・技術に関するもの」が最も高くなっている。

地域別にみると、調布地域、糀谷・羽田地域では「自分の教養を高めるもの」が、大森地域、蒲田地域では「自分の趣味に関するもの」が最も高くなっている。(図表4-3)

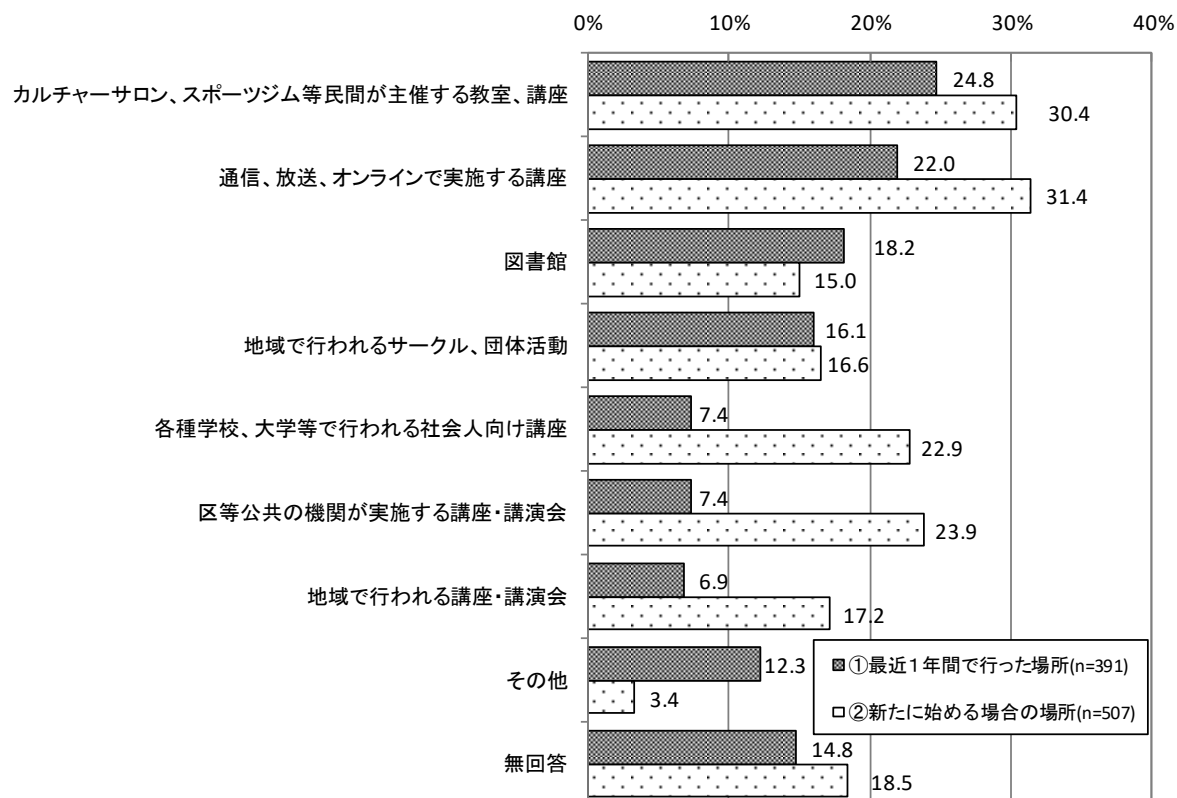
(2) 生涯学習を行った場所と行いたい場所

◎行った場所、行いたい場所、いずれも「カルチャーサロン、スポーツジム等民間が主催する教室、講座」、「通信、放送、オンラインで実施する講座」が高くなっている

【問6の①及び②で「1」～「10」と回答された方】

問6-1 どこで行いましたか。また、新たに始める場合はどこで行いたいですか。(「①最近1年間で行った場所」「②新たに始める場合の場所」、それぞれ〇はいくつでも)

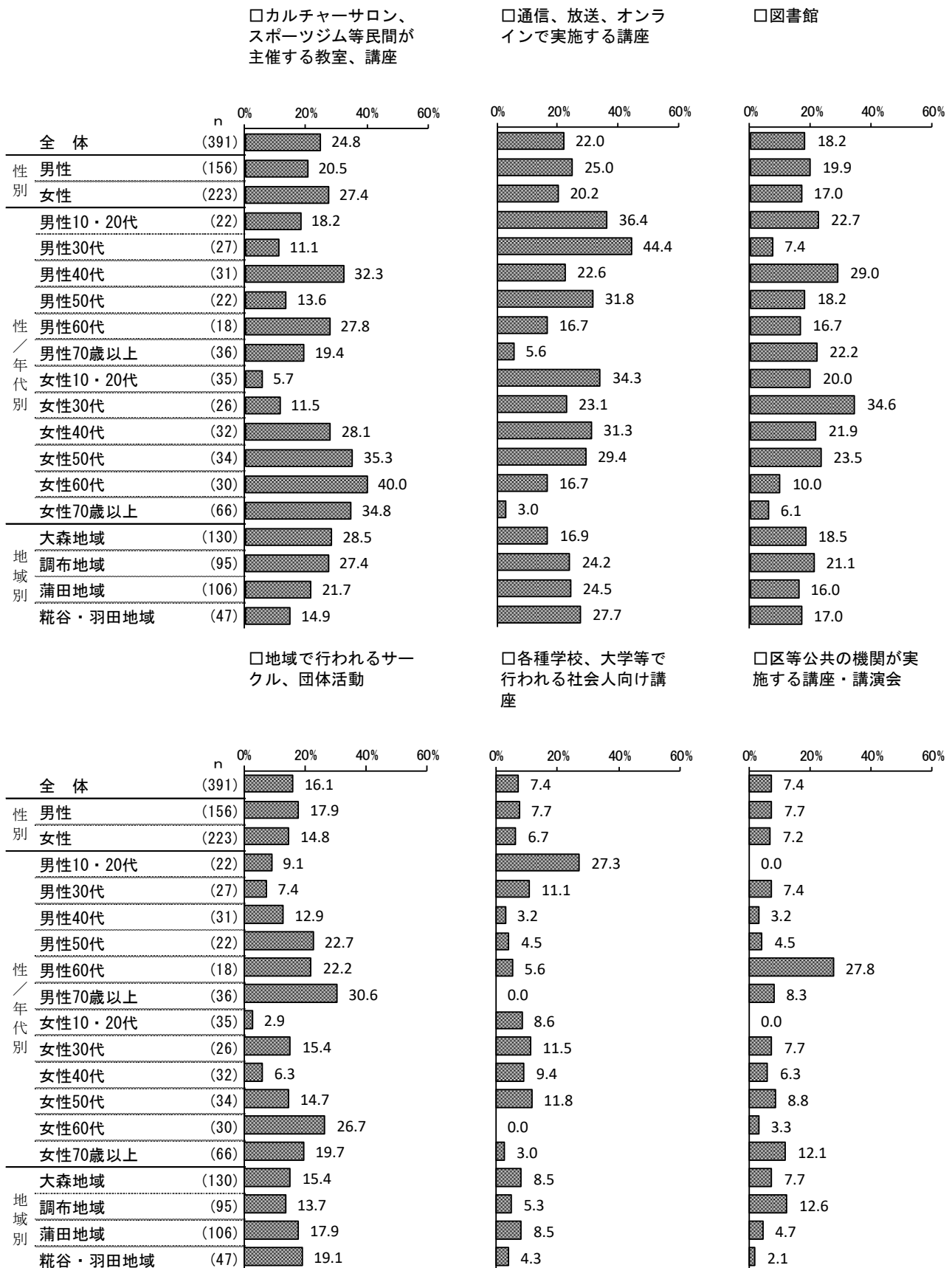
図表4-4 生涯学習を行った場所と行いたい場所



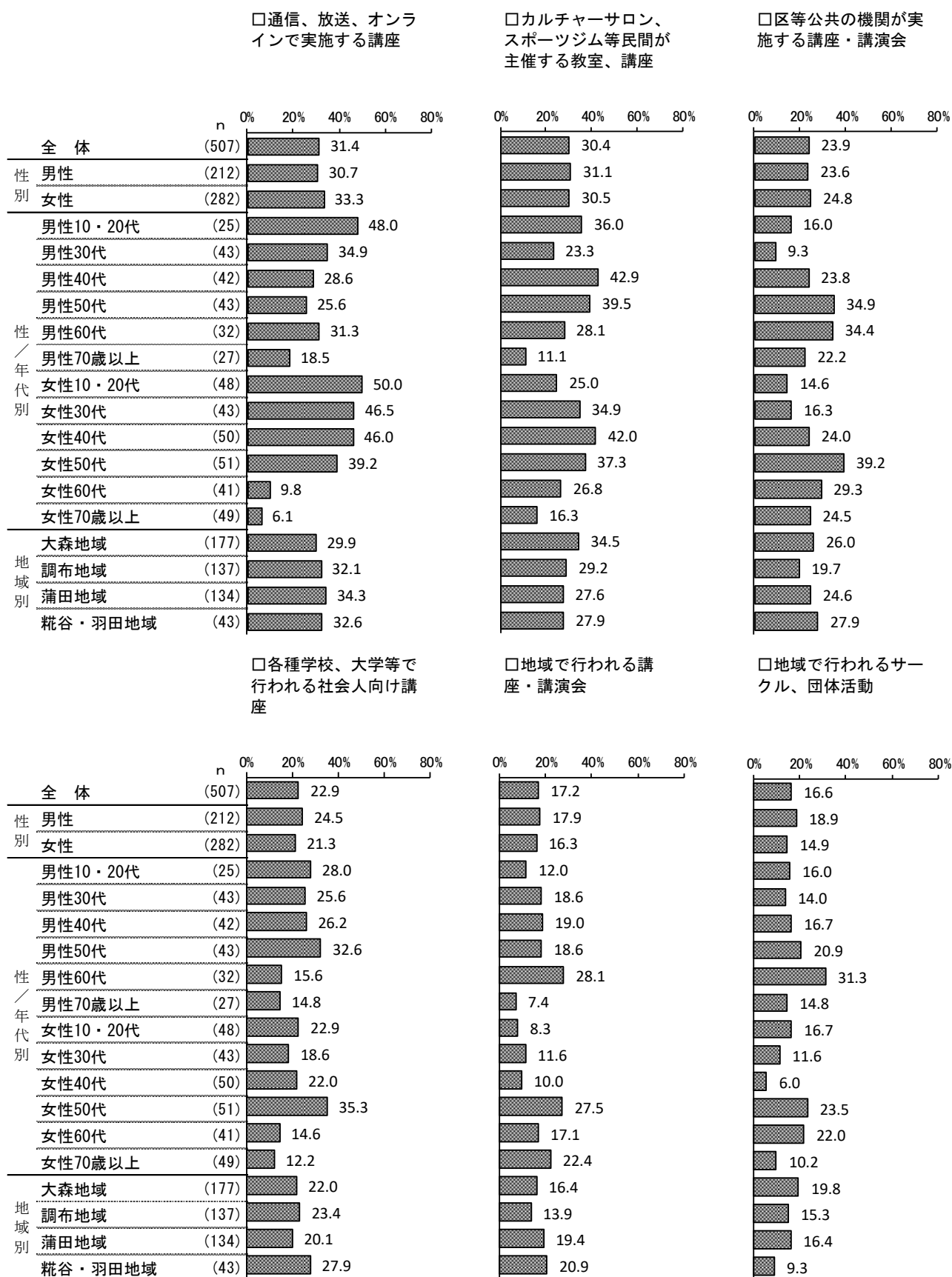
【生涯学習を行った】場所について聞いたところ、「カルチャーサロン、スポーツジム等民間が主催する教室、講座」が24.8%で最も高く、次いで、「通信、放送、オンラインで実施する講座」(22.0%)、「図書館」(18.2%)となっている。

【生涯学習を新たに始める場合】の場所については、「通信、放送、オンラインで実施する講座」が31.4%で最も高く、次いで、「カルチャーサロン、スポーツジム等民間が主催する教室、講座」(30.4%)、「区等公共の機関が実施する講座・講演会」(23.9%)となっている。(図表4-4)

図表4-5 生涯学習を行った場所（性別・性/年代別・地域別 上位6項目）



図表4-6 生涯学習を新たに始める場合の場所（性別・性／年代別・地域別 上位6項目）



【生涯学習を行った】場所について、上位6項目を性別で見ると、男性は「通信、放送、オンラインで実施する講座」が、女性は「カルチャーサロン、スポーツジム等民間が主催する教室、講座」が最も高くなっている。

性／年代別で見ると、女性60代で「カルチャーサロン、スポーツジム等民間が主催する教室、講座」が4割となっている。

地域別で見ると、大森地域、調布地域は「カルチャーサロン、スポーツジム等民間が主催する教室、講座」が、蒲田地域、糀谷・羽田地域では「通信、放送、オンラインで実施する講座」が最も高くなっている。(図表4-5)

【生涯学習を新たに始める場合】の場所について、上位6項目を性別で見ると、男性は「カルチャーサロン、スポーツジム等民間が主催する教室、講座」が、女性は「通信、放送、オンラインで実施する講座」が最も高くなっている。

性／年代別で見ると、男性40代、50代は「カルチャーサロン、スポーツジム等民間が主催する教室、講座」が、男女ともに60代、70歳以上は「区等公共の機関が実施する講座・講演会」が最も高く、女性50代では「通信、放送、オンラインで実施する講座」、「区等公共の機関が実施する講座・講演会」が同率で最も高くなっている。その他の性／年代では「通信、放送、オンラインで実施する講座」が最も高くなっている。

地域別で見ると、大森地域は「カルチャーサロン、スポーツジム等民間が主催する教室、講座」が、その他の地域では「通信、放送、オンラインで実施する講座」が最も高くなっている。(図表4-6)

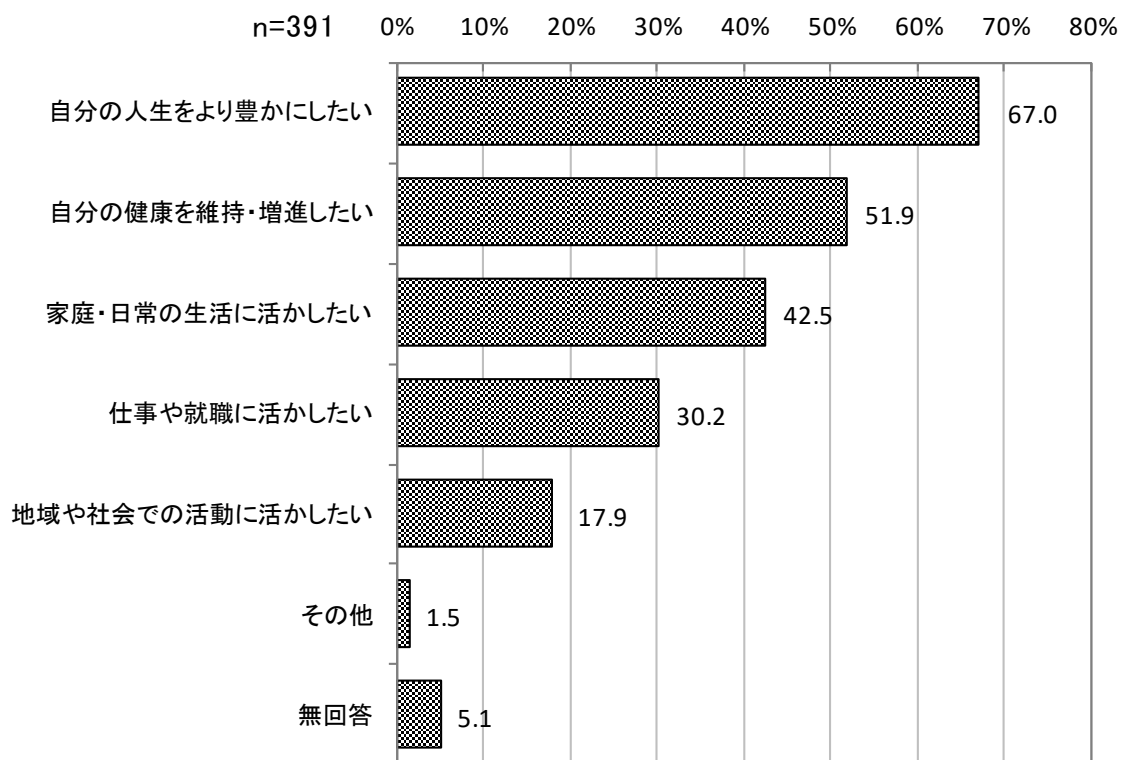
(3) 生涯学習で身に付けた知識・技能・経験をどのように活かしたいか

◎「自分の人生をより豊かにしたい」が6割後半で最も高くなっている

【問6①最近1年間で行ったもので「1」～「10」と回答された方】

問6-2 あなたは生涯学習を通じて身に付けた知識・技能・経験をどのように活かしたいですか。
(〇はいくつでも)

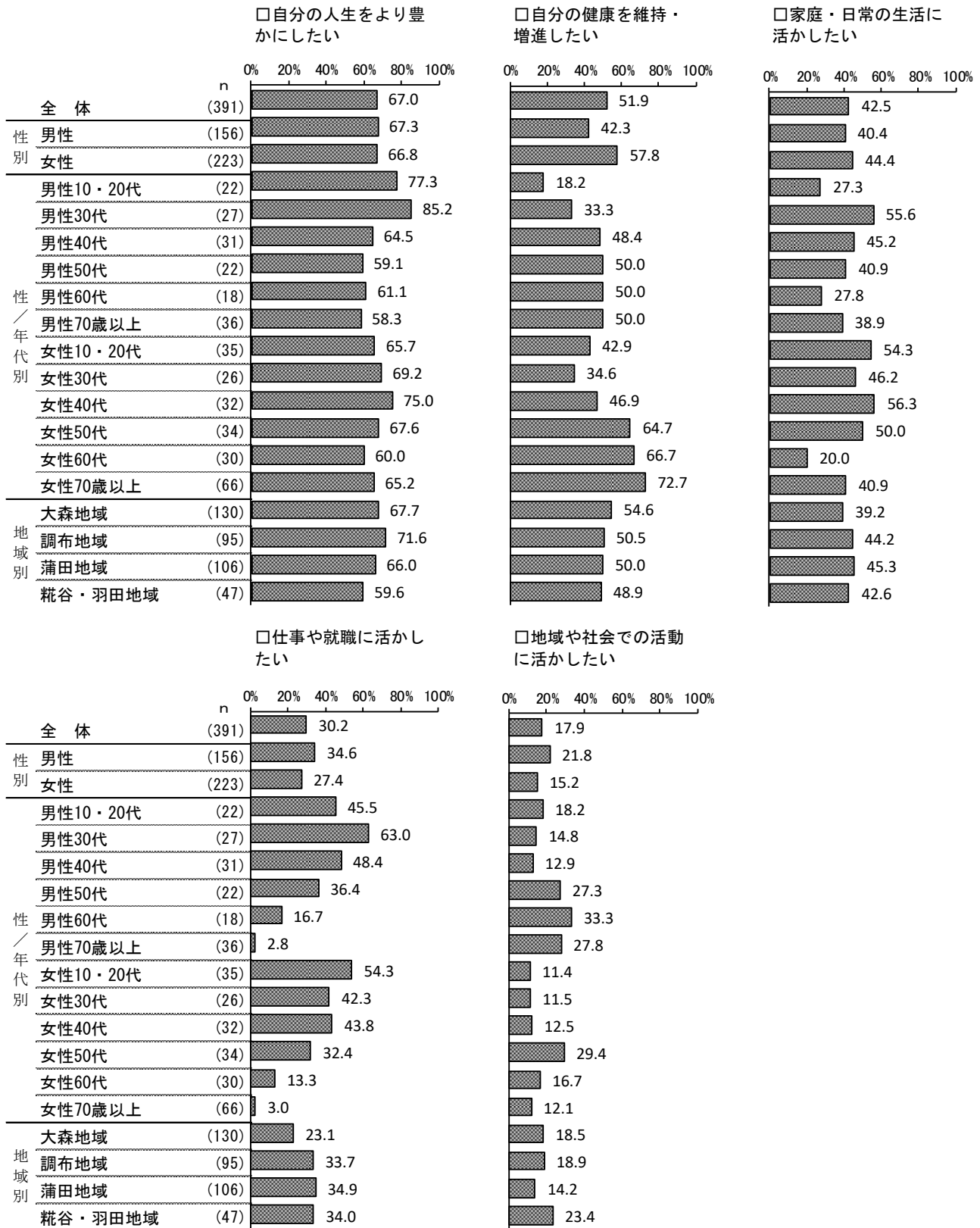
図表4-7 生涯学習で身に付けた知識・技能・経験をどのように活かしたいか



最近1年間に生涯学習の活動を行った人に生涯学習で身に付けた知識・技能・経験をどのように活かしたいか聞いたところ、「自分の人生をより豊かにしたい」が67.0%で最も高く、次いで、「自分の健康を維持・増進したい」(51.9%)、「家庭・日常の生活に活かしたい」(42.5%)となっている。

(図表4-7)

図表4-8 生涯学習で身に付けた知識・技能・経験をどのように活かしたいか
(性別・性/年代別・地域別 上位5項目)



生涯学習で身に付けた知識・技能・経験をどのように活かしたいかについて、上位5項目を性別で見ると、男女ともに「自分の人生をより豊かにしたい」が最も高くなっている。「自分の健康を維持・増進したい」は女性（57.8%）が男性（42.3%）を15.5ポイント上回っている。

性／年代別で見ると、女性60代、70歳以上では「自分の健康を維持・増進したい」が、その他の性／年代では「自分の人生をより豊かにしたい」が最も高くなっている。

地域別で見ると、すべての地域で「自分の人生をより豊かにしたい」が最も高くなっている。

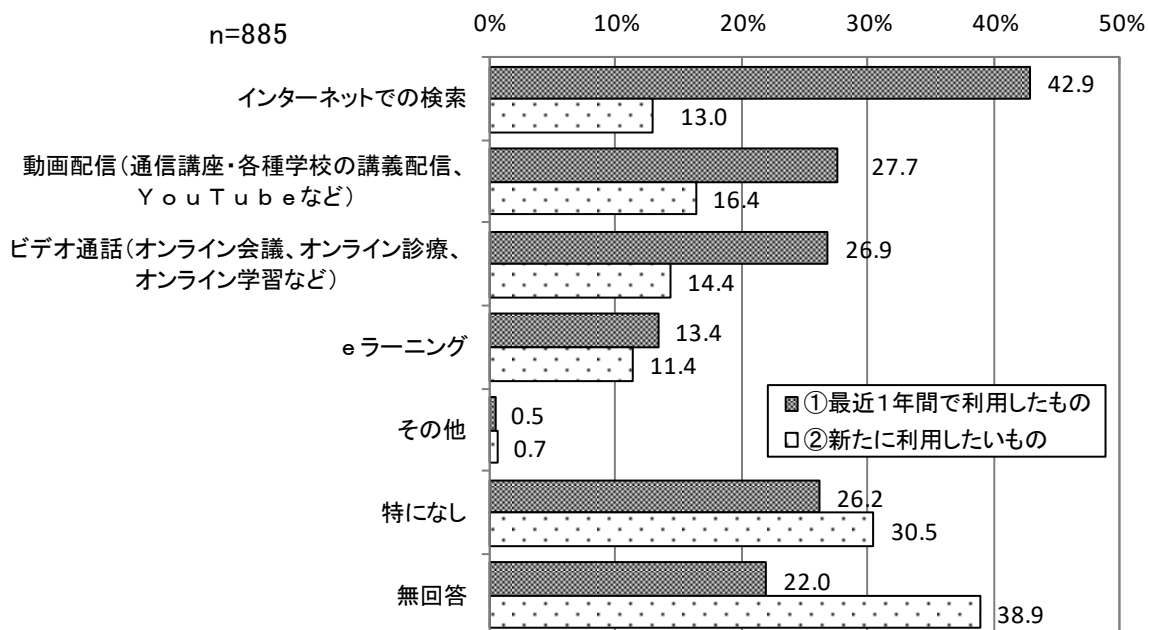
（図表4－8）

(4) 生涯学習での情報端末のサービスの利用と新たに利用したいもの

◎利用したサービスは「インターネットでの検索」が4割前半で最も高くなっている

問7 この1年間に、生涯学習を行うにあたり、パソコン、タブレットや携帯電話（スマートフォンを含む。）で以下の利用をしましたか。また、新たに利用したいことはありますか。
 （「①最近1年間で利用したもの」「②新たに利用したいもの」、それぞれ〇はいくつでも）

図表4-9 生涯学習での情報端末のサービスの利用と新たに利用したいもの



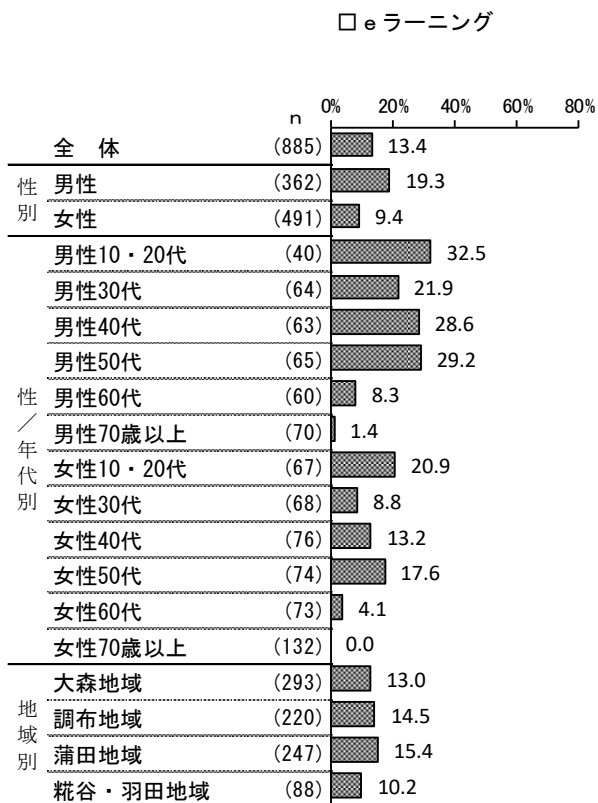
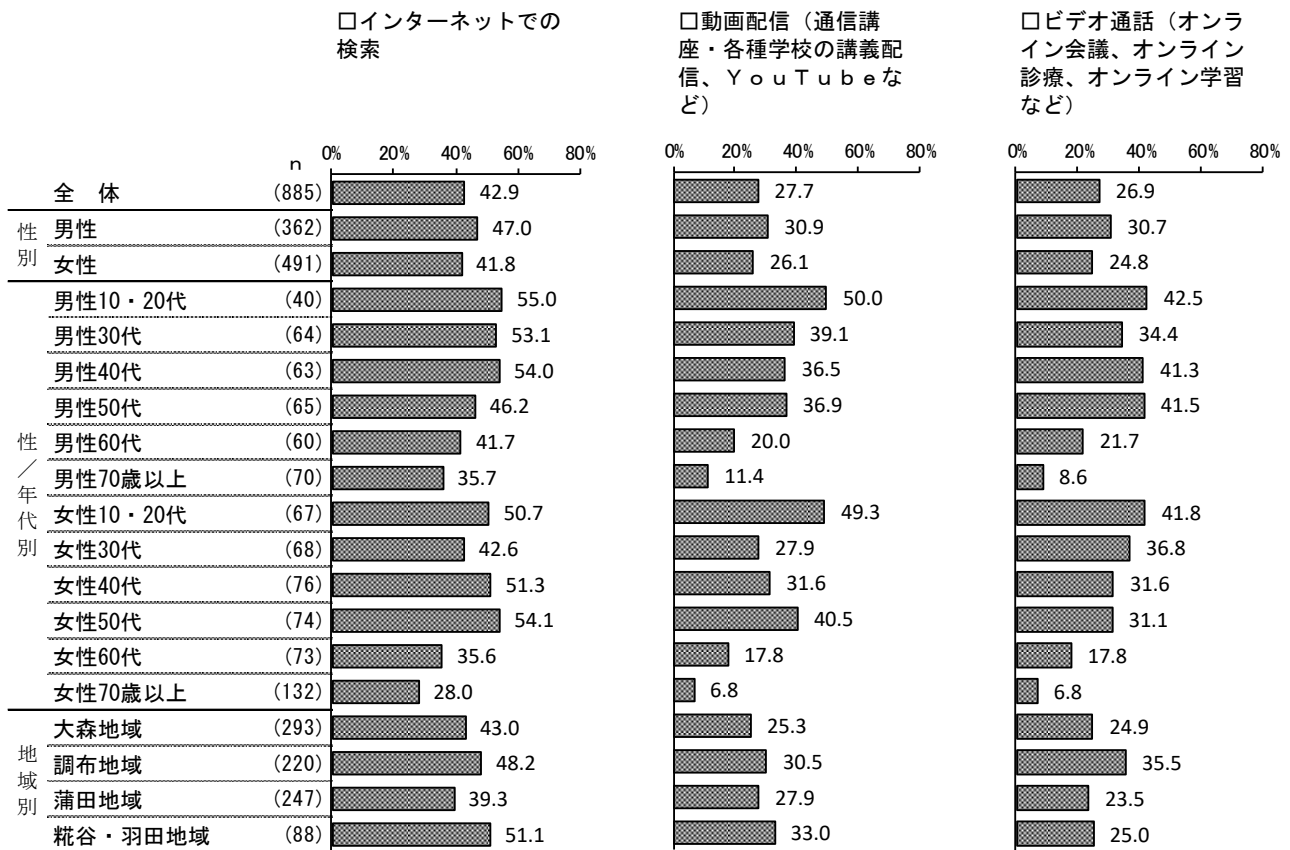
【最近1年間に生涯学習で利用した】情報端末のサービスについて聞いたところ、「インターネットでの検索」が42.9%で最も高く、次いで、「動画配信（通信講座・各種学校の講義配信、YouTubeなど）」(27.7%)、「ビデオ通話（オンライン会議、オンライン診療、オンライン学習など）」(26.9%)となっている。

一方、「特になし」は26.2%となっている。

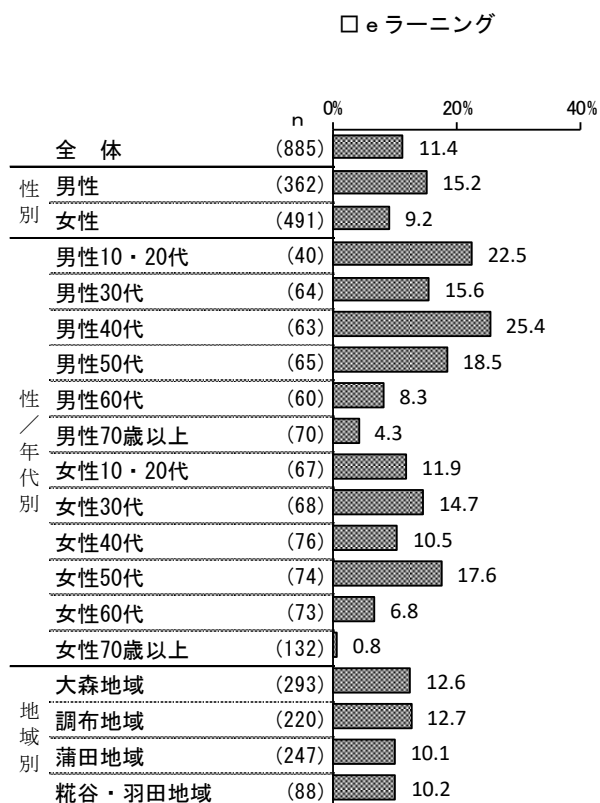
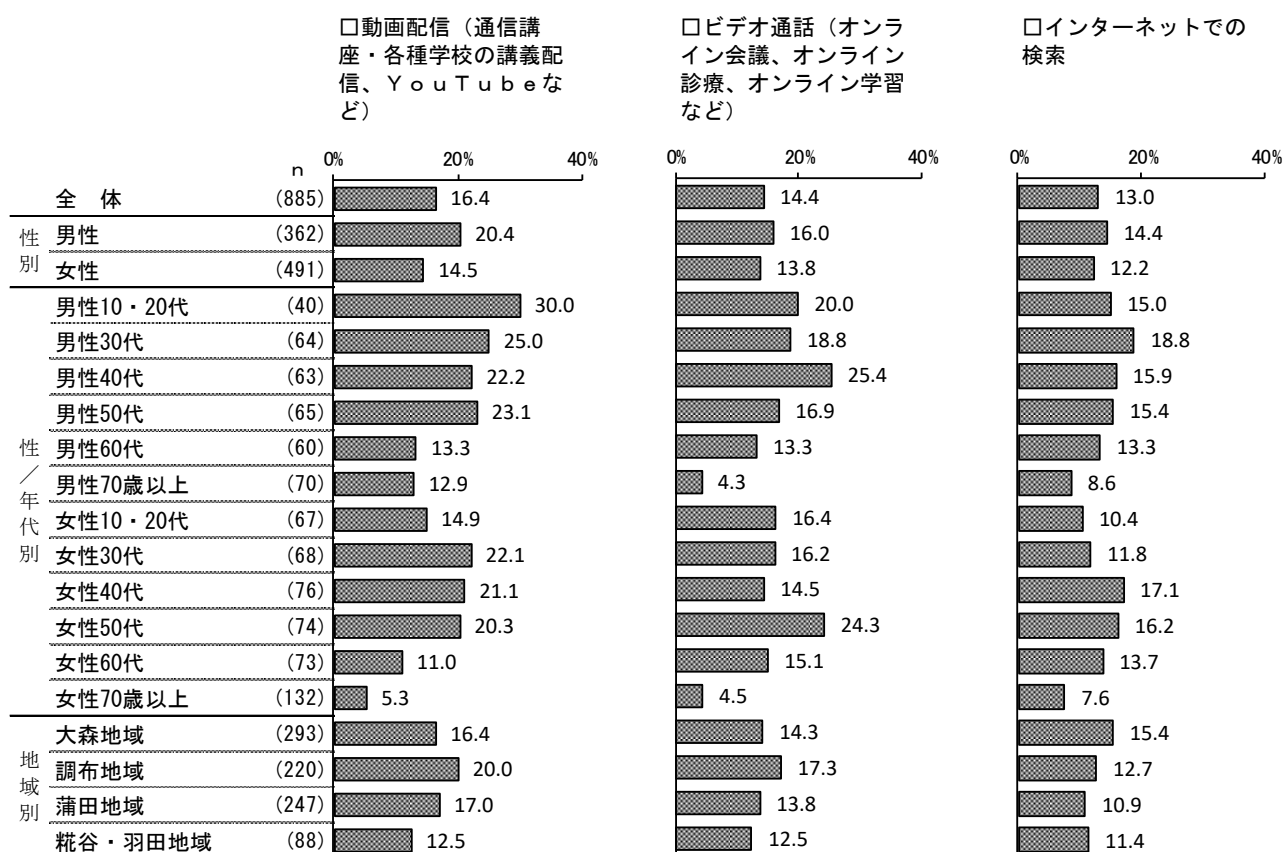
【新たに利用したい】情報端末のサービスについて聞いたところ、「動画配信（通信講座・各種学校の講義配信、YouTubeなど）」が16.4%で最も高く、次いで、「ビデオ通話（オンライン会議、オンライン診療、オンライン学習など）」(14.4%)、「インターネットでの検索」(13.0%)となっている。

一方、「特になし」は30.5%となっている。(図表4-9)

図表4-10 生涯学習での情報端末のサービスの利用（性・性／年齢別・地域別 上位4項目）



図表4-11 新たに利用したいもの（性別・性/年代別・地域別 上位4項目）



【最近1年間に生涯学習で利用した】情報端末のサービスについて、上位4項目を性別で見ると、男女ともに「インターネットでの検索」が最も高くなっている。

性/年代別で見ると、すべての性/年代で「インターネットでの検索」が最も高くなっている。男女ともに、10・20代～50代より60代、70歳以上は低い傾向がある。

地域別で見ると、すべての地域で「インターネットの検索」が最も高くなっている。(図表4-10)

【新しく利用したい】生涯学習での情報端末のサービスについて、性別で見ると、男女ともに「動画配信(通信講座・各種学校の講義配信、YouTubeなど)」が最も高くなっている。

性/年代別で見ると、女性10・20代、50代、60代では「ビデオ通話(オンライン会議、オンライン診療、オンライン学習など)」が、男性40代では「ビデオ通話(オンライン会議、オンライン診療、オンライン学習など)」と「eラーニング」が同率で最も高くなっている。その他の性/年代は「動画配信(通信講座・各種学校の講義配信、YouTubeなど)」が最も高くなっている。

地域別で見ると、糀谷・羽田地域で「動画配信(通信講座・各種学校の講義配信、YouTubeなど)」、「ビデオ通話(オンライン会議、オンライン診療、オンライン学習など)」が同率で、その他の地域では「ビデオ通話(オンライン会議、オンライン診療、オンライン学習など)」が最も高くなっている。(図表4-11)

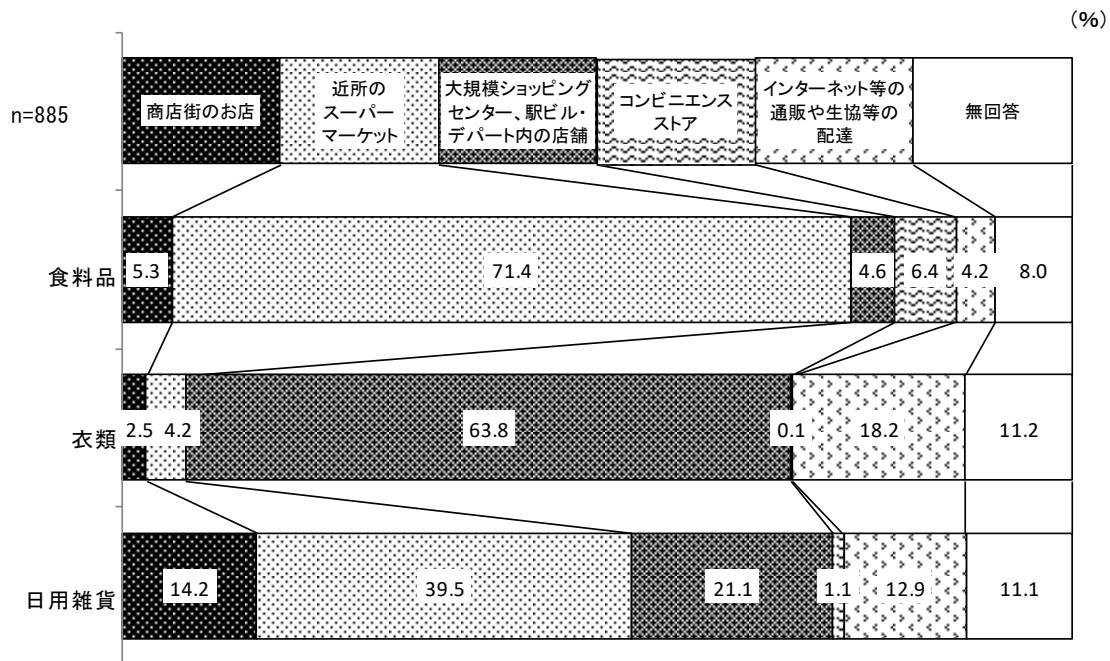
5 商店街について

(1) 普段の買い物で利用するお店

◎食料品は「近所のスーパーマーケット」が約7割、衣類は「大規模ショッピングセンター等」が6割前半、日用雑貨は「近所のスーパーマーケット」が約4割で、それぞれ最もよく利用されている

問8 あなたが普段の買い物で利用するのはどのようなお店ですか。項目ごとに最も多く利用する業態と、その理由をそれぞれ選択肢から1つ選んで番号を記入してください。

図表5-1 普段の買い物で利用するお店（業態）

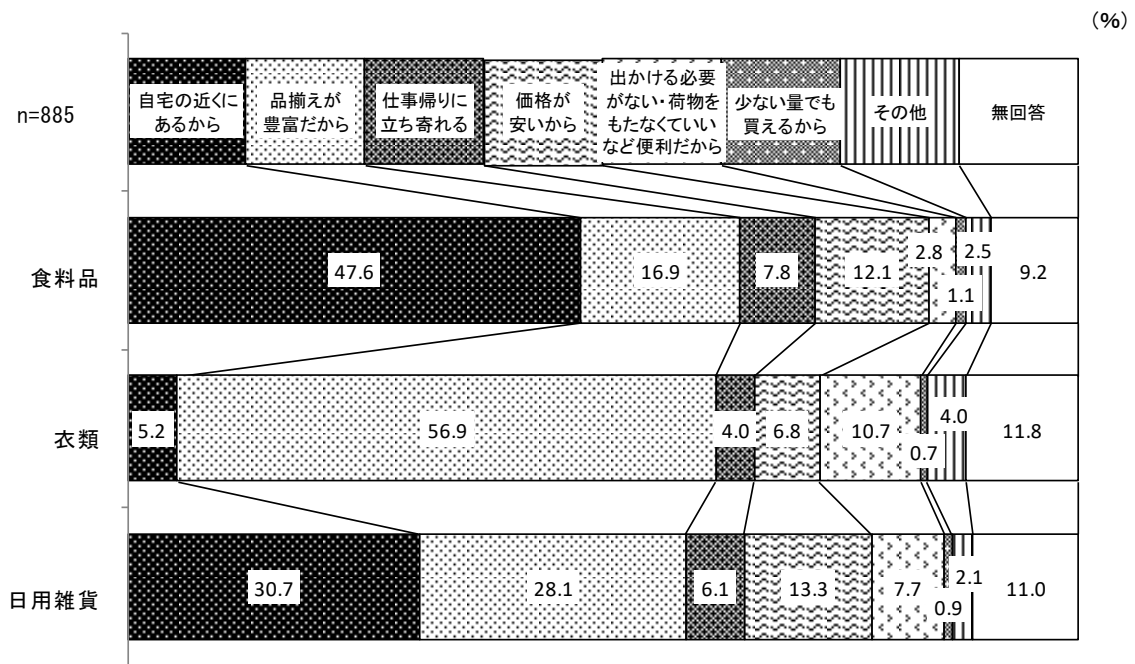


【食料品】を購入する際、普段の買い物で利用するお店の業態について聞いたところ、「近所のスーパーマーケット」が71.4%で最も高く、次いで、「コンビニエンスストア」(6.4%)、「商店街のお店」(5.3%)となっている。

【衣類】を購入する際、普段の買い物で利用するお店の業態について聞いたところ、「大規模ショッピングセンター、駅ビル・デパート内の店舗」が63.8%で最も高く、次いで、「インターネット等の通販や生協等の配達」(18.2%)、「近所のスーパーマーケット」(4.2%)となっている。

【日用雑貨】を購入する際、普段の買い物で利用するお店の業態について聞いたところ、「近所のスーパーマーケット」が39.5%で最も高く、次いで、「大規模ショッピングセンター、駅ビル・デパート内の店舗」(21.1%)、「商店街のお店」(14.2%)となっている。(図表5-1)

図表5-2 普段の買い物で利用するお店（理由）



【食料品】を購入する際、普段の買い物で利用するお店を選ぶ理由について聞いたところ、「自宅の近くにあるから」が47.6%で最も高く、次いで、「品揃えが豊富だから」(16.9%)、「価格が安いから」(12.1%)となっている。

【衣類】を購入する際、普段の買い物で利用するお店を選ぶ理由について聞いたところ、「品揃えが豊富だから」が56.9%で最も高く、次いで、「出かける必要がない・荷物をもたなくていいなど便利だから」(10.7%)、「価格が安いから」(6.8%)となっている。

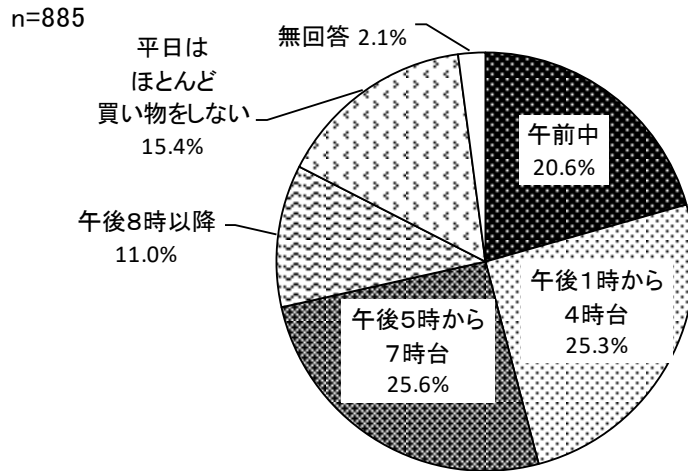
【日用雑貨】を購入する際、普段の買い物で利用するお店を選ぶ理由について聞いたところ、「自宅の近くにあるから」が30.7%で最も高く、次いで、「品揃えが豊富だから」(28.1%)、「価格が安いから」(13.3%)となっている。(図表5-2)

(2) 買い物をする時間帯について

◎「午後5時から7時台」、「午後1時から4時台」が2割半ばとなっている

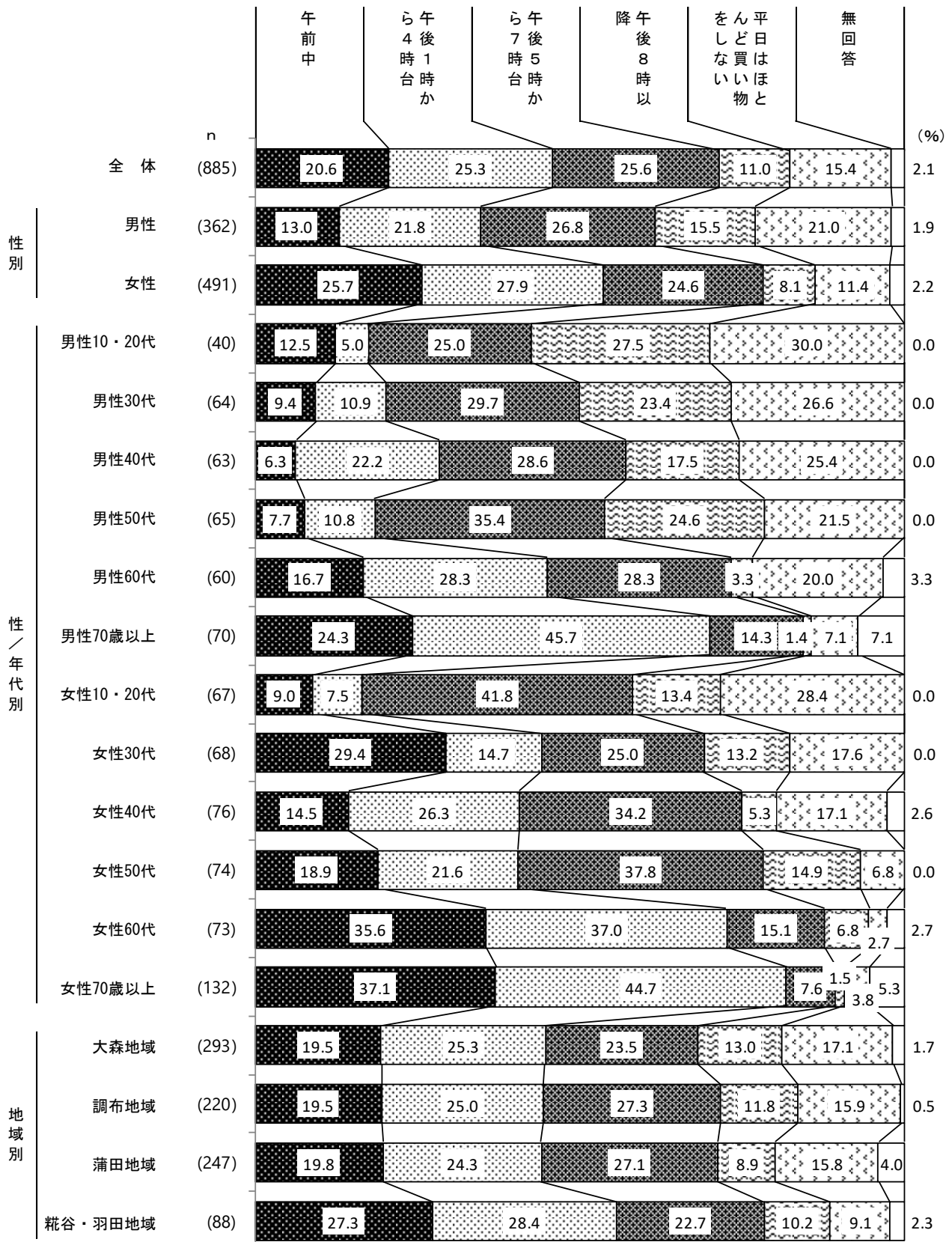
問9 平日に食料品の買い物をする時間帯はどれですか。最も多いものを選んでください。(○は1つ)

図表5-3 買い物をする時間帯について



食料品や日用品の買い物をする時間帯を聞いたところ、「午後5時から7時台」が25.6%で最も高く、次いで、「午後1時から4時台」(25.3%)、「午前中」(20.6%)となっている。(図表5-3)

図表5-4 買い物をする時間帯について（性別・性/年代別・地域別）



買い物をする時間帯について、性別で見ると、男性は「午後5時から7時台」(26.8%)が、女性は「午後1時から4時台」(27.9%)が最も高くなっている。「午前中」は女性(25.7%)が男性(13.0%)を12.7ポイント、「平日はほとんど買い物をしない」は男性(21.0%)が女性(11.4%)を9.6ポイント上回っている。

性/年代別で見ると、男性では30代~50代は「午後5時から7時台」が、70歳以上は「午後1時から4時台」が最も高くなっている。60代は「午後5時から7時台」、「午後1時から4時台」が同率で、10・20代は「平日はほとんど買い物をしない」が最も高くなっている。女性では10・20代、40代、50代は「午後5時から7時台」が、60代、70歳以上では「午後1時から4時台」が、30代では「午前中」が最も高くなっている。

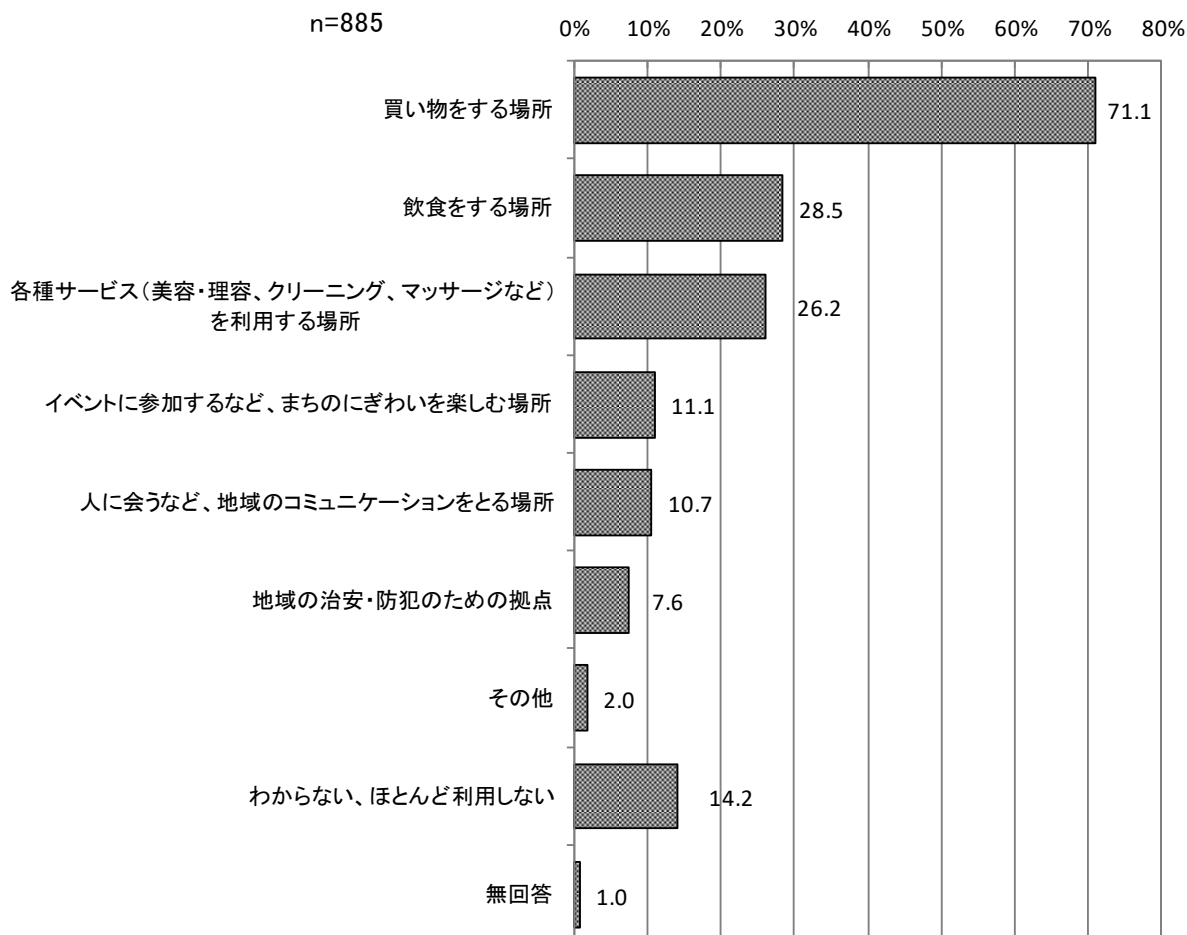
地域別で見ると、大森地域、糀谷・羽田地域では「午後1時から4時台」が、調布地域、蒲田地域では「午後5時から7時台」が最も高くなっている。(図表5-4)

(3) 商店街への印象

◎「買い物をする場所」が約7割で最も高くなっている

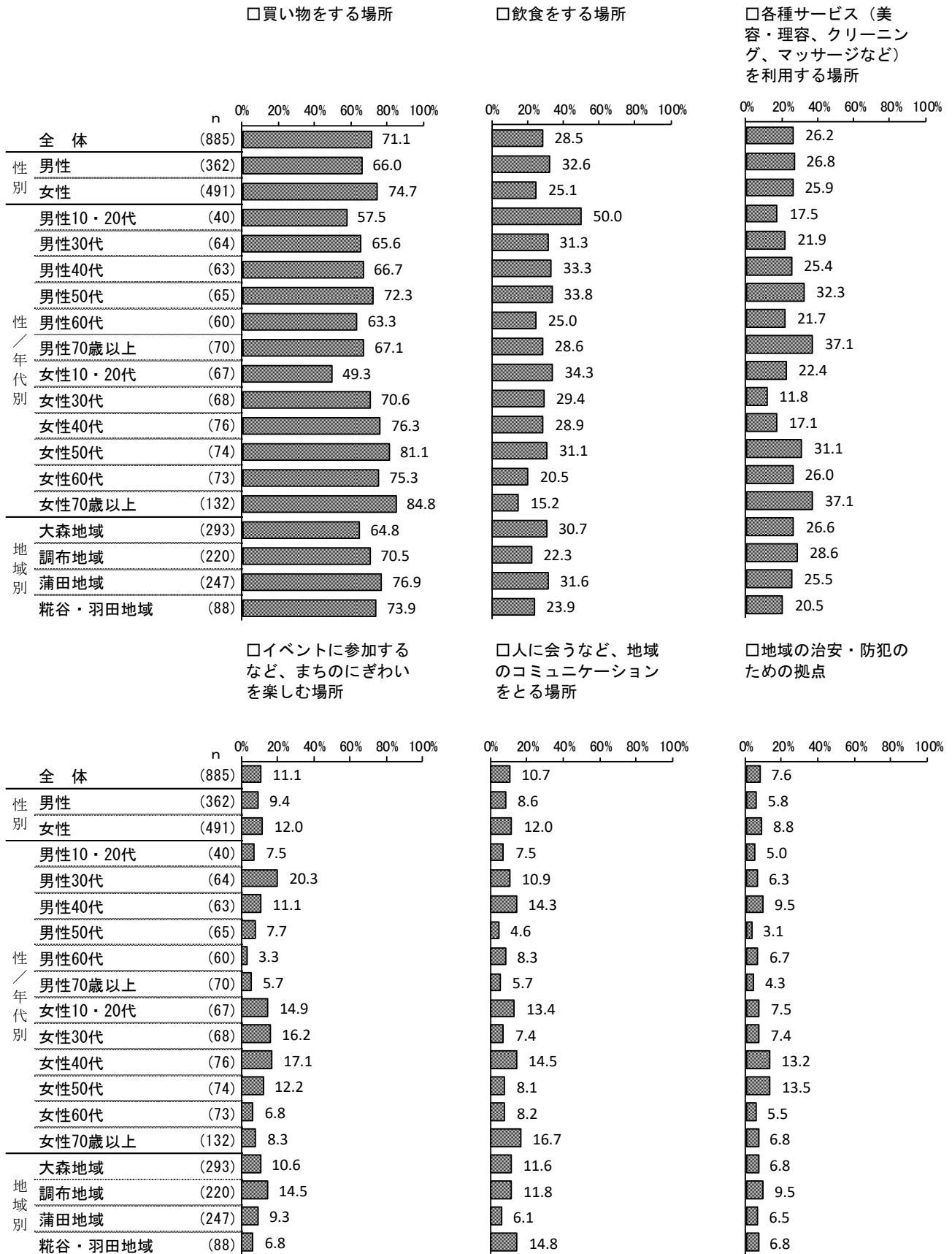
問10 あなたにとって、商店街はどのような場所ですか。お考えの近いものを選んでください。
(○はいくつでも)

図表5-5 商店街への印象



商店街への印象について聞いたところ、「買い物をする場所」が71.1%で最も高く、次いで、「飲食をする場所」(28.5%)、「各種サービス(美容・理容、クリーニング、マッサージなど)を利用する場所」(26.2%)などとなっている。(図表5-5)

図表5-6 商店街への印象（性別・性/年代別・地域別 上位6項目）



商店街への印象について、上位6項目を性別で見ると、男女ともに「買い物をする場所」が最も高くなっている。

性／年代別で見ると、すべての性／年代で「買い物をする場所」が最も高くなっている。男性10・20代で「飲食をする場所」が5割となっている。

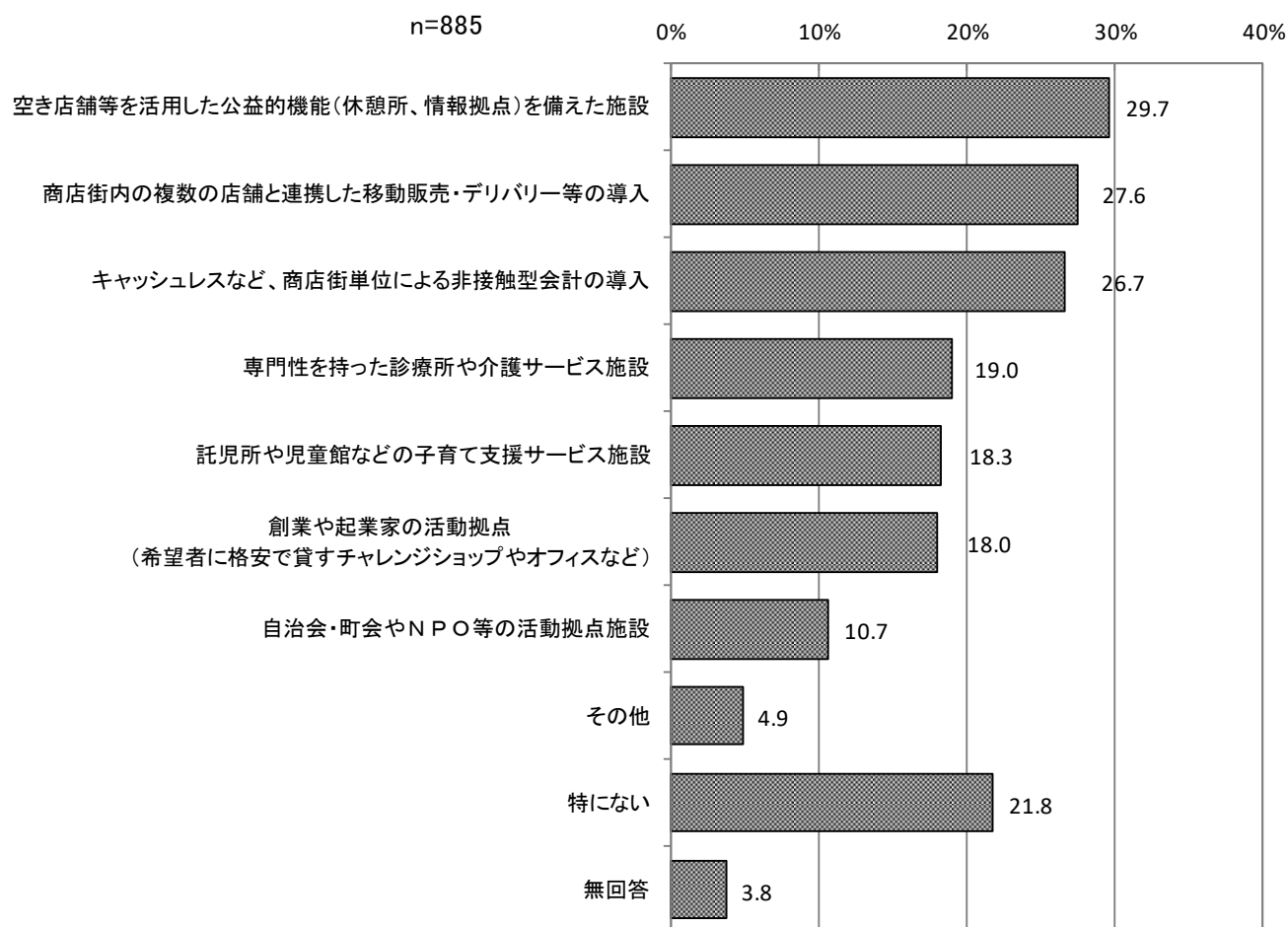
地域別で見ると、すべての地域で「買い物をする場所」が最も高くなっている。(図表5-6)

(4) 商店街に必要だと思うサービス・施設等

◎「空き店舗等を活用した公益的機能（休憩所、情報拠点）を備えた施設」が約3割で最も高い

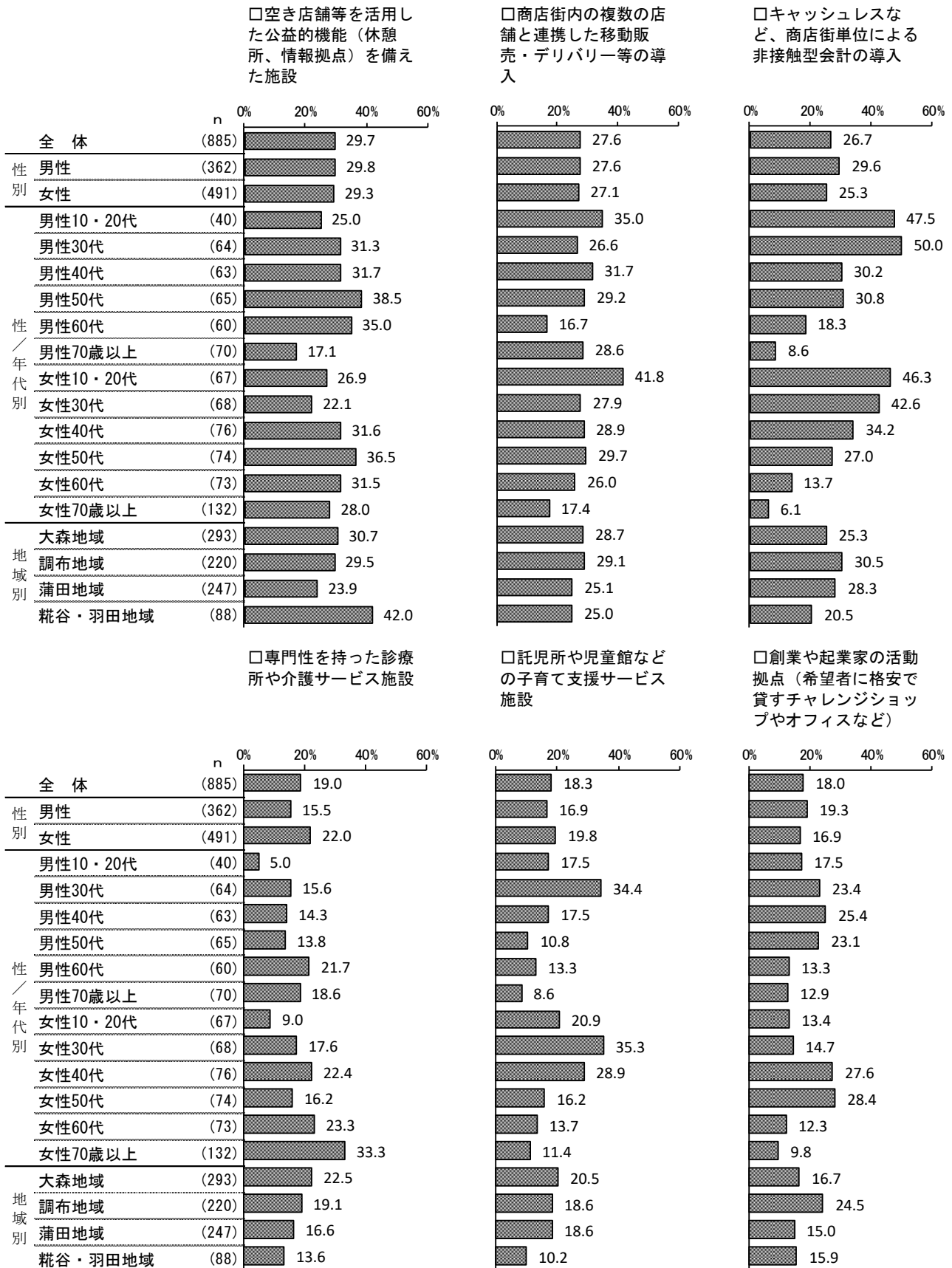
問 11 あなたが商店街に必要だと思うサービスや施設等は何ですか。（〇はいくつでも）

図表5-7 商店街に必要だと思うサービス・施設等



商店街に必要だと思うサービス・施設等について聞いたところ、「空き店舗等を活用した公益的機能（休憩所、情報拠点）を備えた施設」が29.7%で最も高く、次いで、「商店街内の複数の店舗と連携した移動販売・デリバリー等の導入」(27.6%)、「キャッシュレスなど、商店街単位による非接触型会計の導入」(26.7%)となっている。(図表5-7)

図表5-8 商店街に必要なと思うサービス・施設等（性別・性/年代別・地域別 上位6項目）



商店街に必要なと思うサービスや施設等について、上位6項目を性別で見ると、男女ともに「空き店舗等を活用した公益的機能（休憩所、情報拠点）を備えた施設」が最も高くなっている。

性／年代別で見ると、男性10・20代、30代、女性10・20代、30代、40代で「キャッシュレスなど、商店街単位による非接触型会計の導入」が最も高くなっている。男性30代、女性30代、40代で「託児所や児童館などの子育て支援サービス施設」がその他の性／年代より高くなっている。

地域別で見ると、大森地域、糀谷・羽田地域では「空き店舗等を活用した公益的機能（休憩所、情報拠点）を備えた施設」が、調布地域、蒲田地域では「キャッシュレスなど、商店街単位による非接触型会計の導入」が最も高くなっている。（図表5－8）

6 蒲田駅周辺地区グランドデザインについて

(1) 蒲田のまちづくりのために整備が必要なもの

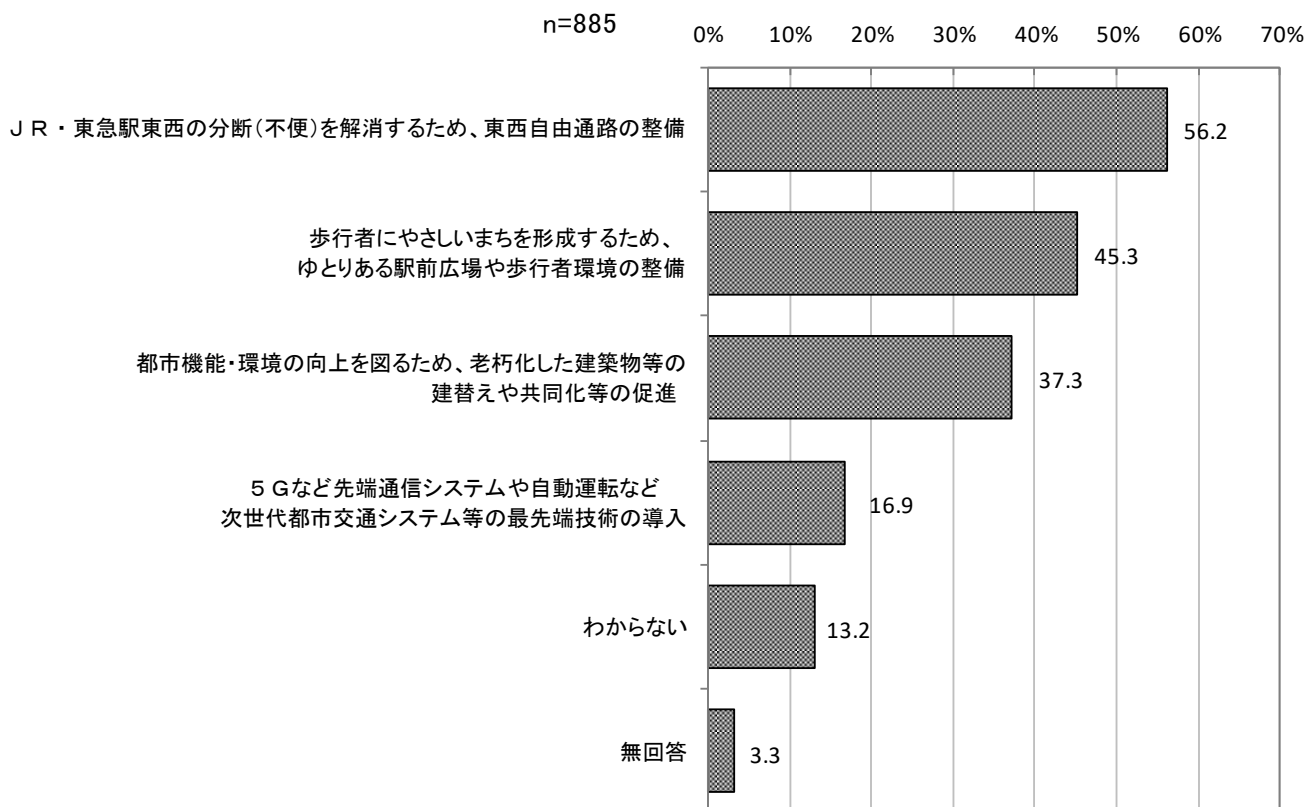
◎「JR・東急駅東西の分断（不便）を解消するため、東西自由通路の整備」が5割半ばで最も高い

問12 蒲田のまちづくりを進めるに当たり、整備が必要と考えるものを選んでください。

(○はいくつでも)

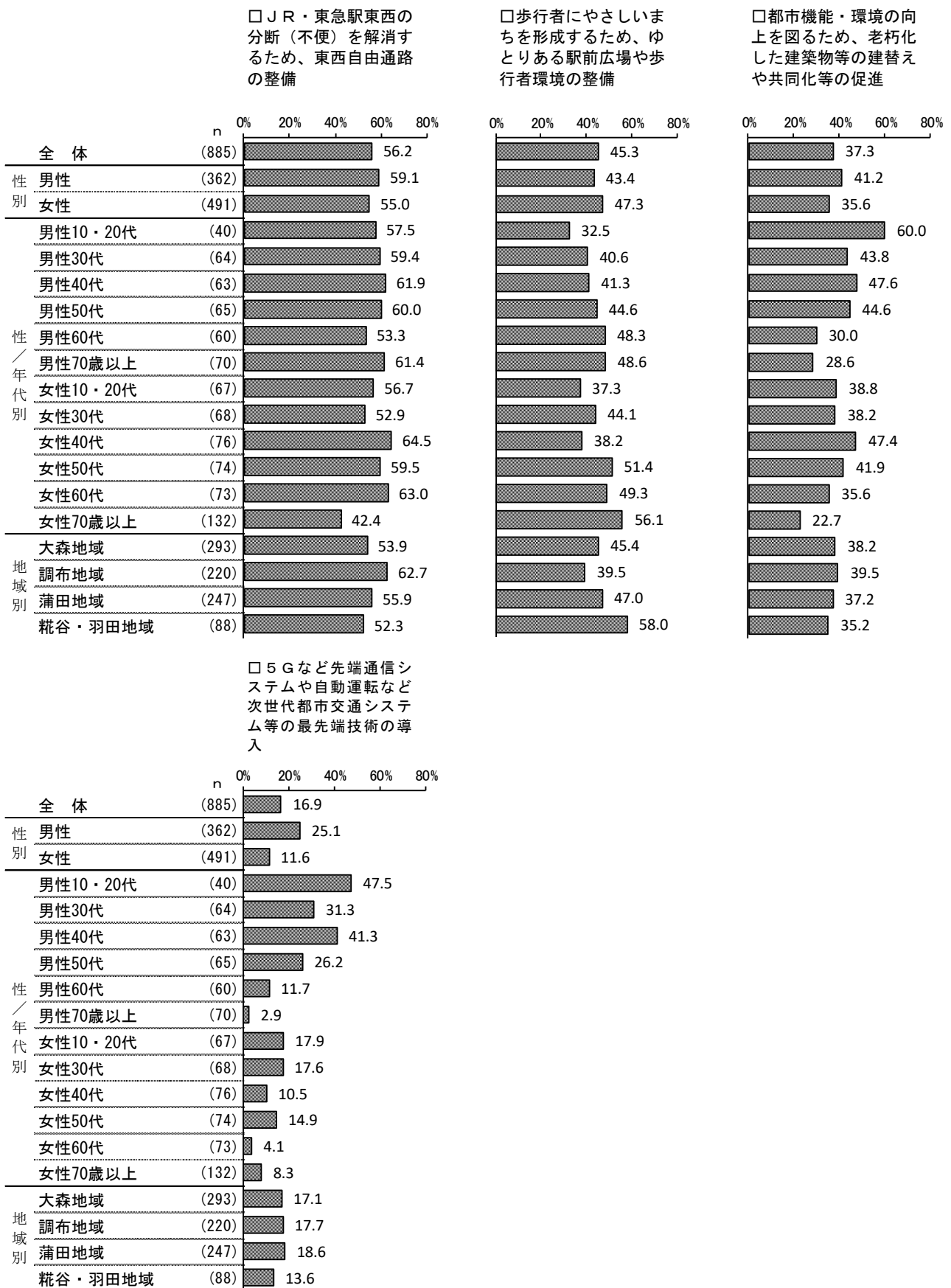
※蒲田のまちは、戦災復興の土地区画整理事業により形成されました。事業完成から約50年が経過し、現在建物などが更新時期を迎えていることから、新空港線と合わせてまちづくりを行う必要があります。

図表6-1 蒲田のまちづくりのために整備が必要なもの



蒲田のまちづくりのために整備が必要なものについて聞いたところ、「JR・東急駅東西の分断（不便）を解消するため、東西自由通路の整備」が56.2%で最も高く、次いで、「歩行者にやさしいまちを形成するため、ゆとりある駅前広場や歩行者環境の整備」（45.3%）、「都市機能・環境の向上を図るため、老朽化した建築物等の建替えや共同化等の促進」（37.3%）となっている。（図表6-1）

図表6-2 蒲田のまちづくりのために整備が必要なもの（性別・性／年代別・地域別 上位4項目）



蒲田のまちづくりのために整備が必要なものについて、性別で見ると男女ともに「J R・東急駅東西の分断（不便）を解消するため、東西自由通路の整備」が最も高くなっている。「5 Gなど先端通信システムや自動運転などの次世代都市交通システム等の最先端技術の導入」は男性（25.1%）が女性（11.6%）を13.5ポイント上回っている。

性／年代別で見ると、男性10・20代で「都市機能・環境の向上を図るため、老朽化した建築物等の建替えや共同化等の促進」が、その他の性／年代では「J R・東急駅東西の分断（不便）を解消するため、東西自由通路の整備」が最も高くなっている。

地域別で見ると、糀谷・羽田地域は「歩行者にやさしいまちを形成するため、ゆとりある駅前広場や歩行者環境の整備」が、その他の地域では「J R・東急駅東西の分断（不便）を解消するため、東西自由通路の整備」が最も高くなっている。（図表6－2）

7 蒲蒲線について

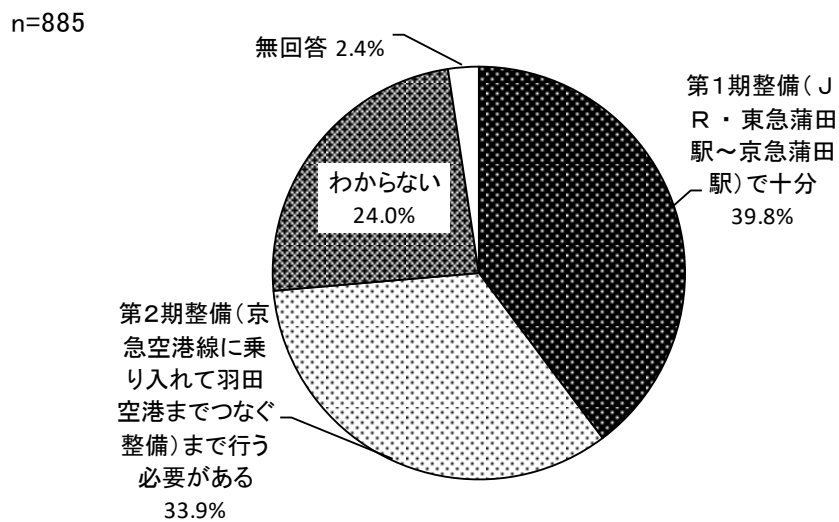
(1) 蒲蒲線について

◎「第1期整備（JR・東急蒲田駅～京急蒲田駅）で十分」が約4割となっている

問13 JR・東急蒲田駅と京急蒲田駅を結ぶ新空港線（蒲蒲線）の構想について、あなたの考えに最も近いものを選択してください。（○は1つ）

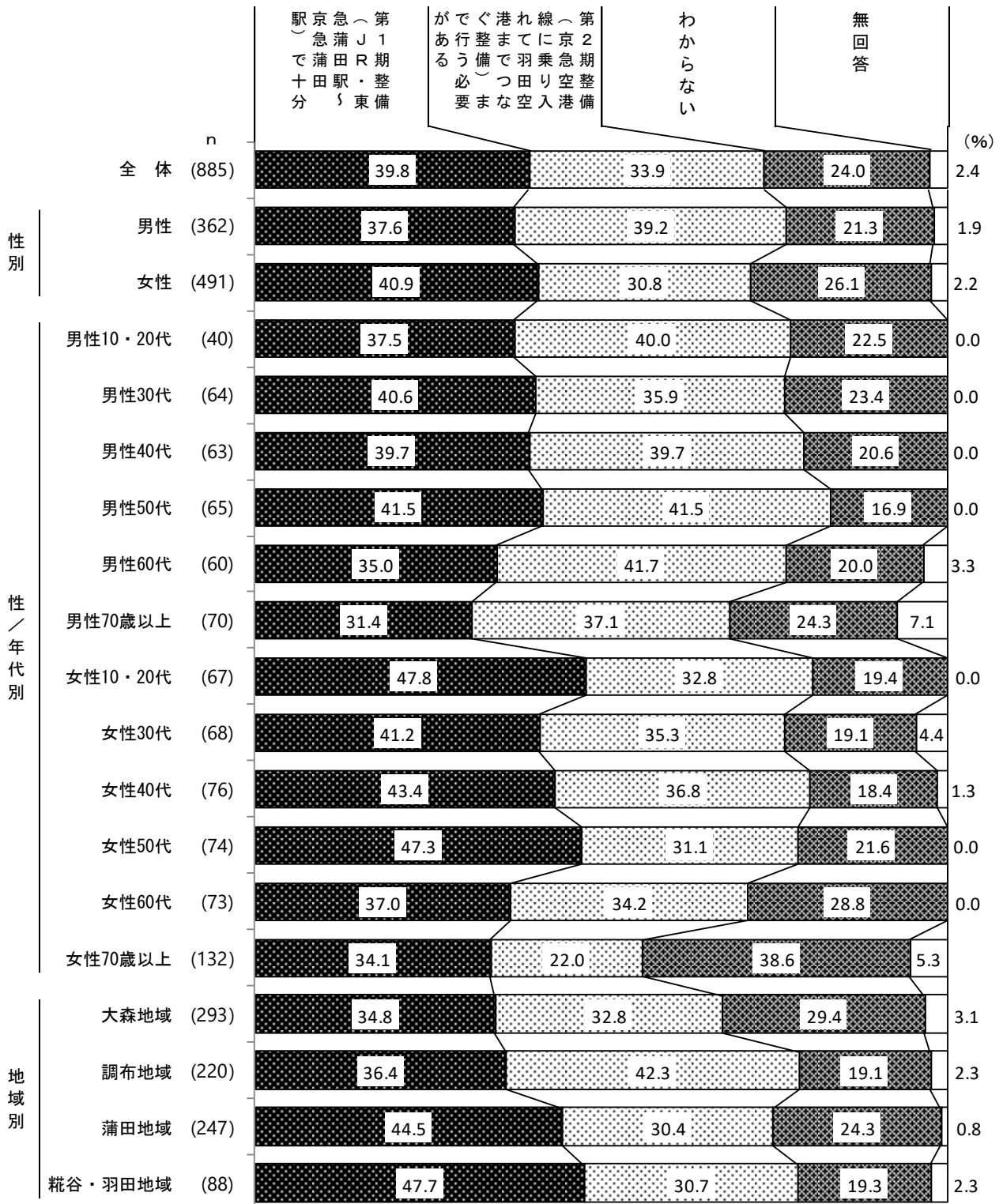
※新空港線（蒲蒲線）の構想は、JR・東急蒲田駅と京急蒲田駅をつなぐ第1期整備と、その後の京急蒲田駅から京急空港線に乗り入れる第2期整備との2段階に分かれています。新空港線（蒲蒲線）は、現在、第1期整備の実現に取り組んでいます。第1期整備のみの場合、羽田空港へ行く時は京急蒲田駅で京急空港線に乗り換える必要があります。第2期整備まで行う場合、東急線と京急線のレール幅の違いなどの課題があり、実現までに更なる整備費用と時間が掛かりますが、京急蒲田駅で乗り換える必要がありません。

図表7-1 蒲蒲線について



蒲蒲線の構想について聞いたところ、「第1期整備（JR・東急蒲田駅～京急蒲田駅）で十分」が39.8%で最も高く、「第2期整備（京急空港線に乗り入れて羽田空港までつなぐ整備）まで行う必要がある」が33.9%、「わからない」が24.0%となっている。（図表7-1）

図表7-2 蒲蒲線について（性別・性/年代別・地域別）



蒲蒲線について性別でみると、女性は「第1期整備（J R・東急蒲田駅～京急蒲田駅）で十分」（40.9%）が、男性は「第2期整備（京急空港線に乗り入れて羽田空港までつなぐ整備）まで行う必要がある」（39.2%）が最も高くなっている。

性／年代でみると、男性30代で「第1期整備（J R・東急蒲田駅～京急蒲田駅）で十分」が、10・20代、60代、70歳以上では「第2期整備（京急空港線に乗り入れて羽田空港までつなぐ整備）まで行う必要がある」が最も高く、40代、50代では同率となっている。女性では70歳以上を除くすべての年代で「第1期整備（J R・東急蒲田駅～京急蒲田駅）で十分」が最も高くなっている。

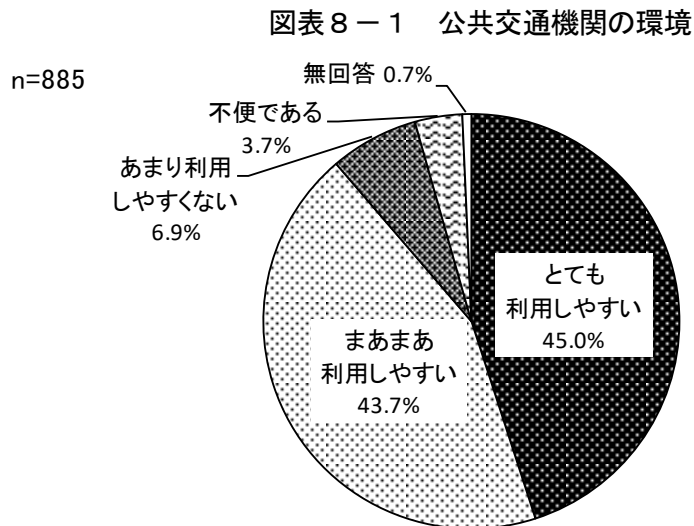
地域別でみると、調布地域では「第2期整備（京急空港線に乗り入れて羽田空港までつなぐ整備）まで行う必要がある」が、その他の地域では「第1期整備（J R・東急蒲田駅～京急蒲田駅）で十分」が最も高くなっている。（図表7-2）

8 公共交通機関について

(1) 公共交通機関の環境

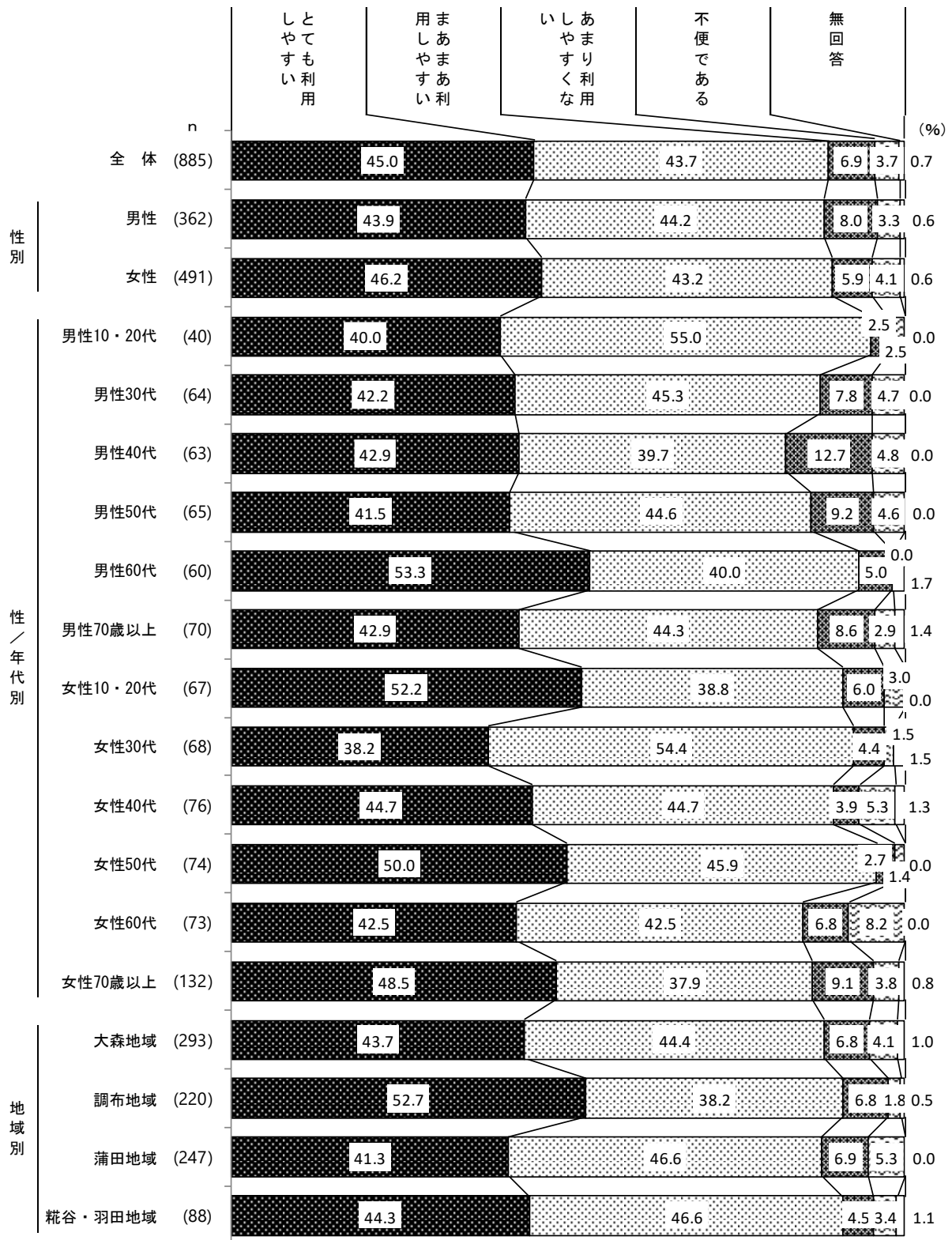
◎「とても利用しやすい」が4割半ばとなっている

問 14 自宅の近くにバス停や駅があるなど、公共交通機関が利用しやすい環境ですか。(○は1つ)



自宅近くの公共交通機関の環境について聞いたところ、「とても利用しやすい」が45.0%で最も高く、次いで、「まあまあ利用しやすい」(43.7%)、「あまり利用しにくい」(6.9%)、「不便である」(3.7%)となっている。(図表8-1)

図表 8-2 公共交通機関の環境（性別・性／年代別・地域別）



公共交通機関の環境について、性別でみると大きな差異は見られない。

性／年代別でみると、「とても利用しやすい」は男性60代、女性10・20代、50代で5割台となっている。

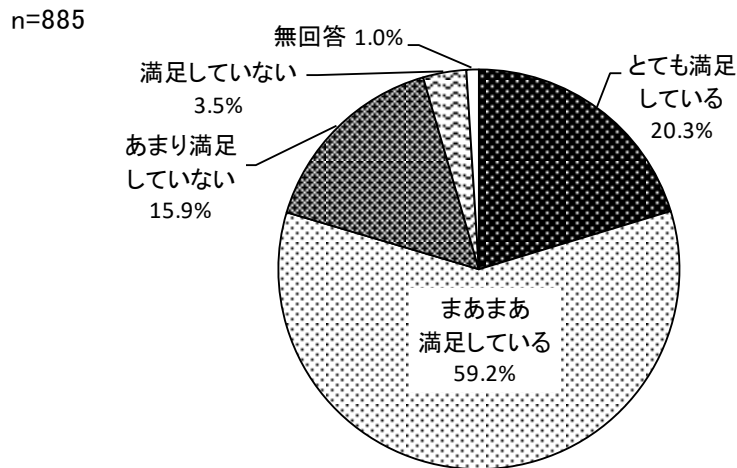
地域別でみると、「とても利用しやすい」は調布地域で52.7%となっている。(図表8-2)

(2) 大田区の公共交通網の満足度

◎「まあまあ満足している」が約6割で最も高くなっている

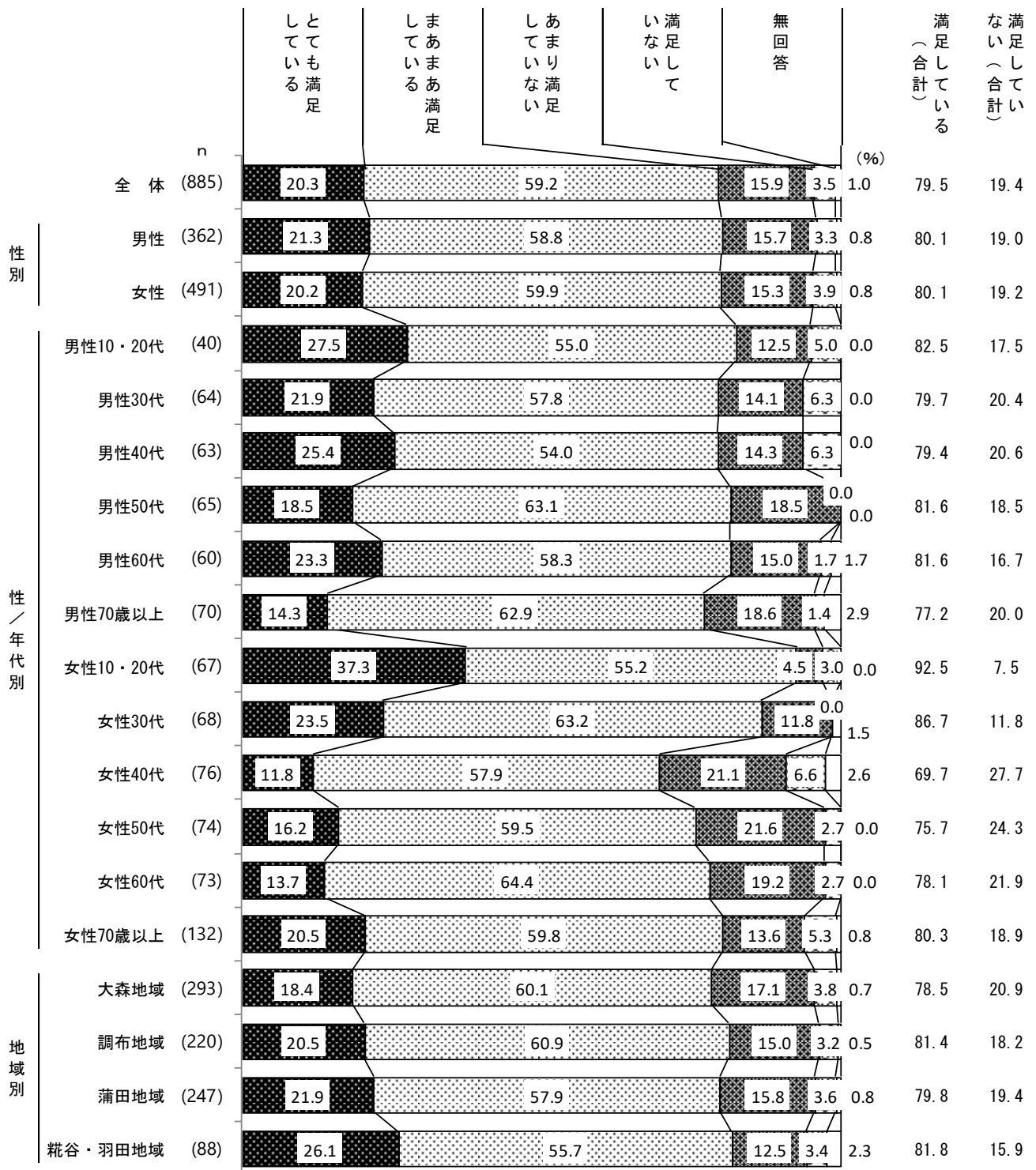
問 15 大田区内の公共交通網に満足していますか。(○は1つ)

図表 8 - 3 大田区の公共交通網の満足度



大田区の公共交通網の満足度について聞いたところ、「まあまあ満足している」が59.2%で最も高く、「とても満足している」(20.3%)と合わせた《満足している(合計)》は79.5%となっている。「あまり満足していない」(15.9%)、「満足していない」(3.5%)を合わせた《満足していない(合計)》は19.4%となっている。(図表8-3)

図表 8-4 大田区の公共交通網の満足度（性別・性/年代別・地域別）



大田区の公共交通網への満足度について、性別で見ると大きな差異は見られなかった。性/年代別で見ると、「とても満足している」は女性10・20代が37.3%でその他の性/年代より高くなっている。

地域別で見ると、「満足している (合計)」はすべての地域で7割後半以上となっている。

(図表 8-4)

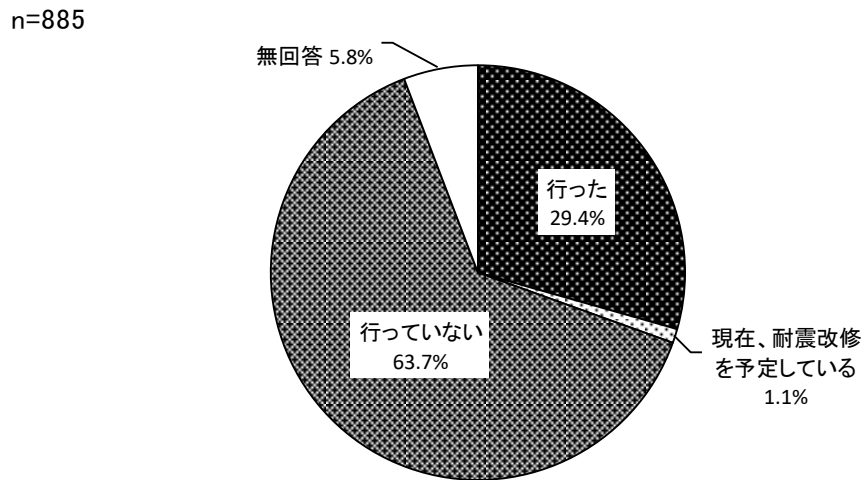
9 耐震改修について

(1) 住まいや所有建築物の耐震改修状況

◎「行った」は約3割となっている

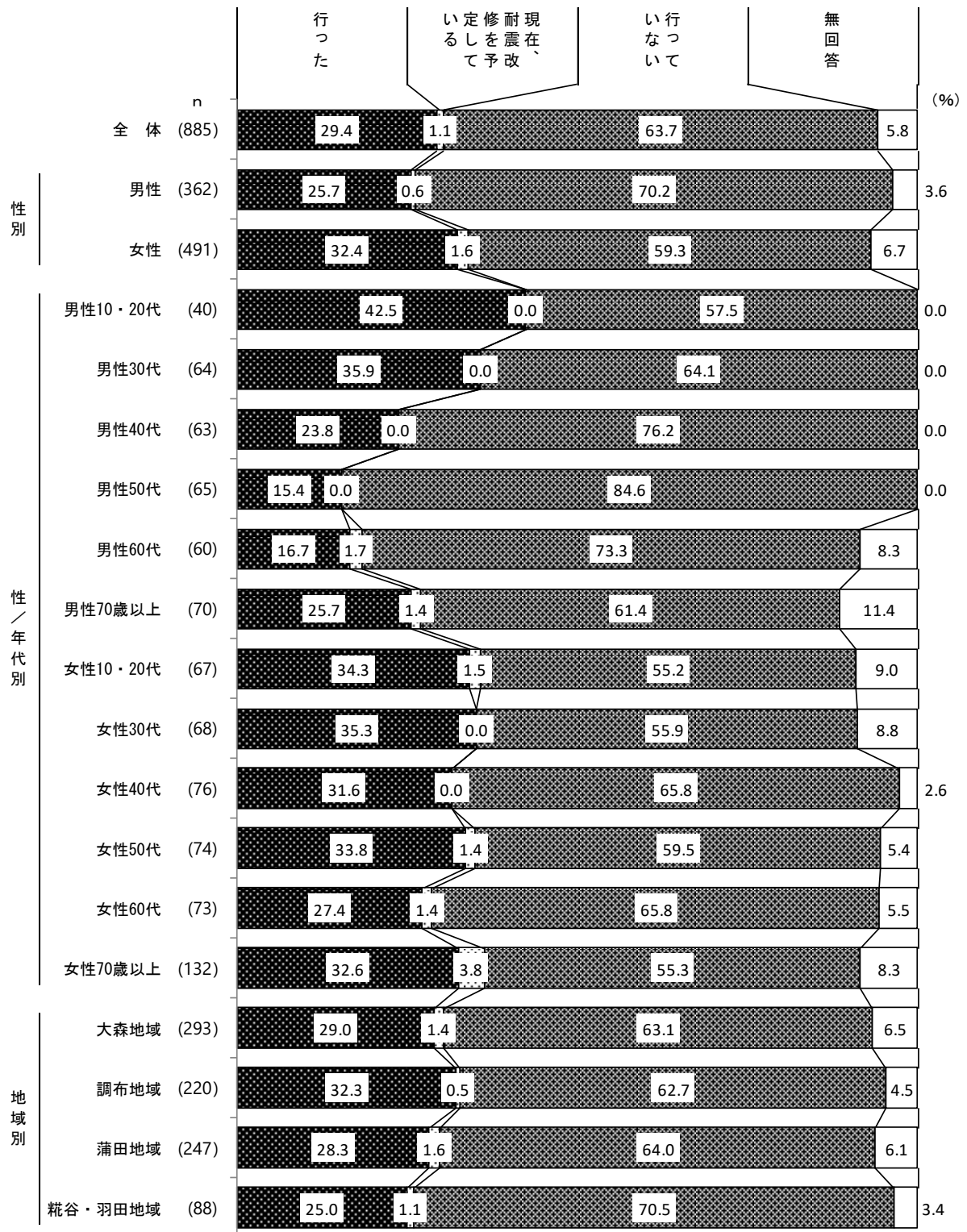
問16 あなたは、現在のお住まいや所有している建物の耐震改修を行いましたか。(〇は1つ)

図表9-1 住まいや所有建築物の耐震改修状況



住まいや所有建築物の耐震改修状況について聞いたところ、「行った」が29.4%、「行っていない」が63.7%となっている。(図表9-1)

図表 9-2 住まいや所有建築物の耐震改修状況（性別・性／年代別・地域別）



住まいや所有建築物の耐震改修状況を性別でみると、「行った」は女性（32.4%）が男性（25.7%）を6.7ポイント上回っている。

性／年代別でみると、「行った」は男性50代、60代で1割半ばと、その他の性／年代より低くなっている。

地域別でみると、「行った」は調布地域で3割前半、その他の地域では2割台となっている。（図表9-2）

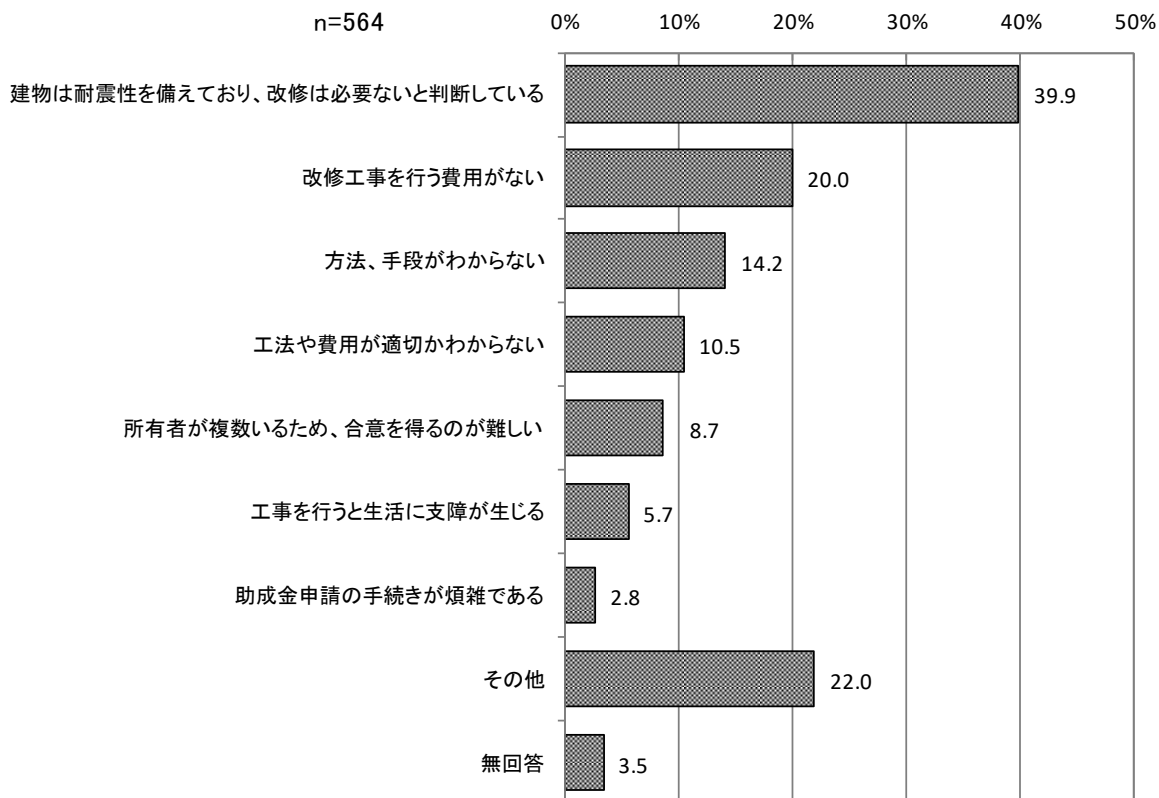
(2) 耐震改修を行わない理由

◎「建物は耐震性を備えており、改修は必要ないと判断している」が約4割で最も高くなっている

【問16で「3. 行っていない」と回答された方】

問16-1 耐震改修を行っていない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

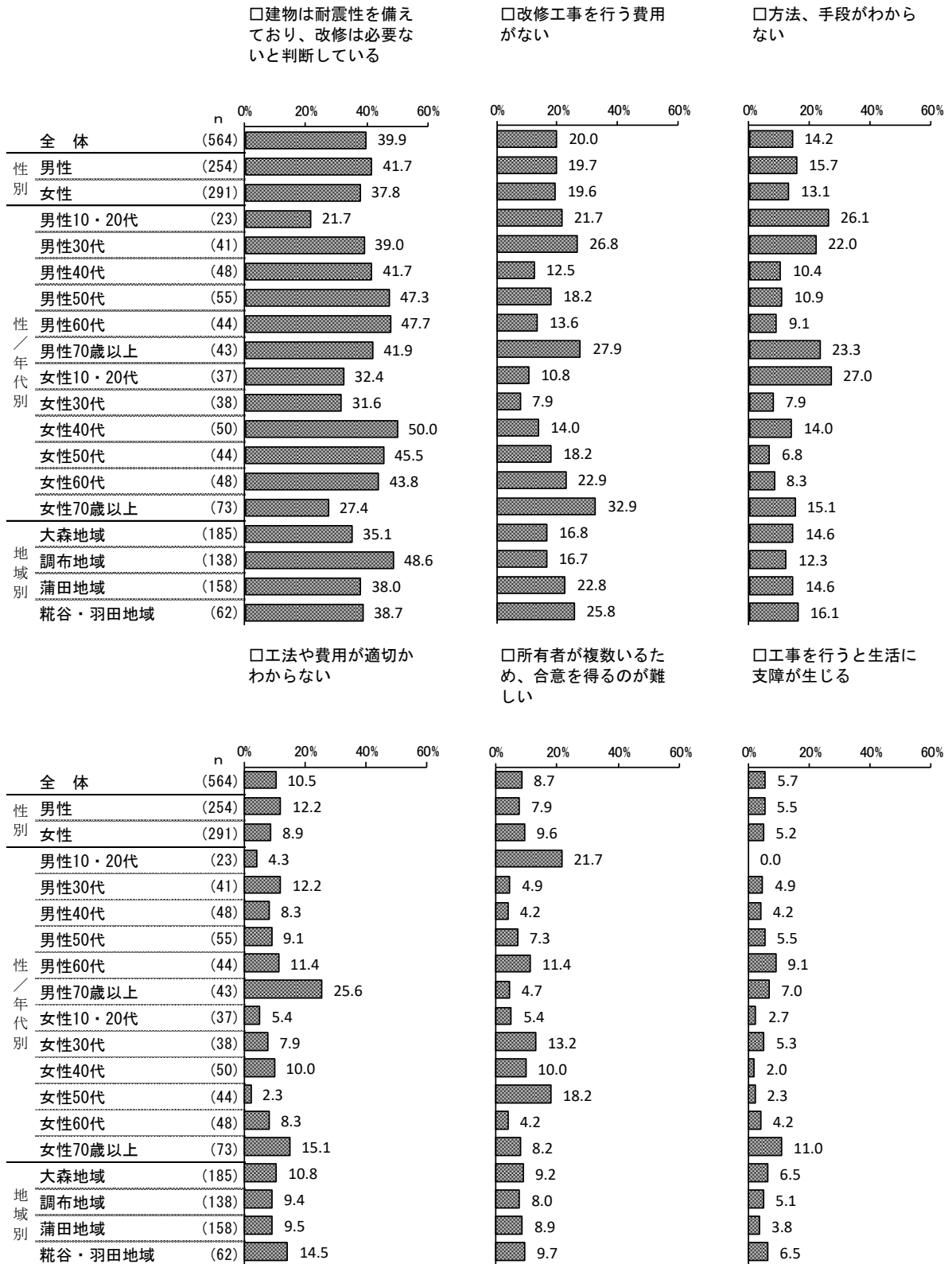
図表9-3 耐震改修を行わない理由



建物の耐震改修を行っていない人にその理由を聞いたところ、「建物は耐震性を備えており、改修は必要ないと判断している」が39.9%で最も高く、次いで、「改修工事を行う費用がない」(20.0%)、「方法、手段がわからない」(14.2%)となっている。

また、「その他」(22.0%)の回答の8割以上が『賃貸住宅』または『集合住宅』のためとなっている。(図表9-3)

図表9-4 耐震改修を行わない理由（性別・性/年代別・地域別 上位6項目）



耐震改修を行わない理由について、上位6項目を性別で見ると、男女ともに「建物は耐震性を備えており、改修は必要ないと判断している」が最も高くなっている。

性／年代別で見ると、女性70歳以上で「改修工事を行う費用がない」が、男性10・20代で「方法、手段がわからない」が最も高くなっている。その他の性／年代では「建物は耐震性を備えており、改修は必要ないと判断している」が最も高くなっている。

地域別で見ると、すべての地域で「建物は耐震性を備えており、改修は必要ないと判断している」が最も高く、調布地域では4割後半となっている。(図表9-4)

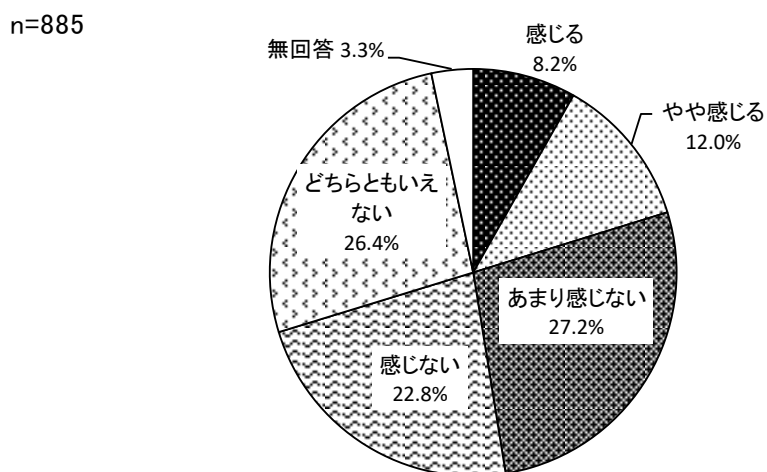
10 空港臨海部について

(1) 空港臨海部へのアクセスについて

◎「あまり感じない」が2割後半で最も高くなっている

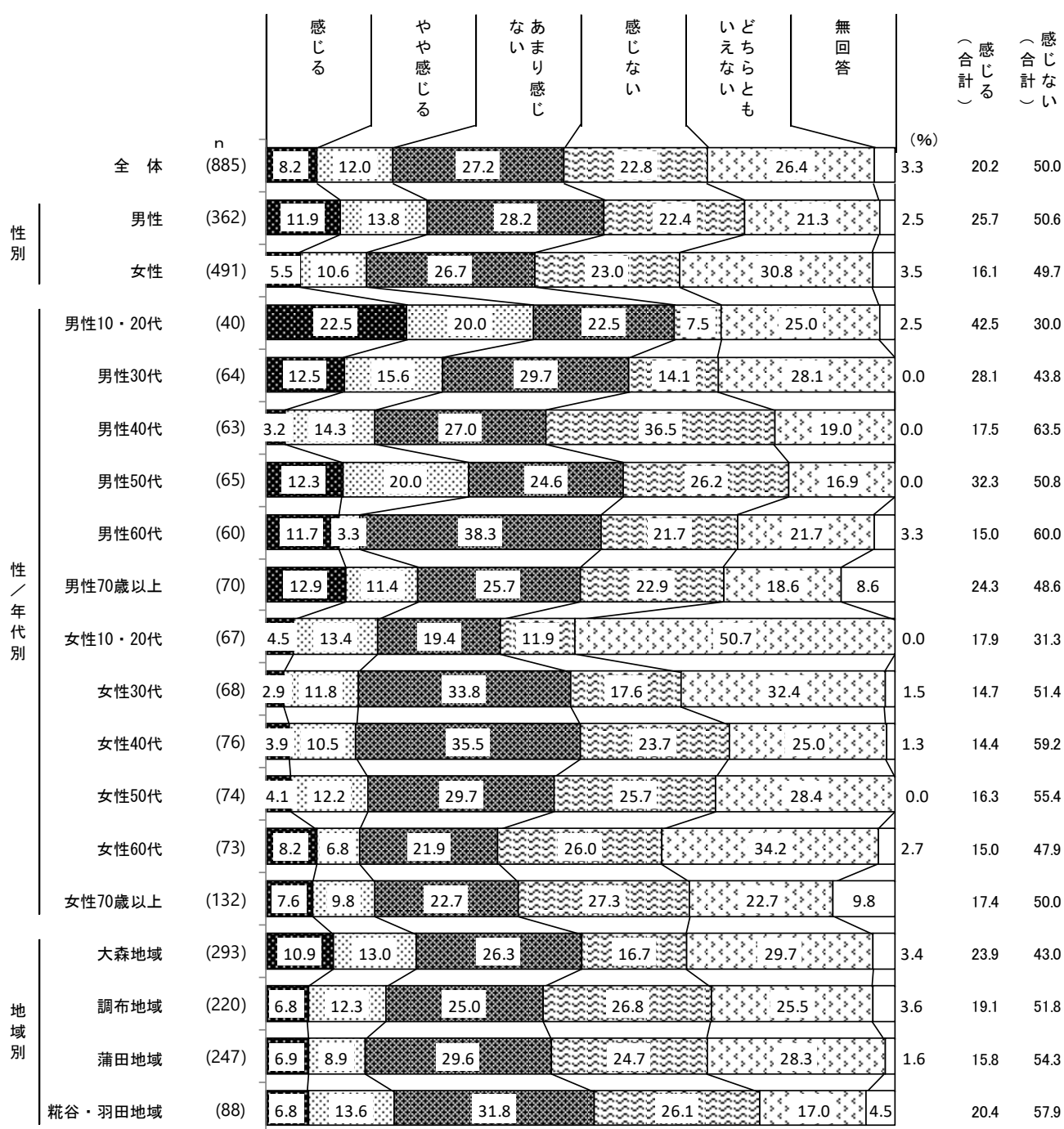
問17 バス、車、自転車等で空港臨海部の埋立島部（平和島、昭和島、京浜島、東海、城南島、令和島）へ訪れやすくなったと感じますか。（○は1つ）

図表 10-1 空港臨海部へのアクセスについて



空港臨海部への訪れやすさについて聞いたところ、「あまり感じない」が27.2%で最も高く、「感じない」(22.8%)と合わせた《感じない(合計)》は50.0%となっている。「感じる」(8.2%)、「やや感じる」(12.0%)を合わせた《感じる(合計)》は20.2%となっている。(図表10-1)

図表 10-2 空港臨海部へのアクセスについて（性別・性／年代別・地域別）



空港臨海部への訪れやすさを性別で見ると、「感じる（合計）」は男性（25.7%）が女性（16.1%）を9.6ポイント上回っている。

性／年代別で見ると、「感じる（合計）」は男性10・20代で4割前半、男性50代で3割前半となっている。女性ではすべての年代で1割台となっている。

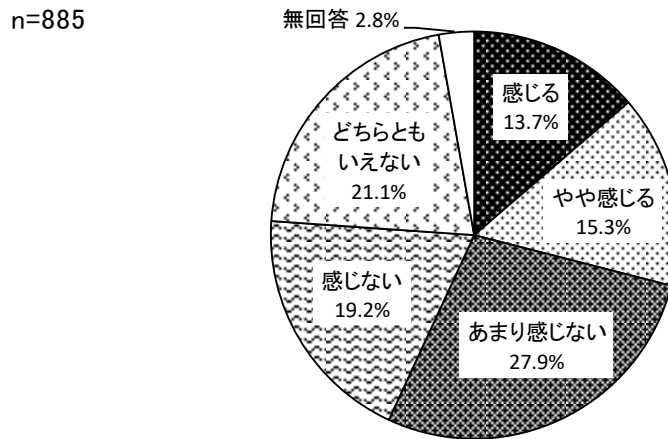
地域別で見ると、「感じる（合計）」は大森地域、糀谷・羽田地域で2割台、調布地域、蒲田地域で1割台となっている。（図表10-2）

(2) 空港臨海部の魅力度

◎「あまり感じない」が2割後半で最も高くなっている

問 18 遊ぶ場所、働く場所として空港臨海部に魅力を感じますか。(○は1つ)

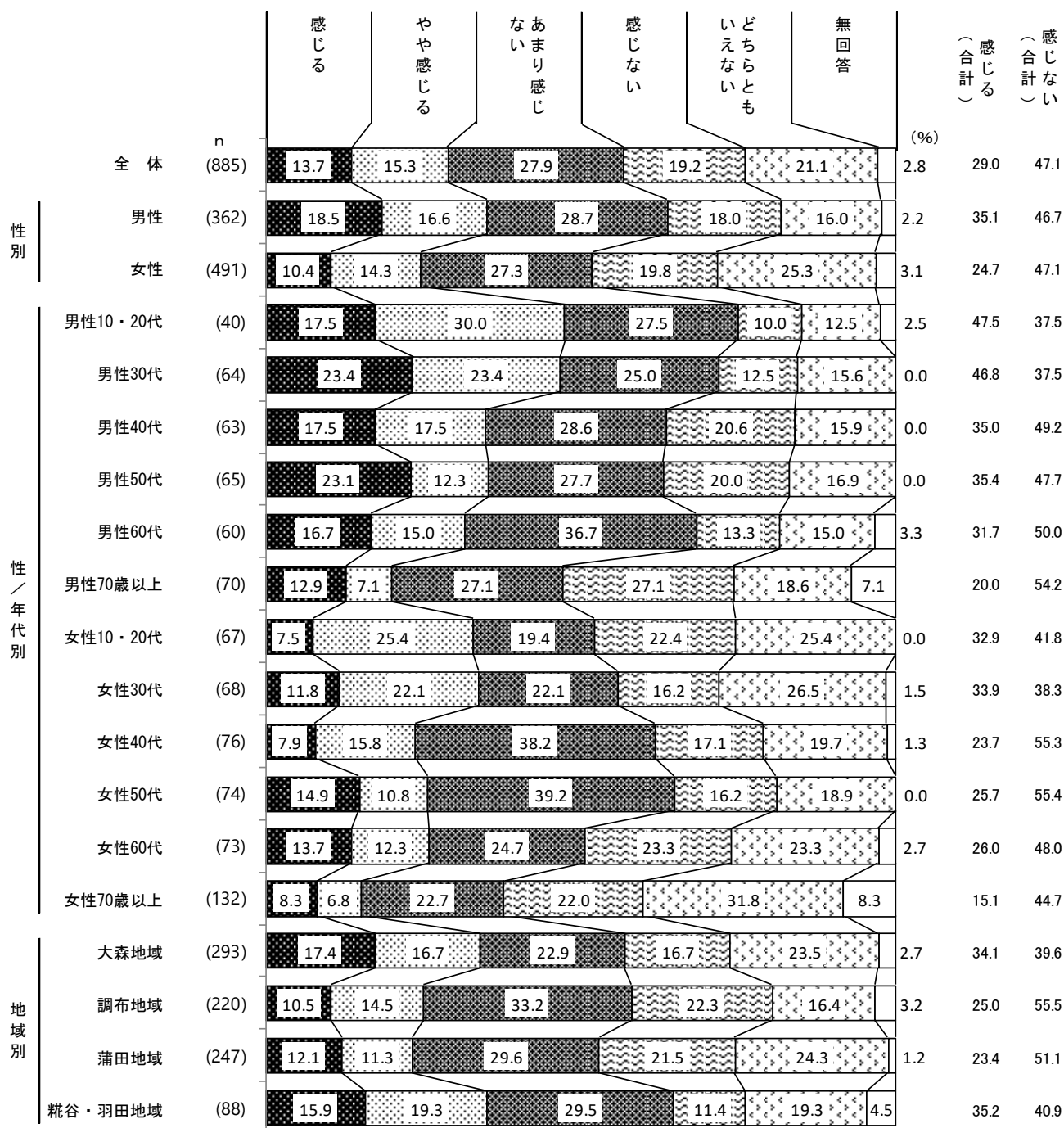
図表 10-3 空港臨海部の魅力度



空港臨海部の魅力度について聞いたところ、「あまり感じない」が27.9%で最も高く、「感じない」(19.2%)と合わせた《感じない(合計)》は47.1%となっている。

「感じる」(13.7%)、「やや感じる」(15.3%)を合わせた《感じる(合計)》は29.0%となっている。(図表10-3)

図表 10-4 空港臨海部の魅力度（性別・性／年代別・地域別）



空港臨海部の魅力度を性別で見ると、「感じる」は男性（18.5%）が女性（10.4%）を8.1ポイント上回っている。

性／年代別で見ると、「感じる（合計）」は男性10・20代、30代で4割台となっている。「感じない（合計）」は男性60代、70歳以上、女性40代、50代で5割台となっている。

地域別で見ると、調布地域、蒲田地域で「感じない（合計）」が5割台となっている。（図表10-4）

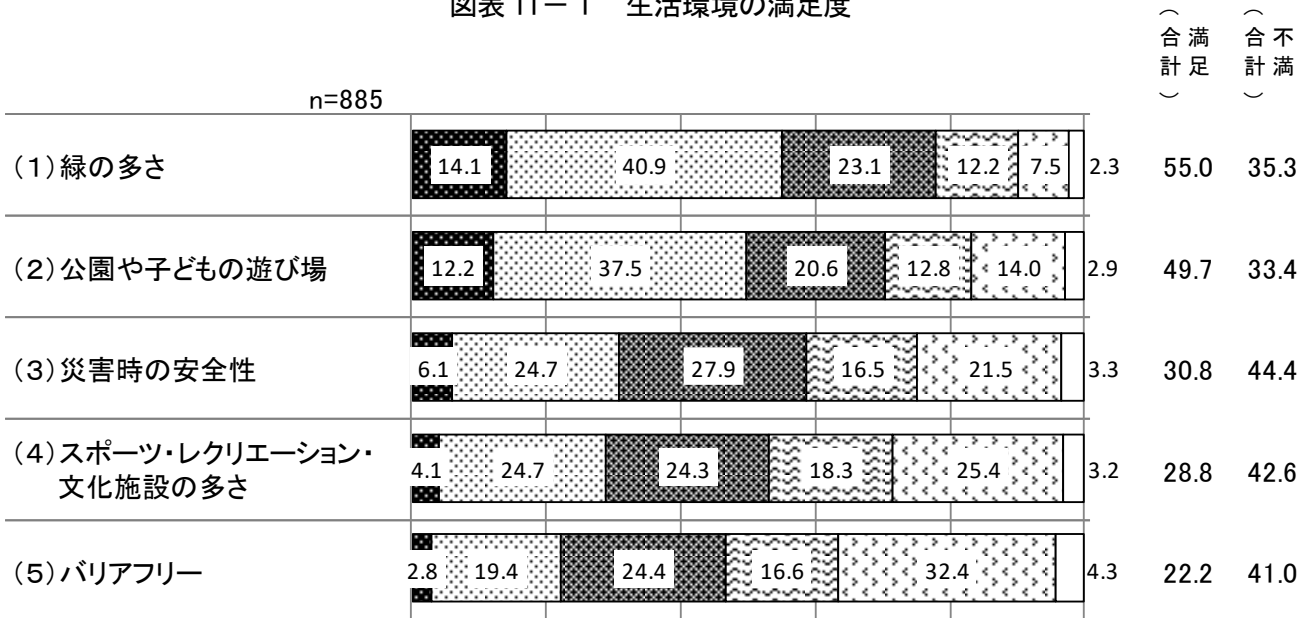
11 グリーンプラン関連について

(1) 生活環境の満足度

◎緑の多さで《満足（合計）》が5割半ばとなっている

問 19 住んでいるまちの生活環境について、どの程度満足していますか。
 ((1)～(5)、それぞれ○は1つ)

図表 11-1 生活環境の満足度

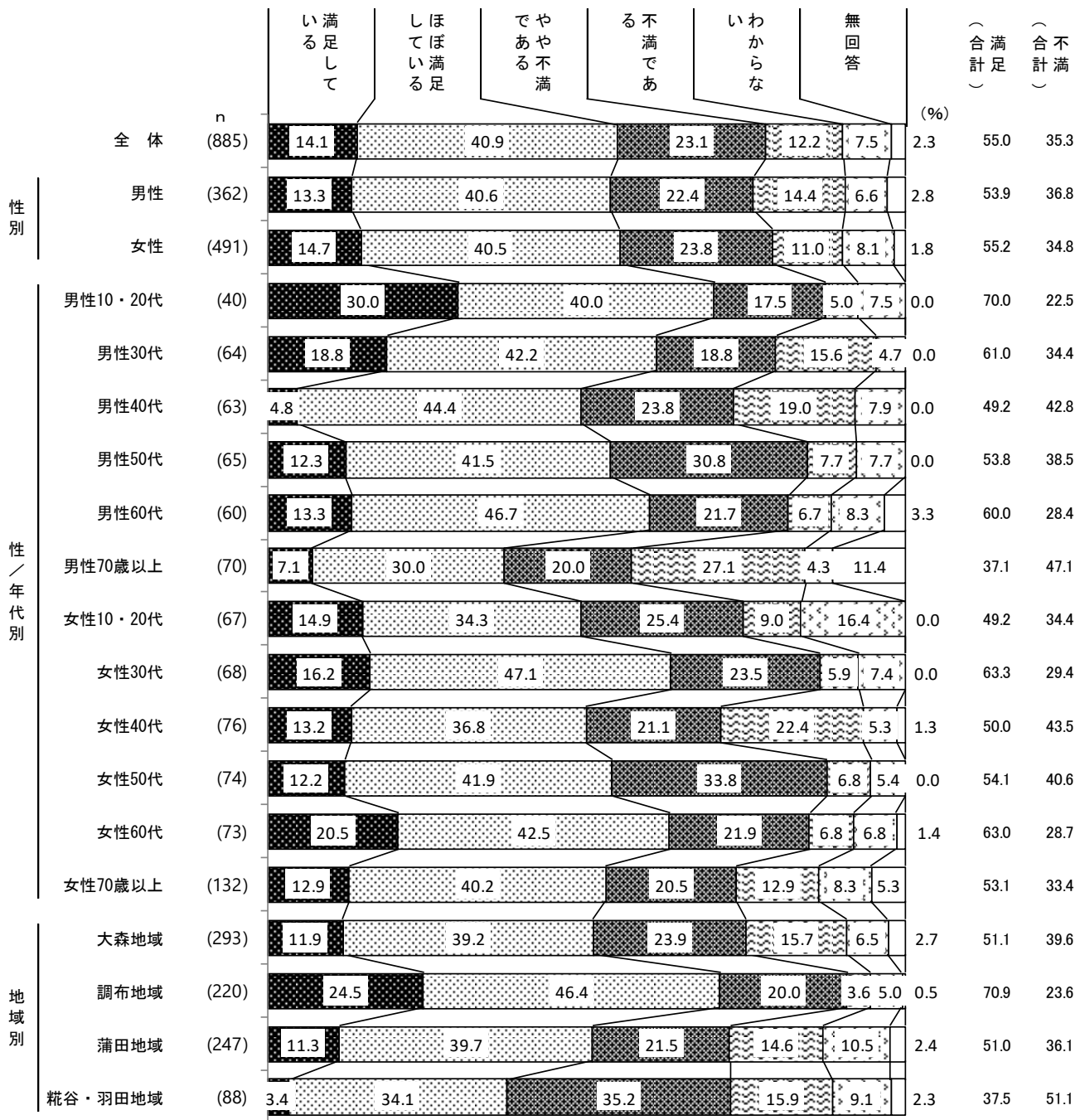


■満足している □ほぼ満足している ■やや不満である □不満である □わからない □無回答

生活環境の満足度について聞いたところ、【緑の多さ】の「満足している」(14.1%)、「ほぼ満足している」(40.9%)を合わせた《満足（合計）》が55.0%で5項目中最も高く、5割以上となっている。次いで、【公園や子どもの遊び場】の《満足（合計）》が49.7%で、「やや不満である」、「不満である」を合わせた《不満（合計）》を上回っている。

《不満（合計）》は【災害時の安全性】が44.4%で5項目中最も高く、次いで【スポーツ・レクリエーション・文化施設の多さ】が42.6%、【バリアフリー】が41.0%で、《満足（合計）》を上回っている。(図表 11-1)

図表 11-2 生活環境の満足度（1）緑の多さ（性別・性／年代別・地域別）



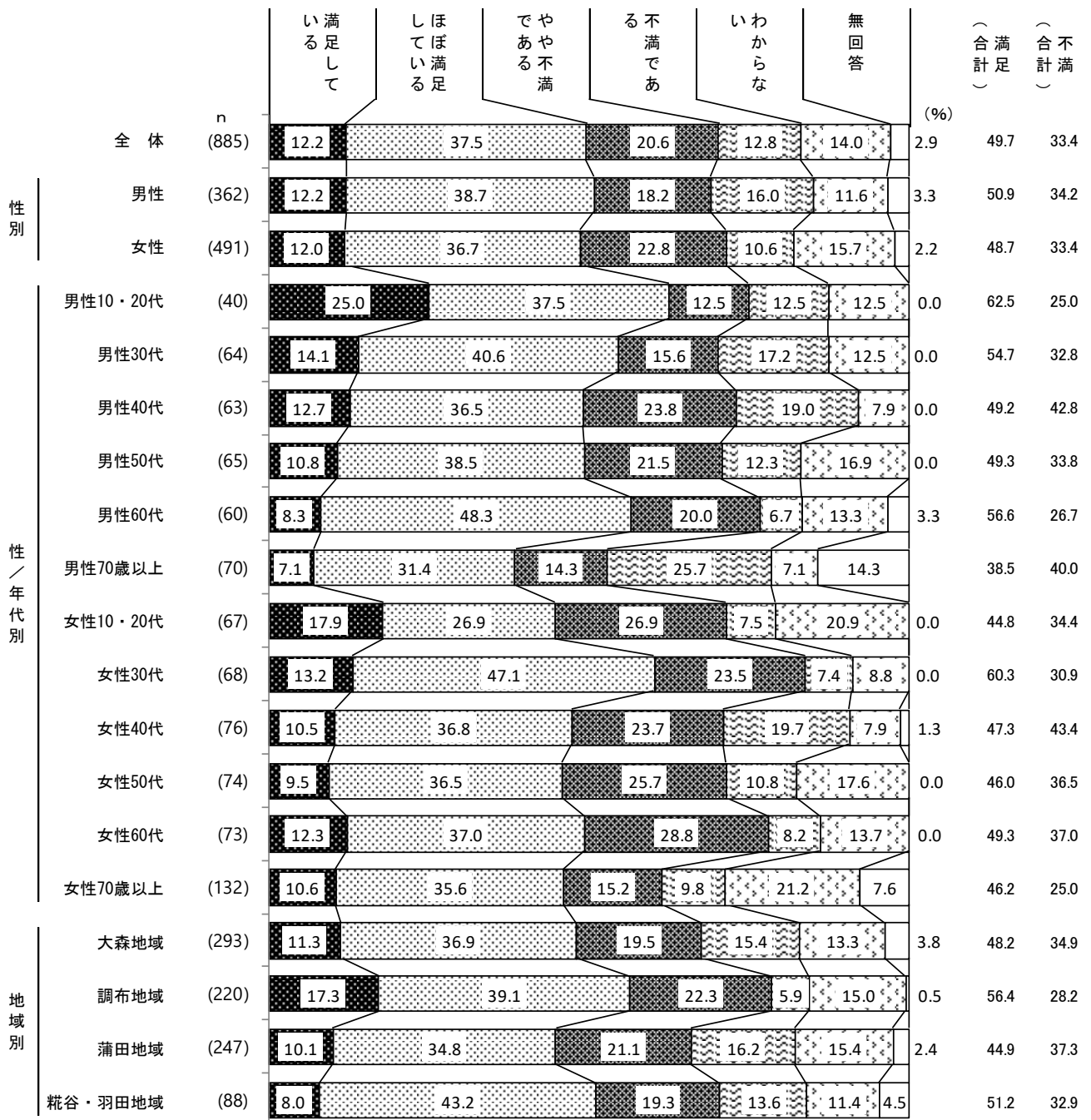
【緑の多さ】の満足度について、性別でみると大きな差異は見られなかった。

性／年代別でみると、男性70歳以上で《不満（合計）》（47.1%）が《満足（合計）》（37.1%）を上回っている。その他の性／年代では《満足（合計）》が《不満（合計）》を上回っており、《満足（合計）》は男性10・20代で7割、男性30代、60代、女性30代、60代で6割台となっている。

地域別でみると、《満足（合計）》は調布地域が約7割、大森地域、蒲田地域が約5割で《不満（合計）》を上回っている。糀谷・羽田地域は《不満（合計）》が約5割で《満足（合計）》を上回っている。

（図表 11-2）

図表 11-3 生活環境の満足度（2）公園や子どもの遊び場（性別・性／年代別・地域別）

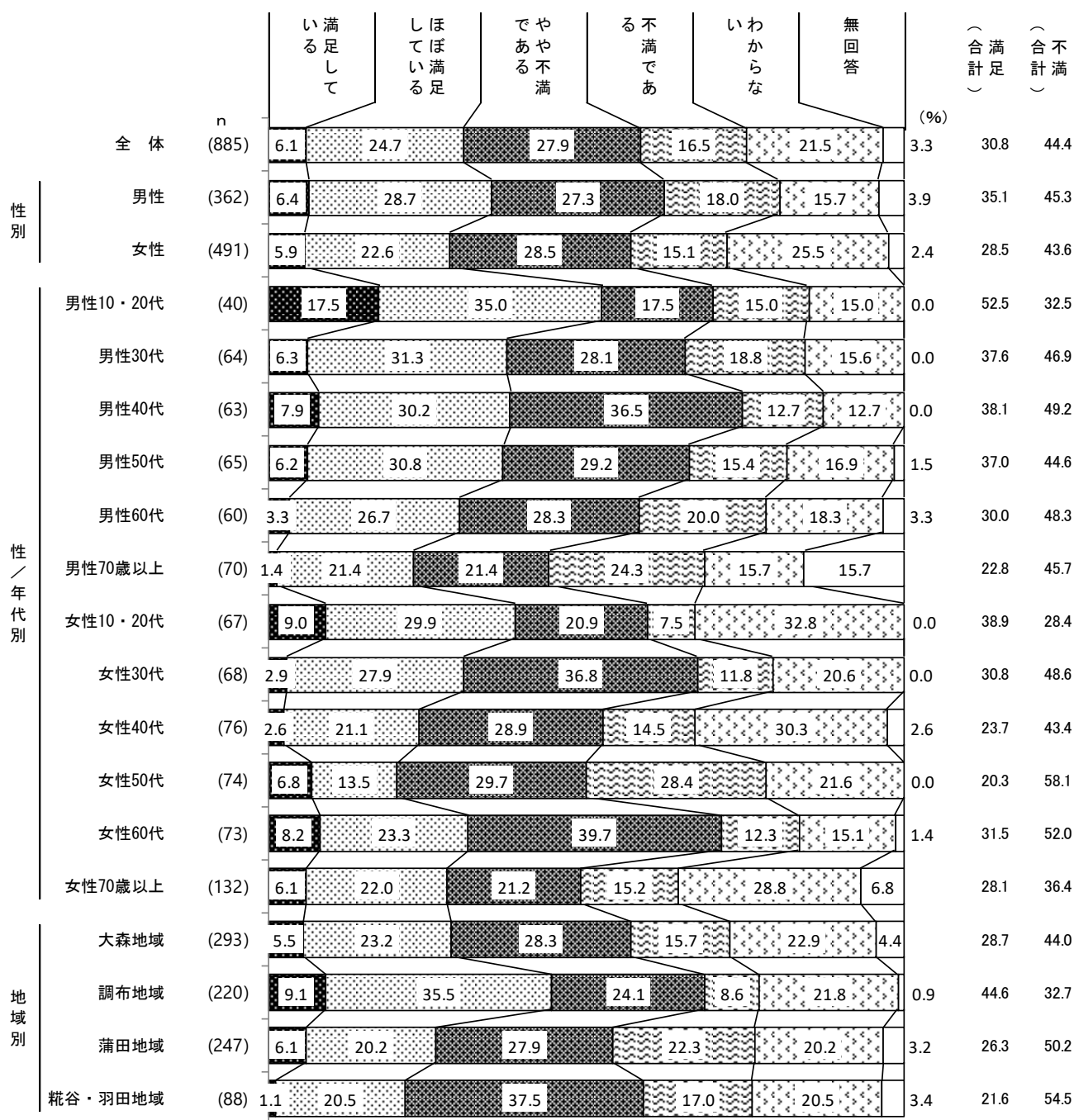


【公園や子どもの遊び場】の満足度について、性別で見ると大きな差異は見られなかった。

性／年代別で見ると、男性70歳以上で《不満（合計）》（40.0%）が《満足（合計）》（38.5%）を上回っている。その他の性／年代では《満足（合計）》が《不満（合計）》を上回っており、《満足（合計）》は男性10・20代、女性30代で6割台となっている。

地域別で見ると、《満足（合計）》は調布地域、糀谷・羽田地域が5割台、大森地域、蒲田地域が4割台で《不満（合計）》を上回っている。（図表11-3）

図表 11-4 生活環境の満足度 (3) 災害時の安全性 (性別・性/年代別・地域別)

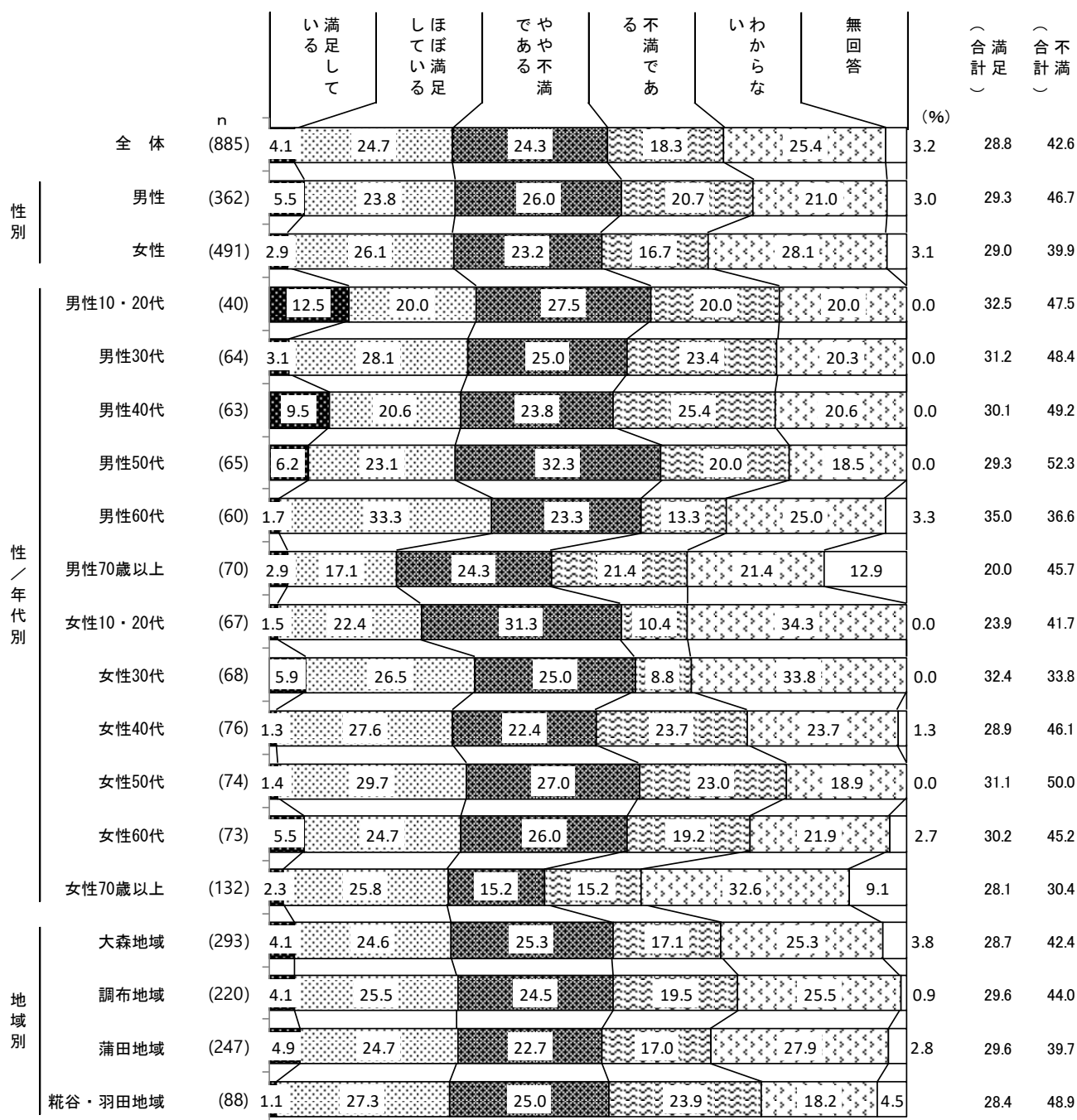


【災害時の安全性】の満足度を性別で見ると、「ほぼ満足している」は男性 (28.7%) が女性 (22.6%) を 6.1 ポイント上回っている。

性/年代別で見ると、「満足 (合計)」は男性 10・20 代で 5 割前半、女性 10・20 代が 3 割後半で「不満 (合計)」を上回っている。その他の性/年代では「不満 (合計)」が「満足 (合計)」を上回っており、「不満 (合計)」は女性 50 代、60 代で 5 割台となっている。

地域別で見ると、「満足 (合計)」は調布地域が 4 割半ばで「不満 (合計)」を上回っている。大森地域、蒲田地域、糞谷・羽田地域は「不満 (合計)」が「満足 (合計)」を上回っており、「不満 (合計)」は蒲田地域、糞谷・羽田地域で 5 割台となっている。(図表 11-4)

図表 11-5 生活環境の満足度（4）スポーツ・レクリエーション・文化施設の多さ
（性別・性／年代別・地域別）



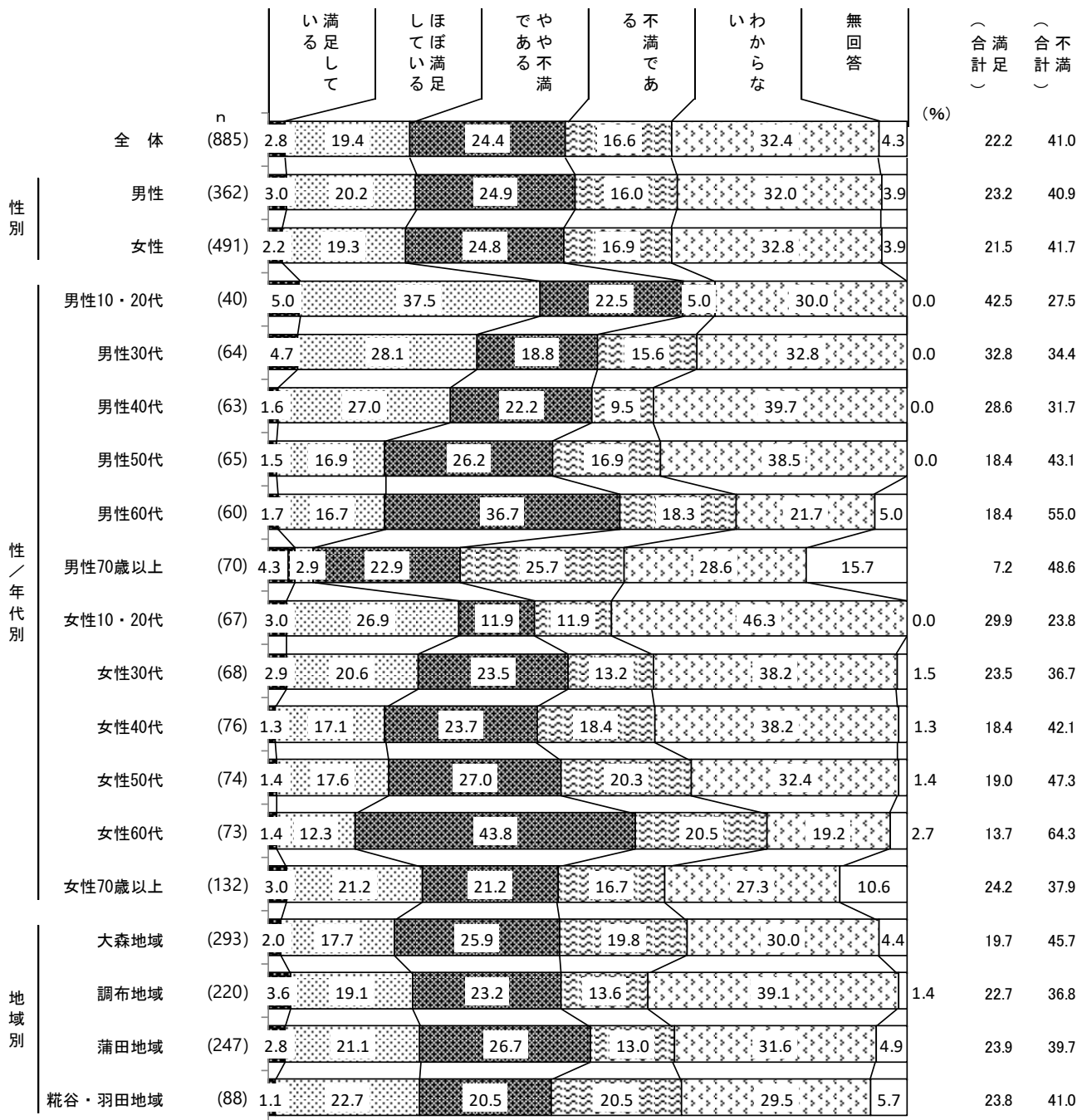
【スポーツ・レクリエーション・文化施設の多さ】の満足度を性別で見ると、「不満（合計）」は男性（46.7%）が女性（39.9%）を6.8ポイント上回っている。

性／年代別で見ると、すべての性／年代で「不満（合計）」が「満足（合計）」を上回っており、「不満（合計）」は男女ともに50代で5割台となっている。

地域別で見ると、すべての地域で「不満（合計）」が「満足（合計）」を上回っている。

（図表 11-5）

図表 11-6 生活環境の満足度 (5) バリアフリー (性別・性/年代別・地域別)



【バリアフリー】の満足度について、性別で見ると特徴的な差異は見られなかった。

性/年代別で見ると、《満足 (合計)》は男性 10・20 代で 4 割前半、女性 10・20 代が約 3 割で《不満 (合計)》を上回っている。その他の性/年代では《不満 (合計)》が《満足 (合計)》を上回っており、《不満 (合計)》は女性 60 代で 6 割半ば、男性 60 代で 5 割半ばとなっている。

地域別で見ると、すべての地域で《不満 (合計)》が《満足 (合計)》を上回っている。

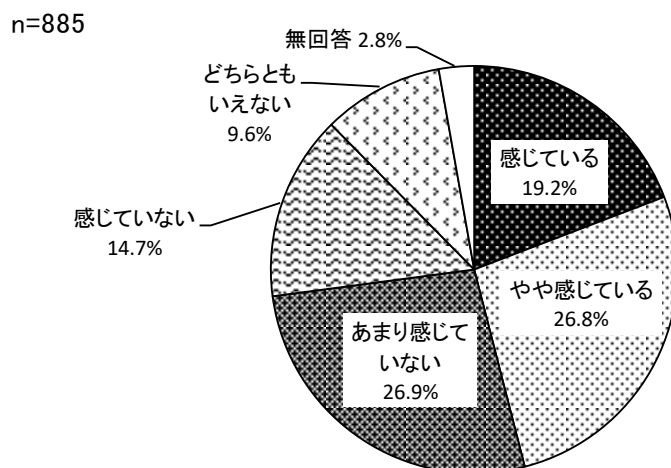
(図表 11-6)

(2) 身近な場所の水や緑の有無

◎《感じている（合計）》が4割半ばとなっている

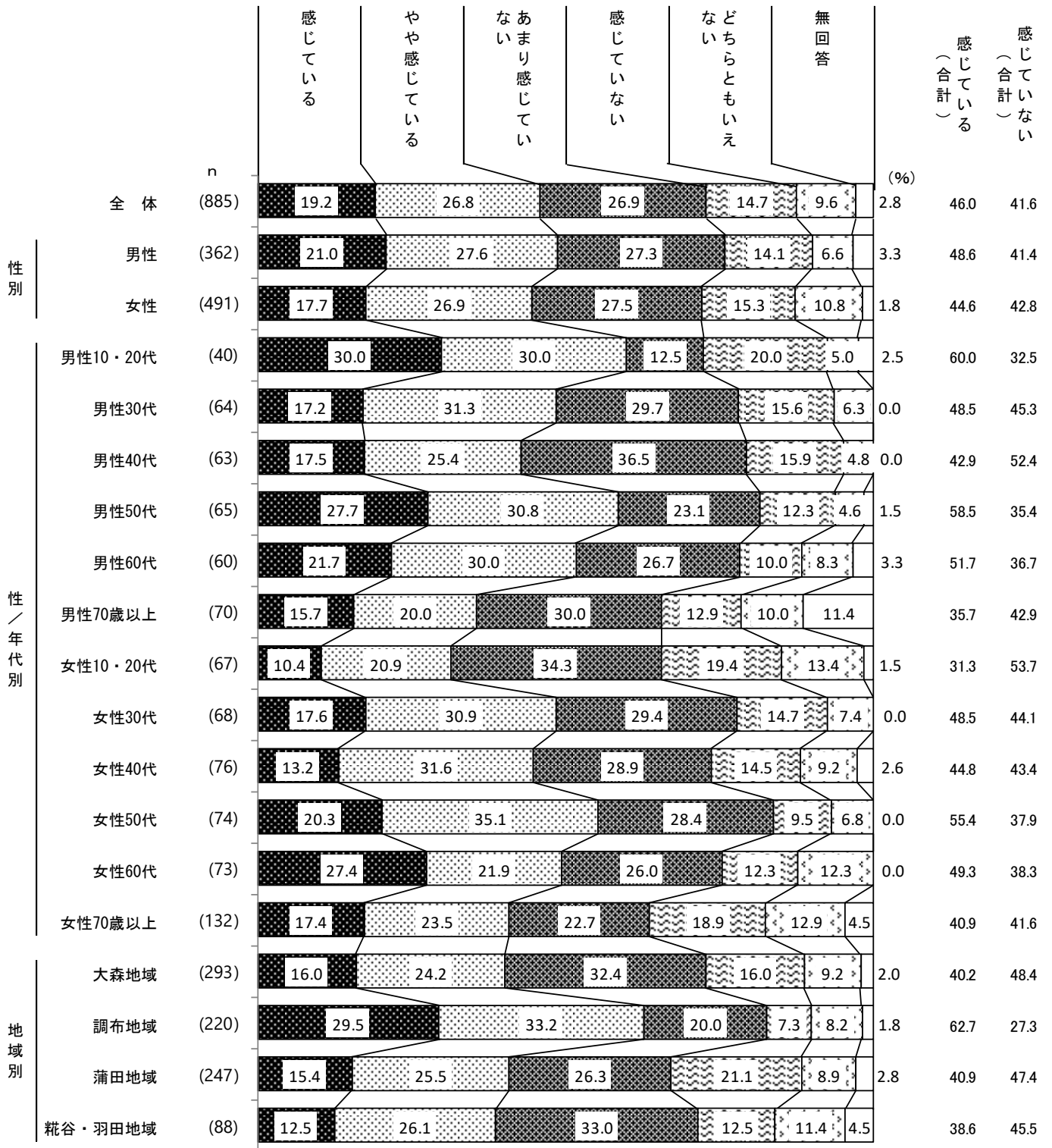
問 20 身近な場所で水や緑に親しめると感じていますか。(○は1つ)

図表 11-7 身近な場所の水や緑の有無



身近に水や緑に親しめると感じるかについて聞いたところ、「あまり感じていない」が26.9%で最も高く、「感じていない」(14.7%)と合わせた《感じていない(合計)》は41.6%となっている。一方、「感じている」(19.2%)、「やや感じている」(26.8%)を合わせた《感じている(合計)》は46.0%となっている。(図表11-7)

図表 11-8 身近な場所の水や緑の有無（性別・性／年代別・地域別）



身近な場所で水や緑に親しめると感じるかについて、性別でみると大きな差異は見られなかった。性／年代別でみると、《感じている（合計）》は男性10・20代、50代、60代、女性50代で5割以上となっている。男性40代、女性10・20代では《感じていない（合計）》が5割以上となっている。地域別でみると《感じている（合計）》は調布地域で6割前半となっている。（図表11-8）

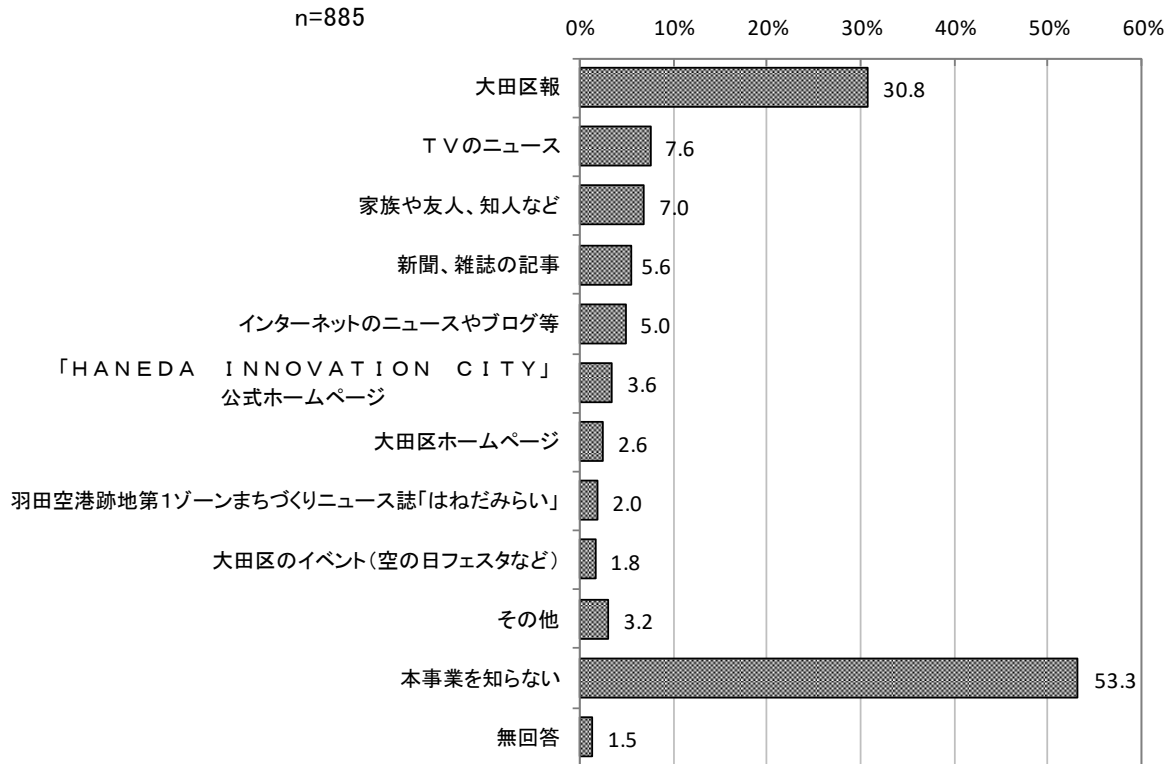
12 羽田空港跡地について

(1) 「羽田空港跡地第1ゾーン整備事業」を知った方法

◎「本事業を知らない」が5割前半、知った方法は「大田区報」が約3割で最も高くなっている

問 21 空港の沖合移転に伴い発生した天空橋駅周辺の羽田空港跡地のまちづくり「羽田空港跡地第1ゾーン整備事業」が現在進められています。本事業についてはどのような方法で知りましたか。(〇はいくつでも)

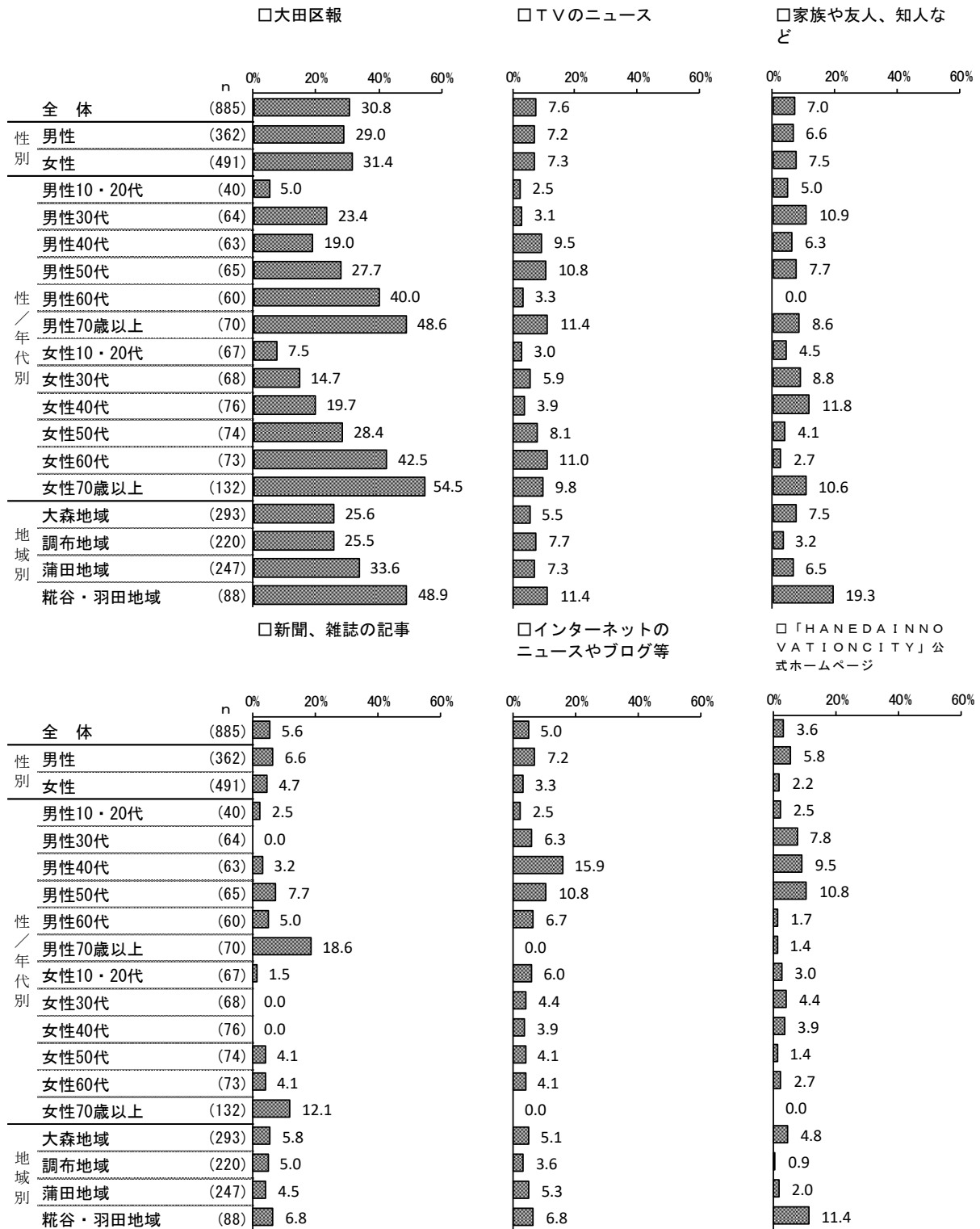
図表 12-1 「羽田空港跡地第1ゾーン整備事業」を知った方法



「羽田空港跡地第1ゾーン整備事業」を知った方法について聞いたところ、「大田区報」が30.8%で最も高く、次いで、「TVのニュース」(7.6%)、「家族や友人、知人など」(7.0%)となっている。

一方、「本事業を知らない」が53.3%となっている。(図表 12-1)

図表 12-2 「羽田空港跡地第1ゾーン整備事業」を知った方法（性別・性／年代別・地域別）



「羽田空港跡地第1ゾーン整備事業」を知った方法について、男女ともに「大田区報」が最も高くなっている。

性／年代別でみると、男女ともに「大田区報」は概ね年代が上がるにつれ高くなっている。

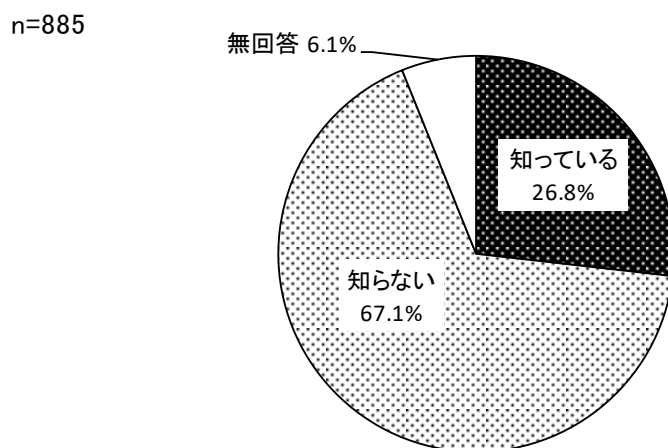
地域別でみると、「大田区報」は糞谷・羽田地域で4割後半となっている。また、「家族や友人、知人など」は糞谷・羽田地域で約2割と高くなっている。(図表 12-2)

(2) 「羽田イノベーションシティ」の認知度

◎「知っている」は2割半ばとなっている

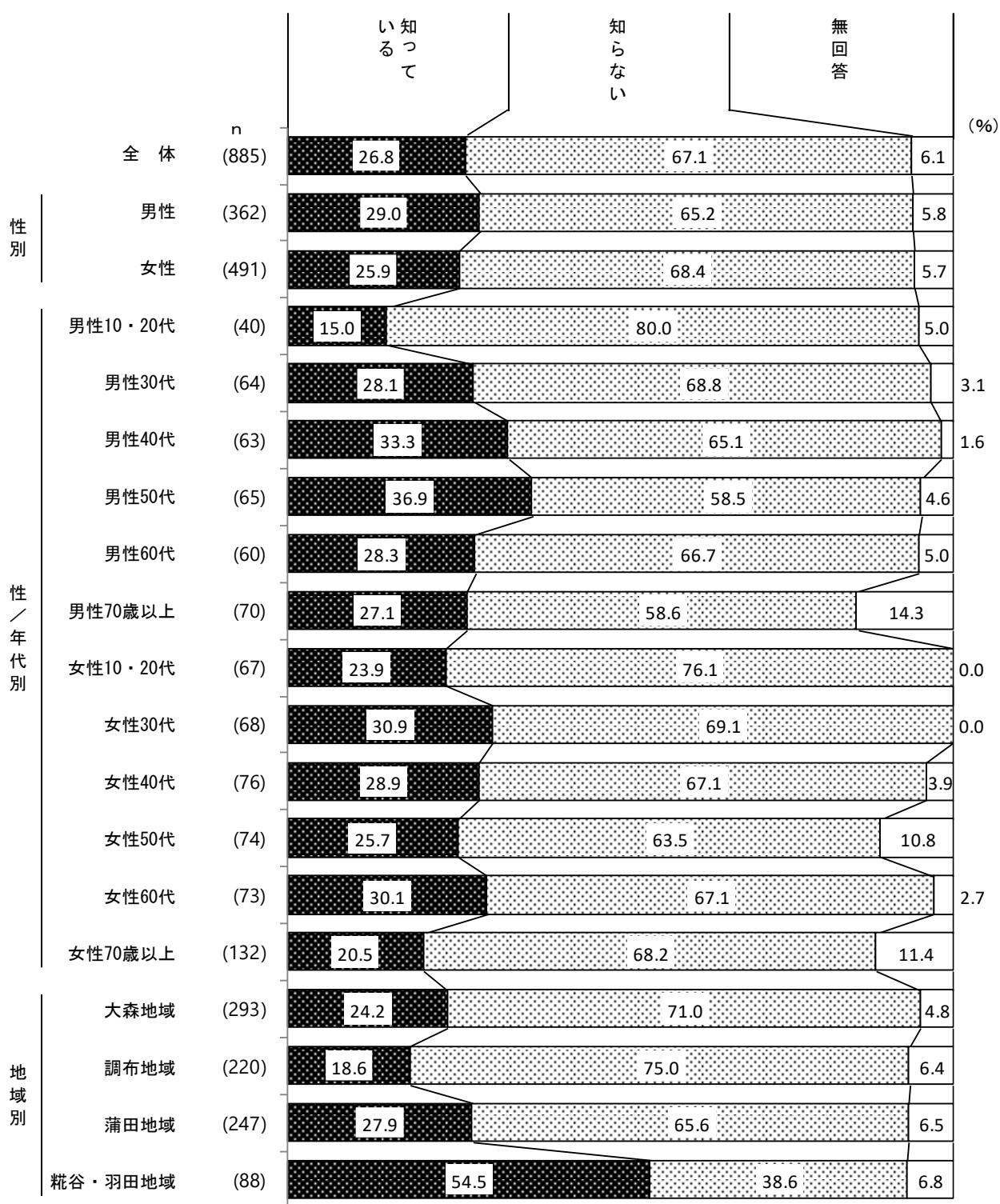
問 22 「羽田空港跡地第1ゾーン整備事業」の第一期事業（羽田イノベーションシティ）についてご存じですか。（○は1つ）

図表 12-3 「羽田イノベーションシティ」の認知度



「羽田イノベーションシティ」の認知度について聞いたところ、「知っている」は26.8%、「知らない」が67.1%となっている。（図表 12-3）

図表 12-4 「羽田イノベーションシティ」の認知度（性別・性／年代別・地域別）



「羽田イノベーションシティ」の認知度について、性別で見ると大きな差異は見られなかった。性／年代別で見ると、「知っている」は男性10・20代で1割半ばと、その他の性／年代より低くなっている。

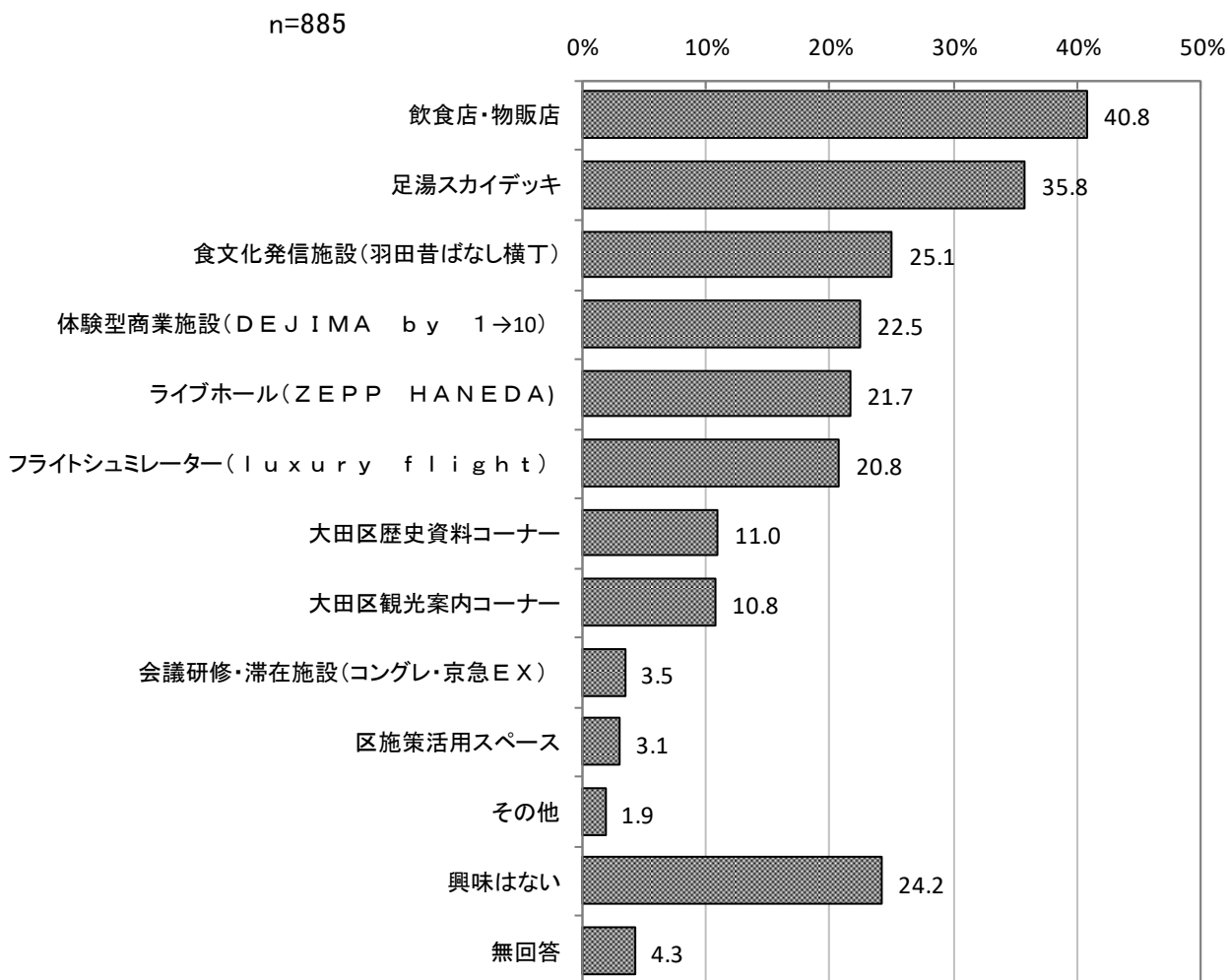
地域別で見ると、「知っている」は糀谷・羽田地域で5割半ばと半数以上となっている。大森地域、蒲田地域は2割台、調布地域は1割後半となっている。（図表 12-4）

(3) 「羽田イノベーションシティ」において興味があるもの

◎「飲食店・物販店」が約4割で最も高くなっている

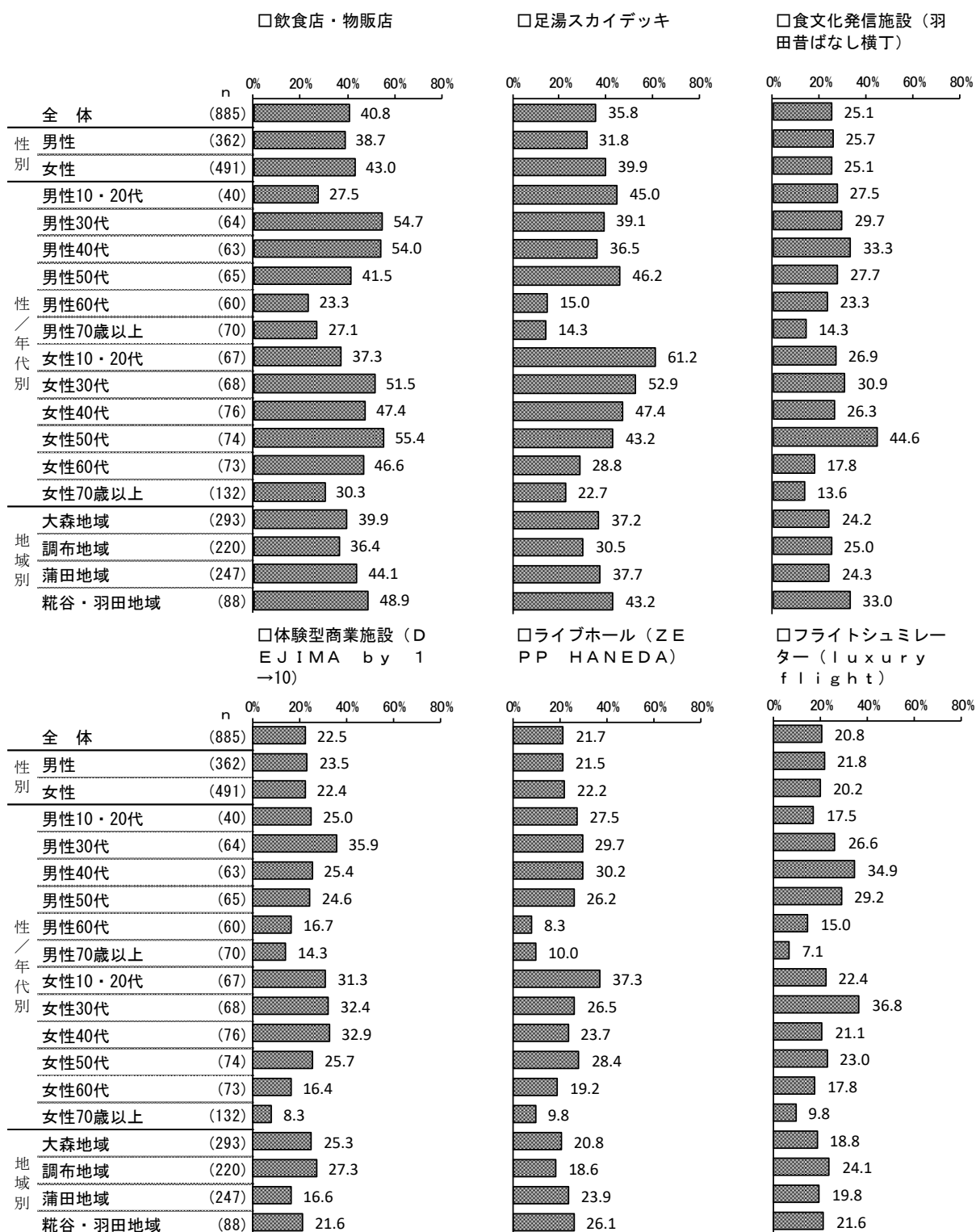
問 23 第一期事業（羽田イノベーションシティ）のうち、興味があるものはありますか。
 (○はいくつでも)

図表 12-5 「羽田イノベーションシティ」において興味があるもの



「羽田イノベーションシティ」において興味があるものについて聞いたところ、「飲食店・物販店」が40.8%で最も高く、次いで、「足湯スカイデッキ」(35.8%)、「食文化発信施設(羽田昔ばなし横丁)」(25.1%)となっている。(図表 12-5)

図表 12-6 「羽田イノベーションシティ」において興味があるもの（性別・性/年代別・地域別）



「羽田イノベーションシティ」において興味があるものを性別で見ると、男女ともに「飲食店・物販」が最も高くなっている。

性/年代別で見ると、男性10・20代、50代、女性10・20代、30代は「足湯スカイデッキ」が最も高く、女性40代は「飲食店・物販」「足湯スカイデッキ」が同率で最も高くなっている。その他の性/年代では「飲食店・物販」が最も高くなっている。

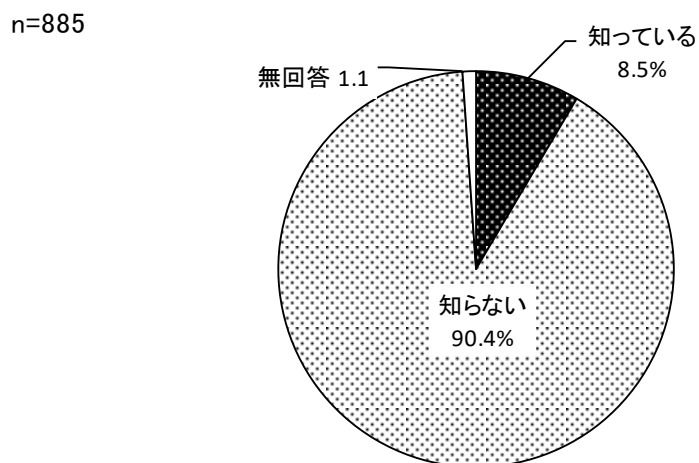
地域別で見ると、すべての地域で「飲食店・物販」が最も高くなっている。（図表 12-6）

(4) 羽田空港跡地第1ゾーンの公園整備の認知度

◎「知らない」が約9割となっている

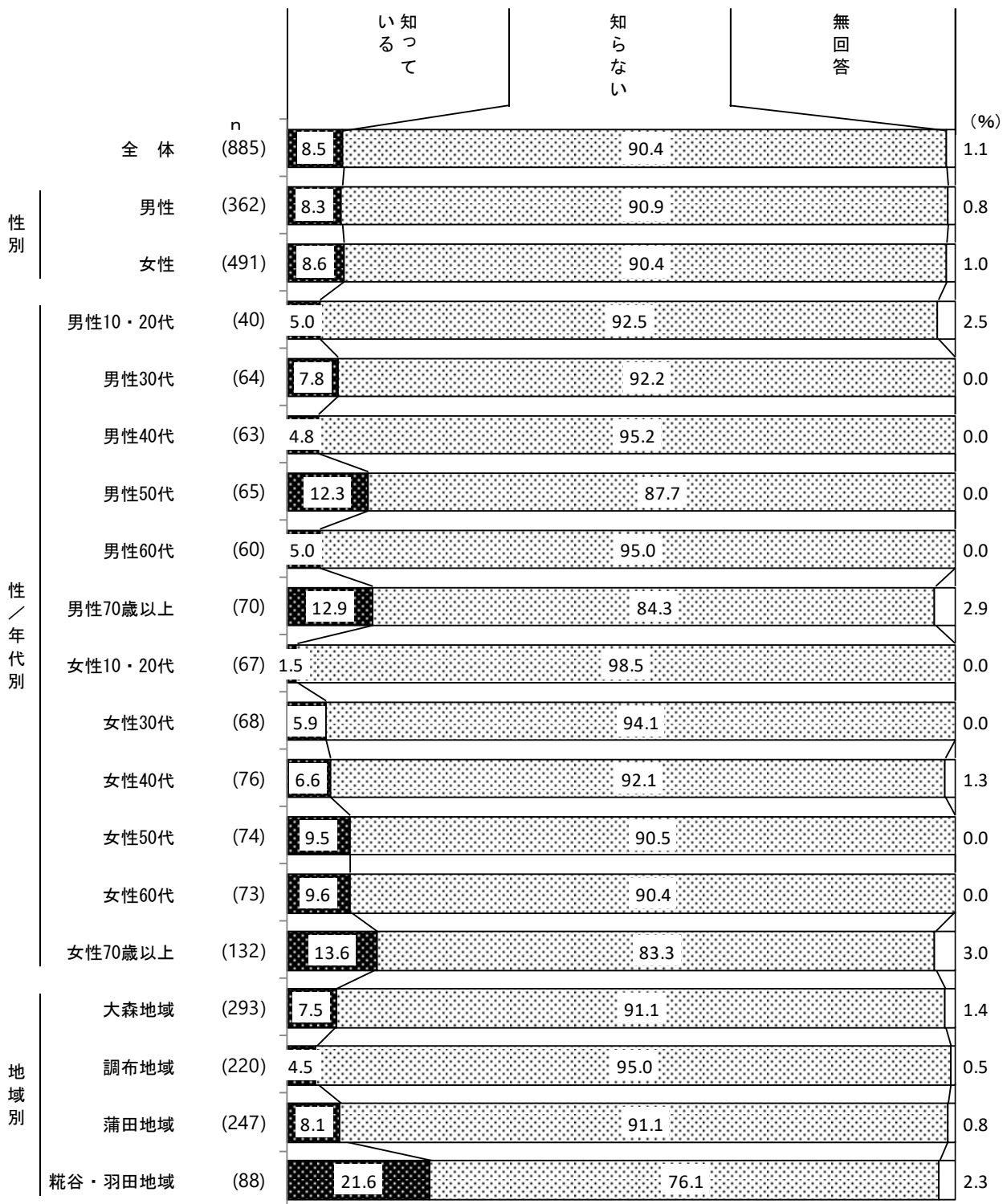
問 24 羽田空港跡地第1ゾーンに公園（300m×70m程度）が整備される予定があることをご存知ですか。（○は1つ）

図表 12-7 羽田空港跡地第1ゾーンの公園整備の認知度



羽田空港跡地第1ゾーンの公園整備の認知度について聞いたところ、「知っている」が8.5%、「知らない」が90.4%となっている。（図表 12-7）

図表 12-8 羽田空港跡地第1ゾーンの公園整備の認知度（性別・性/年代別・地域別）



羽田空港跡地第1ゾーンの公園整備の認知度について、性別でみると大きな差異は見られなかった。性/年代別でみると、「知っている」は男性50代、70歳以上、女性70歳以上で1割前半となっている。女性において「知っている」は年齢が上がるにつれ高くなっている。

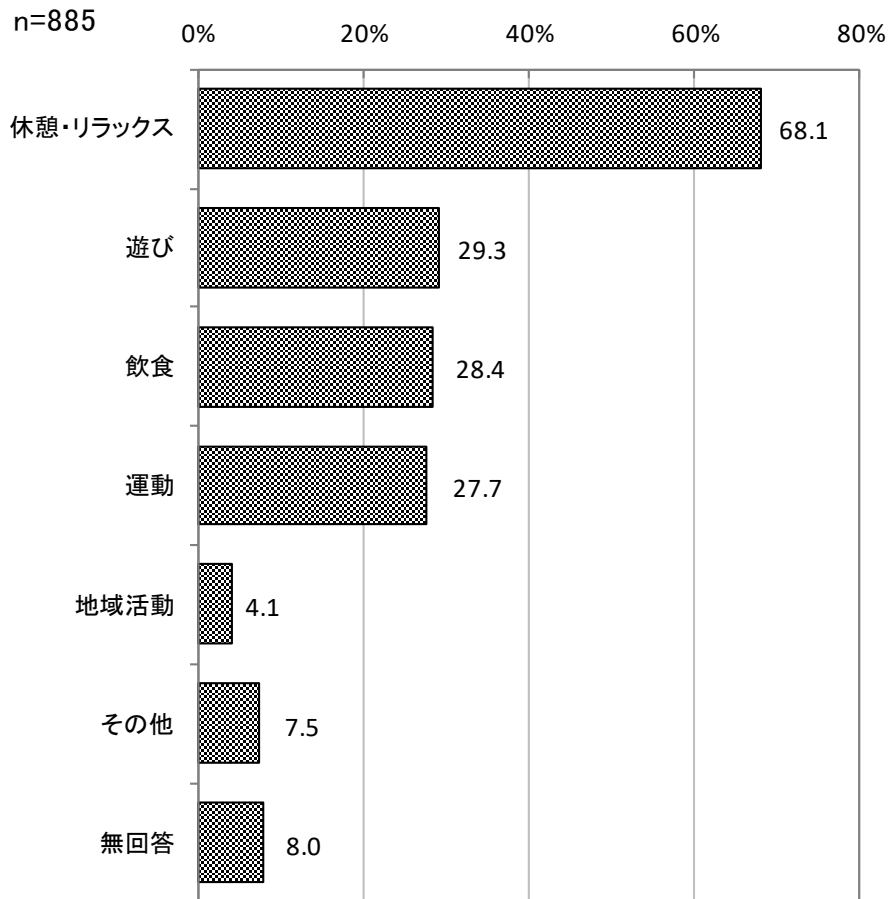
地域別でみると、「知っている」は糞谷・羽田地域で約2割となっているが、その他の地域では1割に満たない。(図表12-8)

(5) 公園が完成した時にしたいこと

◎「休憩・リラックス」が6割後半となっている

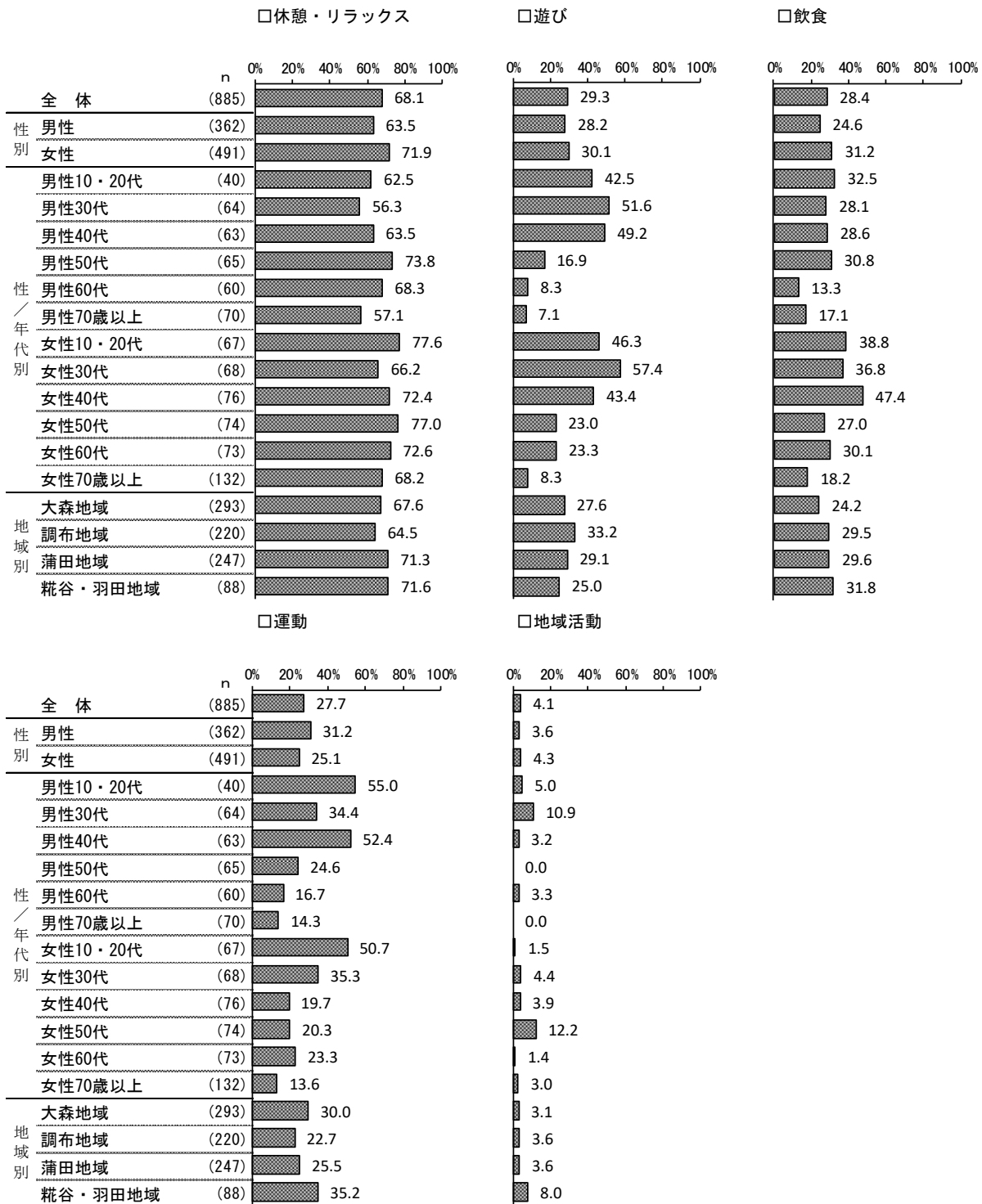
問 25 その公園が完成した時に、したいことはありますか。(〇はいくつでも)

図表 12-9 公園が完成した時にしたいこと



公園が完成した時にしたいことを聞いたところ、「休憩・リラックス」が68.1%で最も高く、次いで、「遊び」(29.3%)、「飲食」(28.4%)となっている。(図表 12-9)

図表 12-10 公園が完成した時にしたいこと（性別・性／年代別・地域別 上位5項目）



公園が完成した時にしたいことについて、上位5項目を性別で見ると、「休憩・リラックス」が男女ともに最も高くなっている。

性／年代別で見ると、すべての年代で「休憩・リラックス」が5割以上で最も高くなっている。「運動」は男性10・20代、40代、女性10・20代で5割以上となっている。「遊び」は男性・女性ともに10・20代～40代でその他の性／年代より高くなっている。

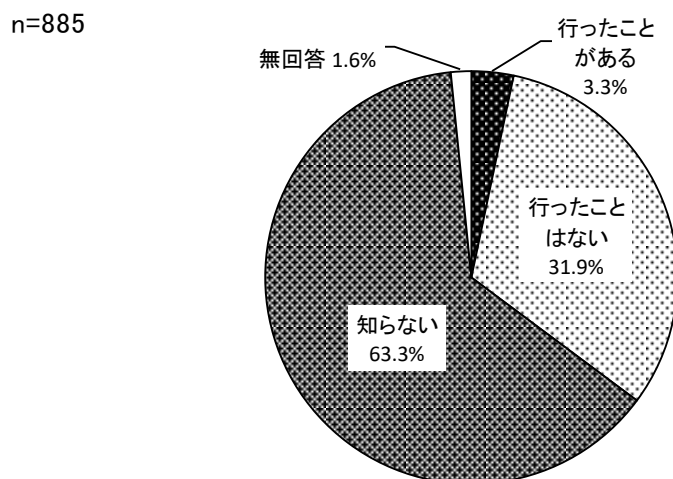
地域別で見ると、すべての地域で「休憩・リラックス」が最も高くなっている。(図表 12-10)

(6)「ソラムナード羽田緑地」に行ったことがあるかについて

◎「知らない」が6割前半となっている

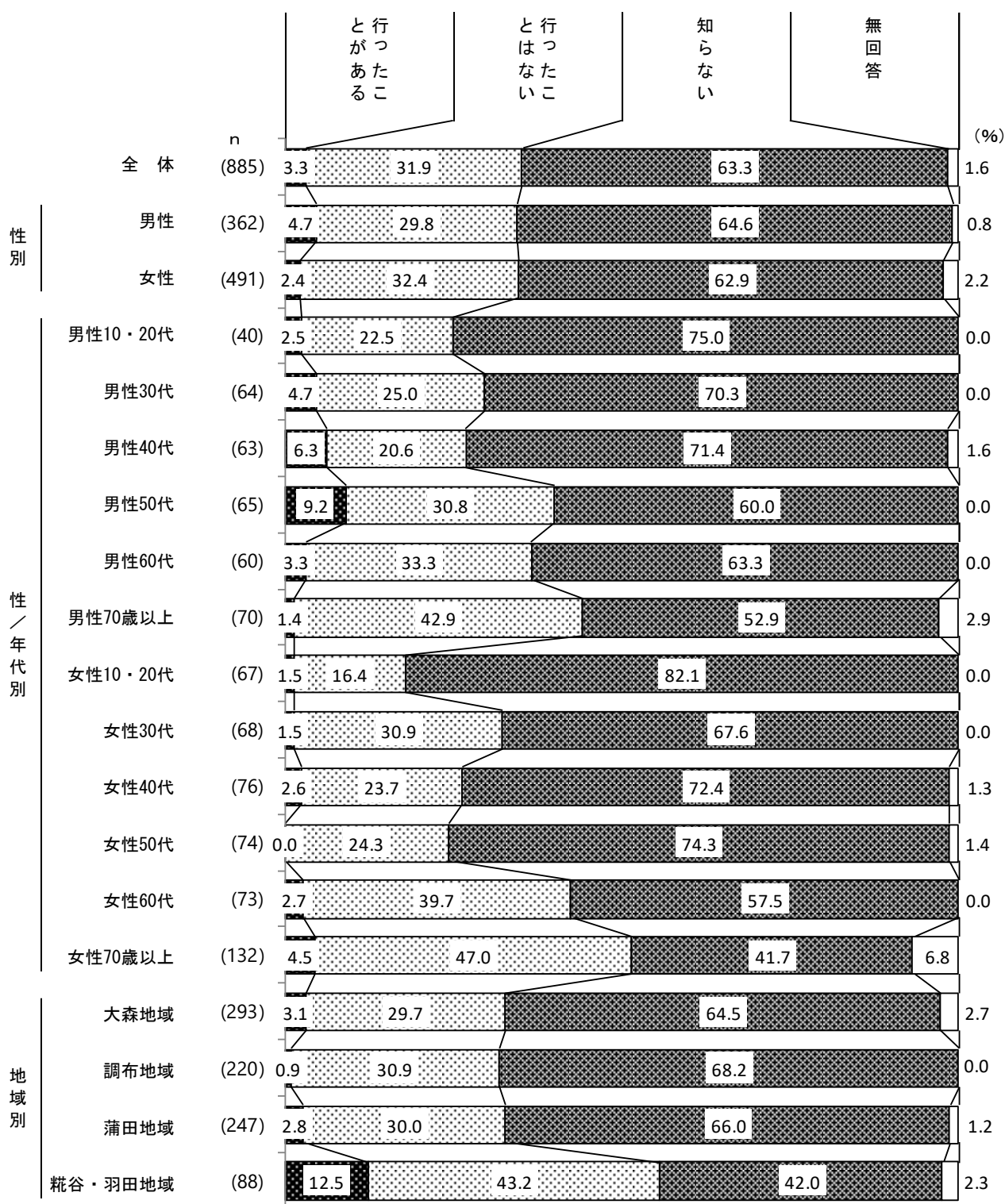
問 26 羽田空港跡地の多摩川沿い（第2ゾーン）に整備された「ソラムナード羽田緑地」（1,100m×15m程度）に行ったことはありますか。（○は1つ）

図表 12-11 「ソラムナード羽田緑地」に行ったことがあるか



「ソラムナード羽田緑地」に行ったことがあるか聞いたところ、「行ったことがある」は3.3%、「行ったことはない」が31.9%、「知らない」が63.3%となっている。（図表 12-11）

図表 12-12 「ソラムナード羽田緑地」に行ったことがあるか（性別・性／年代別・地域別）



「ソラムナード羽田緑地」の訪問経験について、性別で見ると大きな差異は見られなかった。

性／年代別で見ると、「行ったことがある」は男性50代で約1割となっている。女性70歳以上を除いたすべての性／年代で「知らない」が半数以上となっている。

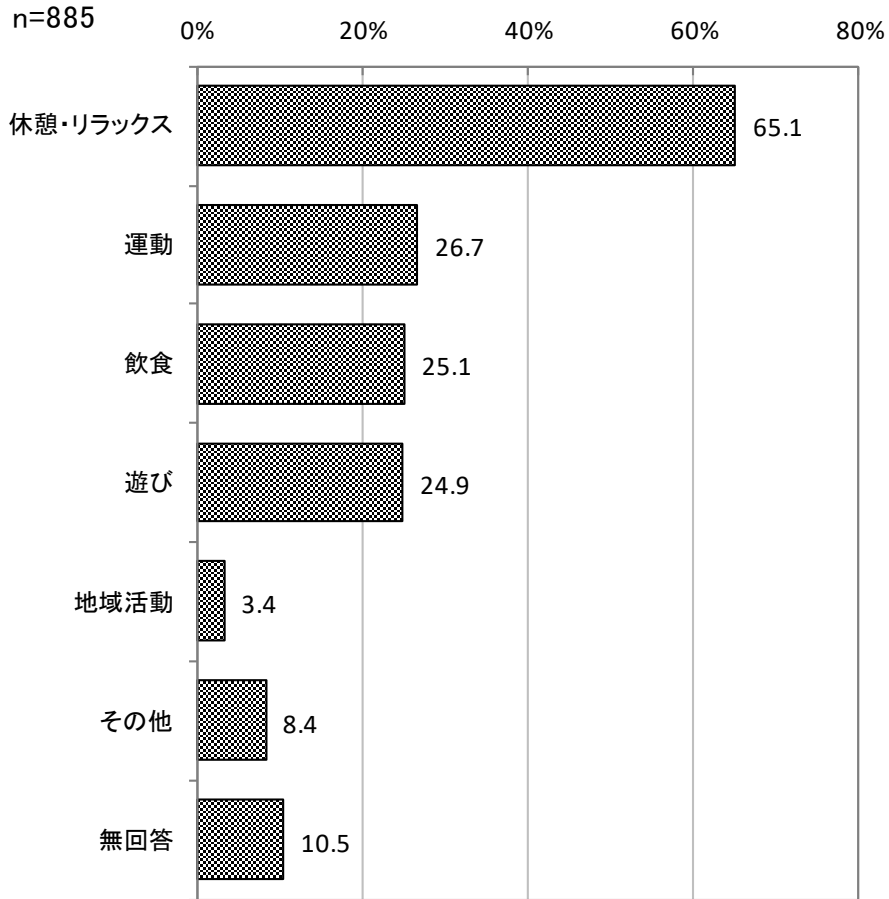
地域別で見ると、「行ったことがある」は糞谷・羽田地域で1割前半となっている。その他の地域では「知らない」が6割台となっている。(図表 12-12)

(7) 「ソラムナード羽田緑地」でしたいこと

◎「休憩・リラックス」が6割半ばとなっている

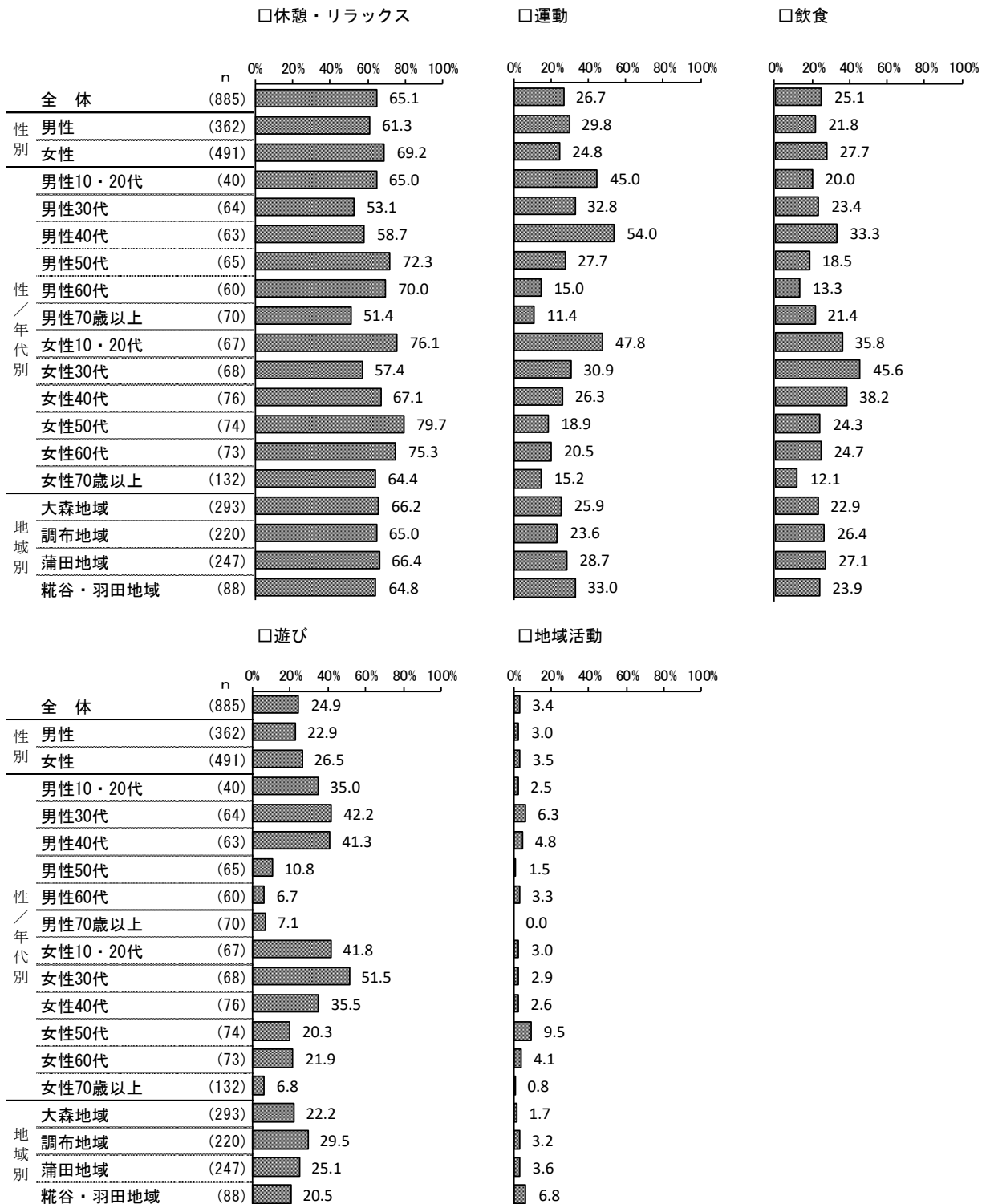
問 27 「ソラムナード羽田緑地」でしたいことはありますか。(〇はいくつでも)

図表 12-13 「ソラムナード羽田緑地」でしたいこと



「ソラムナード羽田緑地」でしたいことについて聞いたところ、「休憩・リラックス」が65.1%で最も高く、次いで、「運動」(26.7%)、「飲食」(25.1%)となっている。(図表 12-13)

図表 12-14 「ソラムナード羽田緑地」でしたいこと（性別・性／年代別・地域別 上位5項目）



「ソラムナード羽田緑地」でしたいことを性別で見ると、男女ともに「休憩・リラックス」が6割台で最も高くなっている。

性／年代別で見ると、すべての性／年代で「休憩・リラックス」が最も高くなっている。「運動」は女性で年代が若いほど高くなっている。「遊び」は男女ともに10・20代～40代で高くなっている。

地域別で見ると、すべての地域で「休憩・リラックス」が6割半ばで最も高くなっている。

(図表 12-14)

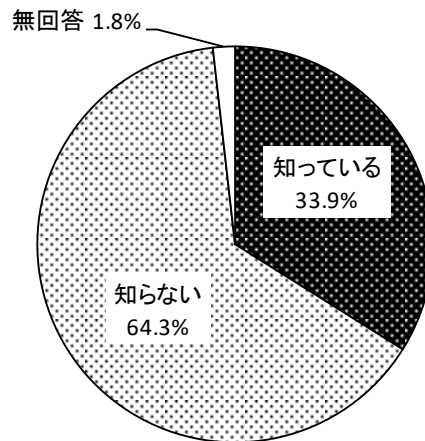
13 自転車の利用について

(1) 大田区内でのコミュニティサイクル運営の認知度

◎「知っている」は3割前半となっている

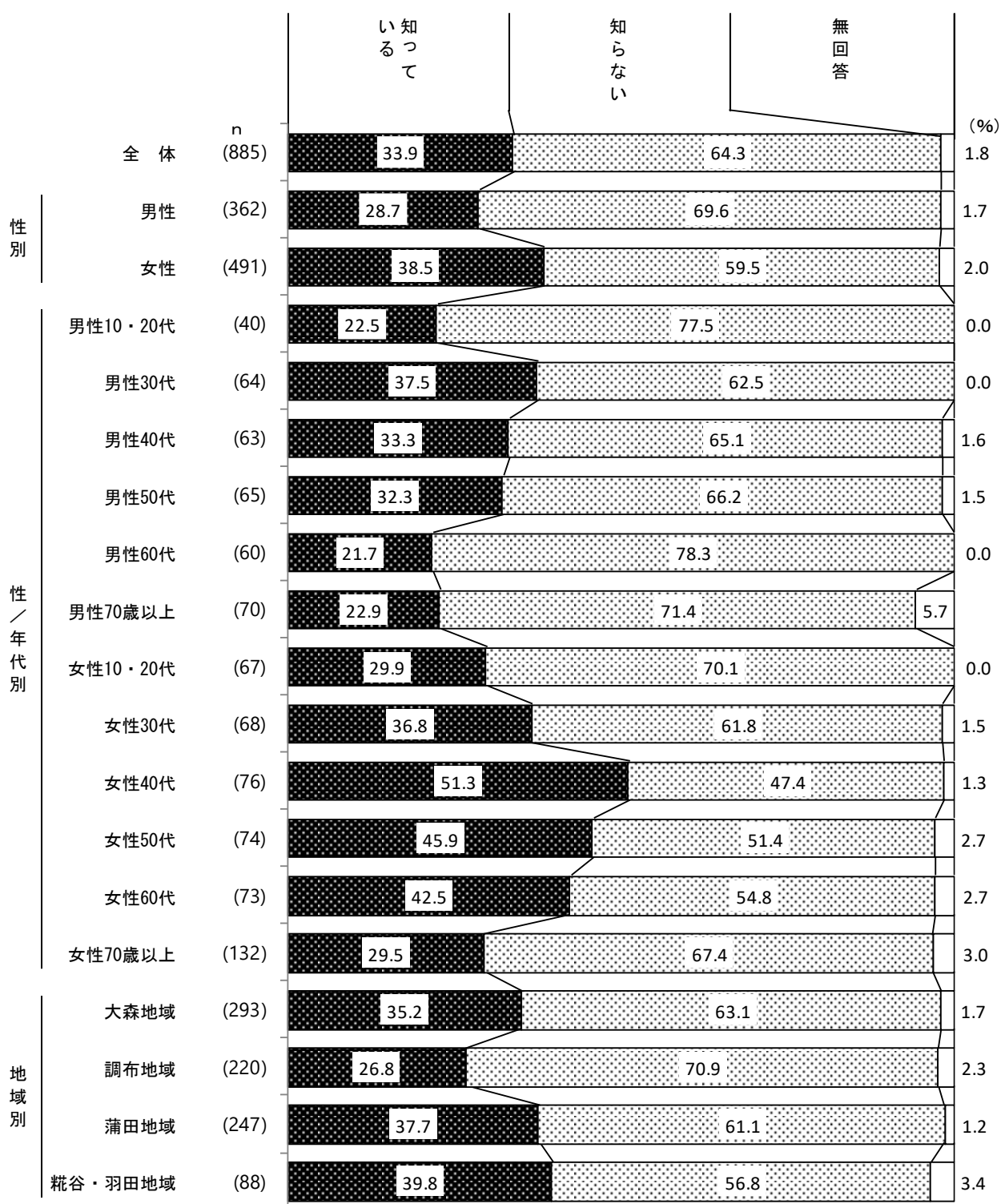
問 28 あなたは、大田区内で「コミュニティサイクル」が運営されていることを知っていますか。
(○は1つ)

図表 13-1 大田区内でのコミュニティサイクル運営の認知度
n=885



大田区内でのコミュニティサイクル運営の認知度について聞いたところ、「知っている」が33.9%、「知らない」が64.3%となっている。(図表 13-1)

図表 13-2 大田区内でのコミュニティサイクル運営の認知度（性別・性／年代別・地域別）



大田区内でのコミュニティサイクル運営の認知度を性別で見ると、「知っている」は女性（38.5%）が男性（28.7%）を9.8ポイント上回っている。

性／年代別で見ると、「知っている」は女性40代で約5割、50代、60代で4割台となっている。

地域別で見ると、「知っている」は調布地域で2割半ば、その他の地域で3割台となっている。

（図表 13-2）

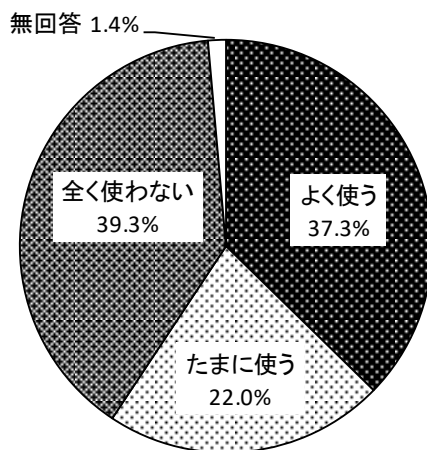
(2) 自転車の利用について

◎「よく使う」は3割後半となっている

問 29 あなたは、普段から自転車を使いますか。(○は1つ)

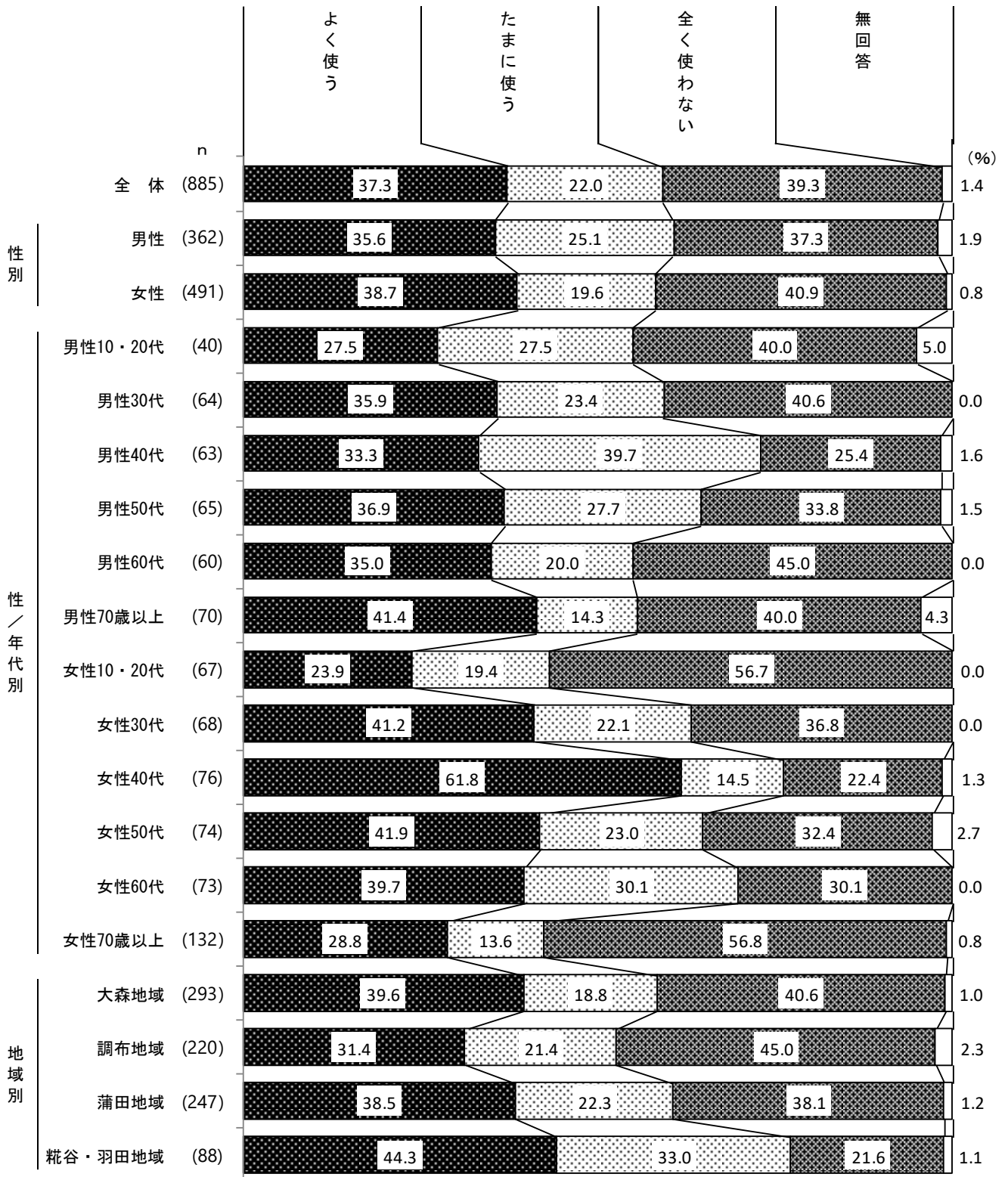
図表 13-3 自転車の利用について

n=885



普段の自転車の利用について聞いたところ、「全く使わない」が39.3%で最も高く、次いで、「よく使う」(37.3%)、「たまに使う」(22.0%)となっている。(図表 13-3)

図表 13-4 自転車の利用について（性別・性／年代別・地域別）



普段の自転車の利用について、性別でみると大きな差異は見られなかった。

性／年代別でみると、「よく使う」は女性40代で約6割となっている。

地域別でみると、糀谷・羽田地域で「よく使う」が4割半ば、その他の地域では3割台となっている。

(図表 13-4)

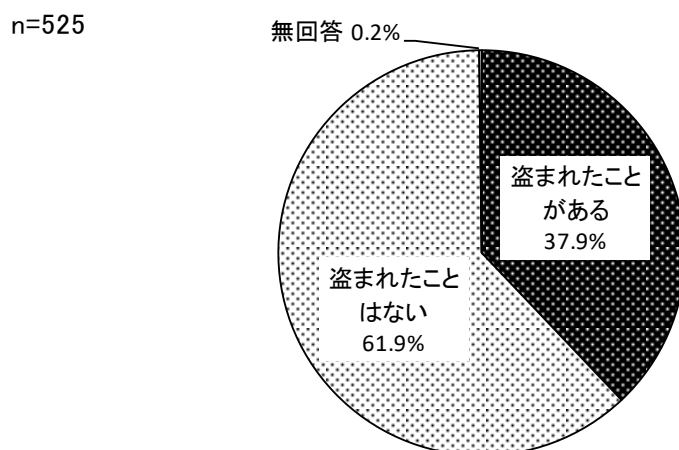
(3) 自転車を盗まれた経験

◎「盗まれたことがある」は3割後半となっている

【問 29 で「1」～「2」（自転車を使う）と回答された方】

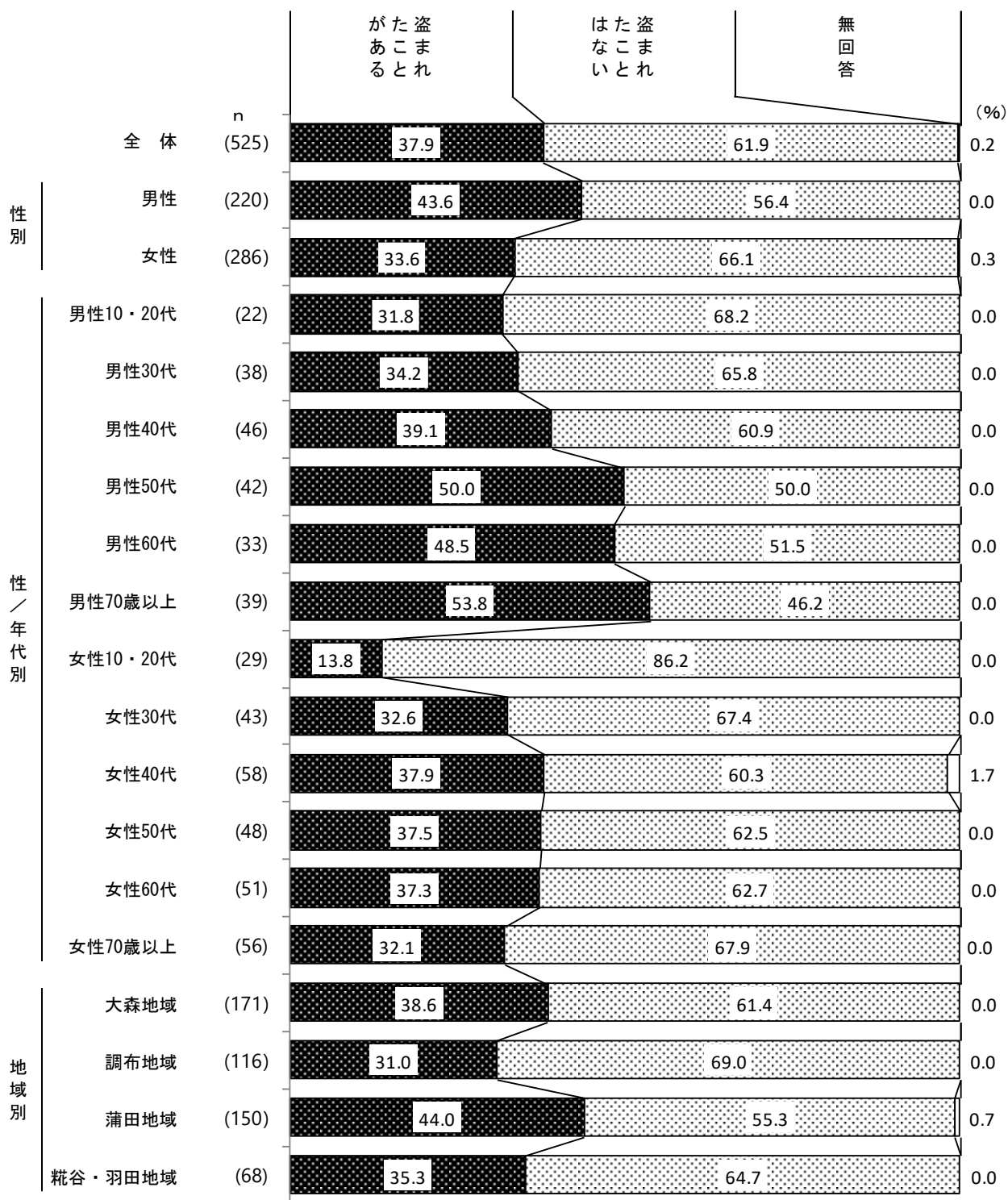
問 30 あなたは、過去に自転車を盗まれたことがありますか。（○は1つ）

図表 13-5 自転車を盗まれた経験



自転車を使う人に自転車を盗まれた経験を聞いたところ、「盗まれたことがある」は37.9%、「盗まれたことはない」は61.9%となっている。（図表 13-5）

図表 13-6 自転車被盗まれた経験（性別・性／年代別・地域別）



自転車を盗まれた経験を性別で見ると、「盗まれたことがある」は男性（43.6%）が女性（33.6%）を10.0ポイント上回っている。

性／年代別で見ると、「盗まれたことがある」は男性50代、70歳以上で5割台となっている。

地域別で見ると、「盗まれたことがある」は蒲田地域で4割半ば、その他の地域で3割台となっている。（図表13-6）

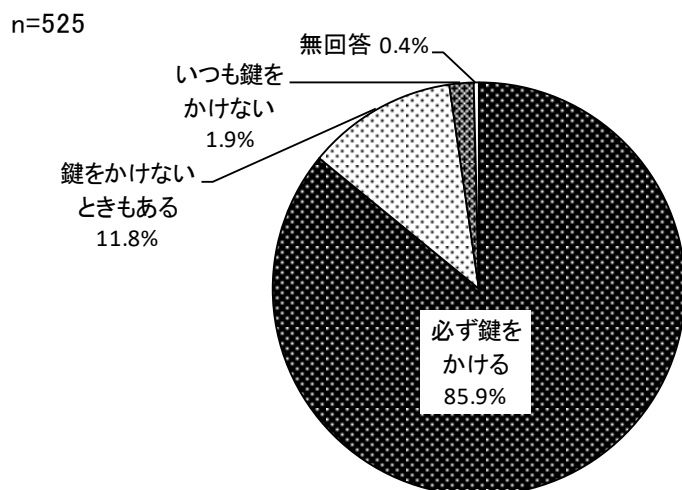
(4) 自転車の鍵をかけるかについて

◎「必ず鍵をかける」が8割半ばとなっている

【問 29 で「1」～「2」(自転車を使う)と回答された方】

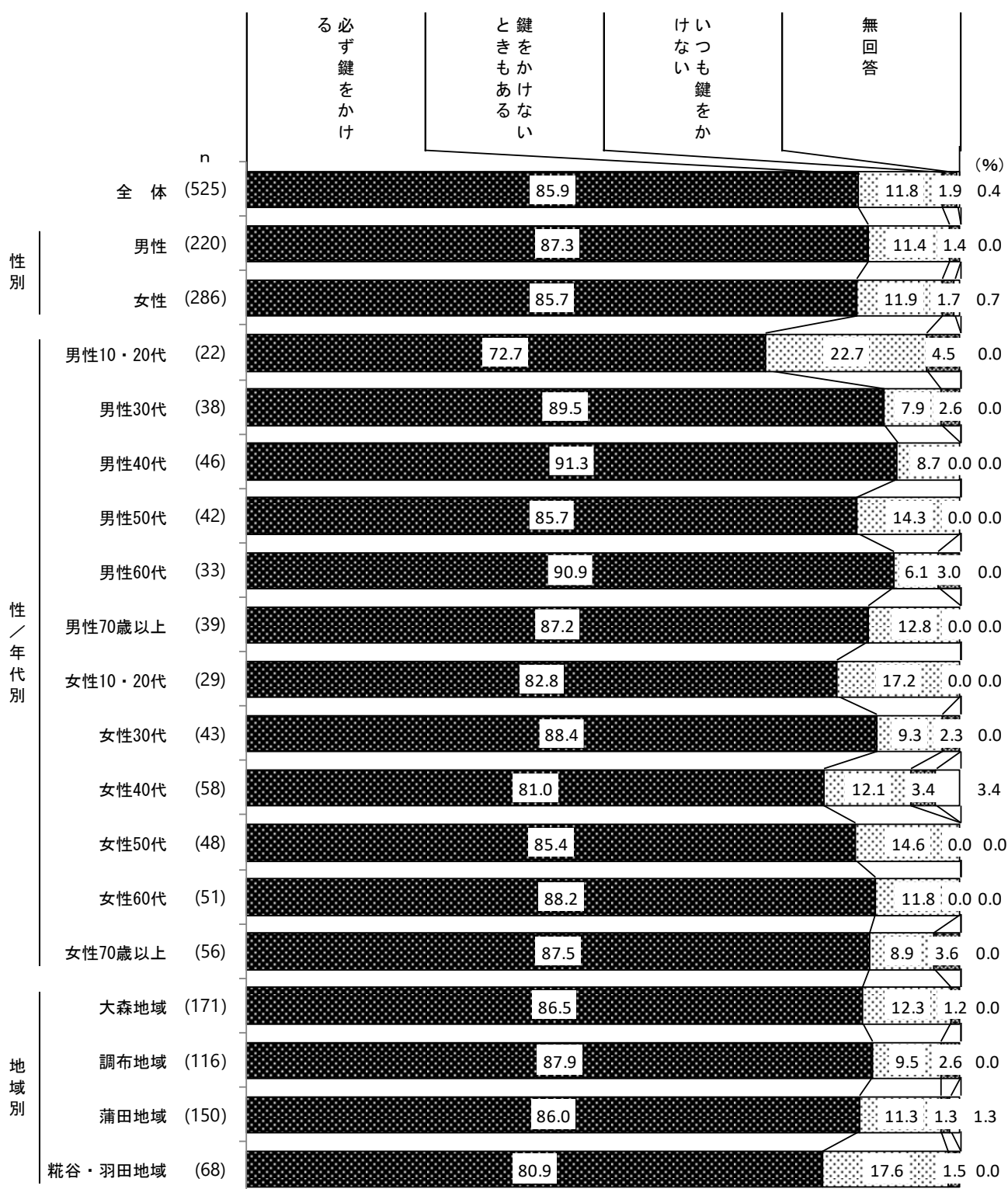
問 31 あなたは、普段自転車から降りた後、鍵をかけますか。(○は1つ)

図表 13-7 自転車の鍵をかけるかについて



自転車を使う人に自転車の鍵をかけるかについて聞いたところ、「必ず鍵をかける」が85.9%、「鍵をかけないときもある」が11.8%、「いつも鍵をかけない」が1.9%となっている。(図表 13-7)

図表 13-8 自転車の鍵をかけるかについて（性別・性／年代別・地域別）



自転車の鍵をかけるかについて、性別で見ると大きな差異は見られなかった。

性／年代別で見ると、「必ず鍵をかける」は男性10・20代で7割前半、40代、60代で約9割、その他の性／年代で8割台となっている。

地域別で見ると、すべての地域で「必ず鍵をかける」が8割台となっている。（図表 13-8）

(5) 自転車の鍵をかけないのは、どのような場所か

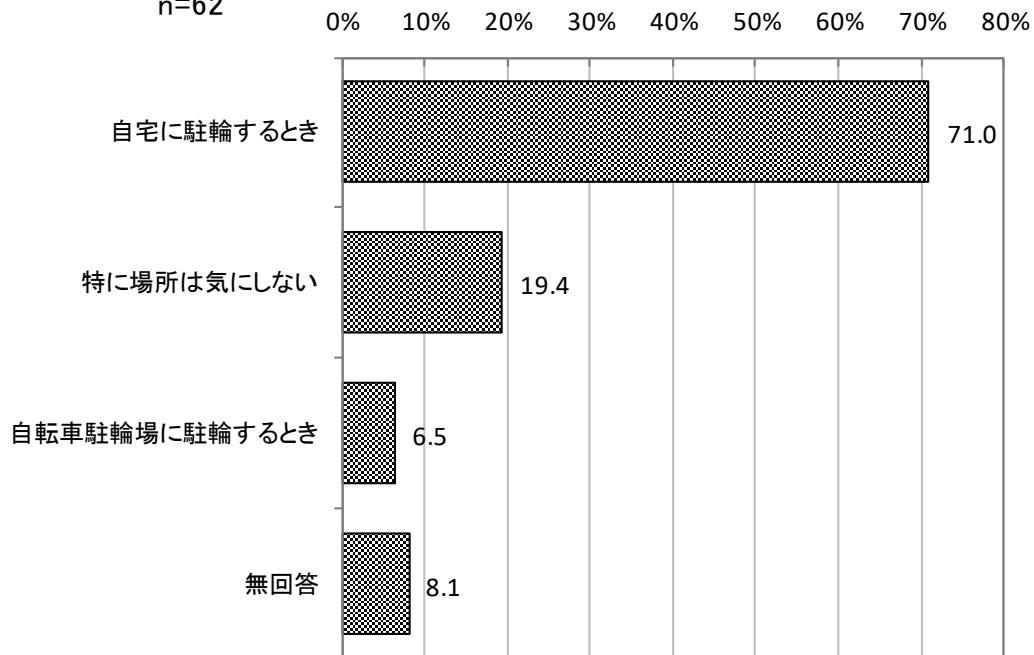
◎「自宅に駐輪するとき」が約7割となっている

【問31で「2. 鍵をかけないときもある」と回答された方】

問31-1 あなたが自転車の鍵をかけないのは、どのような場所ですか。(○はいくつでも)

図表 13-9 自転車の鍵をかけないのは、どのような場所か

n=62



自転車の鍵をかけないときもある人に鍵をかけないのは、どのような場所か聞いたところ、「自宅に駐輪するとき」が71.0%で最も高く、次いで、「特に場所は気にしない」(19.4%)、「自転車駐輪場に駐輪するとき」(6.5%)となっている。(図表13-9)

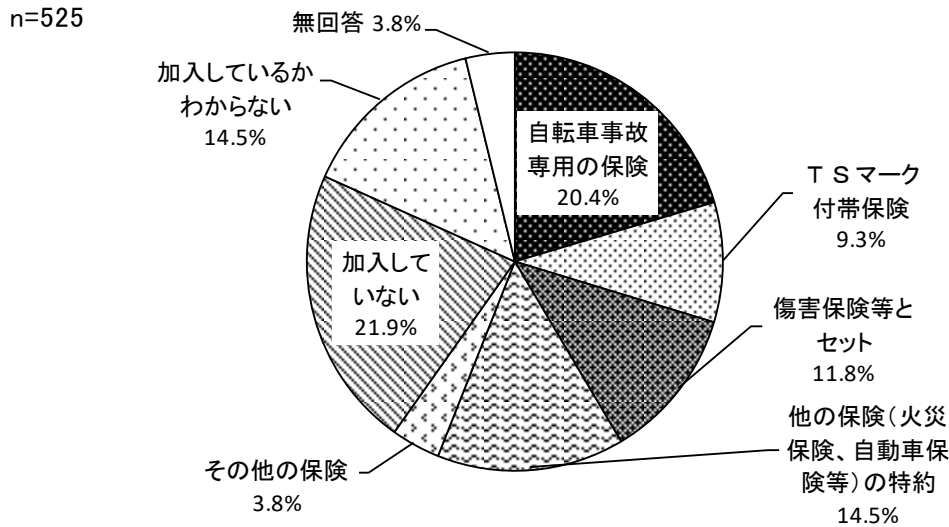
(6) 自転車事故に係る損害賠償保険への加入の有無

◎《加入している(合計)》は約6割となっている

【問29で「1」～「2」(自転車を使う)と回答された方】

問32 あなたは、自転車事故に係る損害賠償保険に加入していますか。(○は1つ)

図表 13-10 自転車事故に係る損害賠償保険への加入の有無

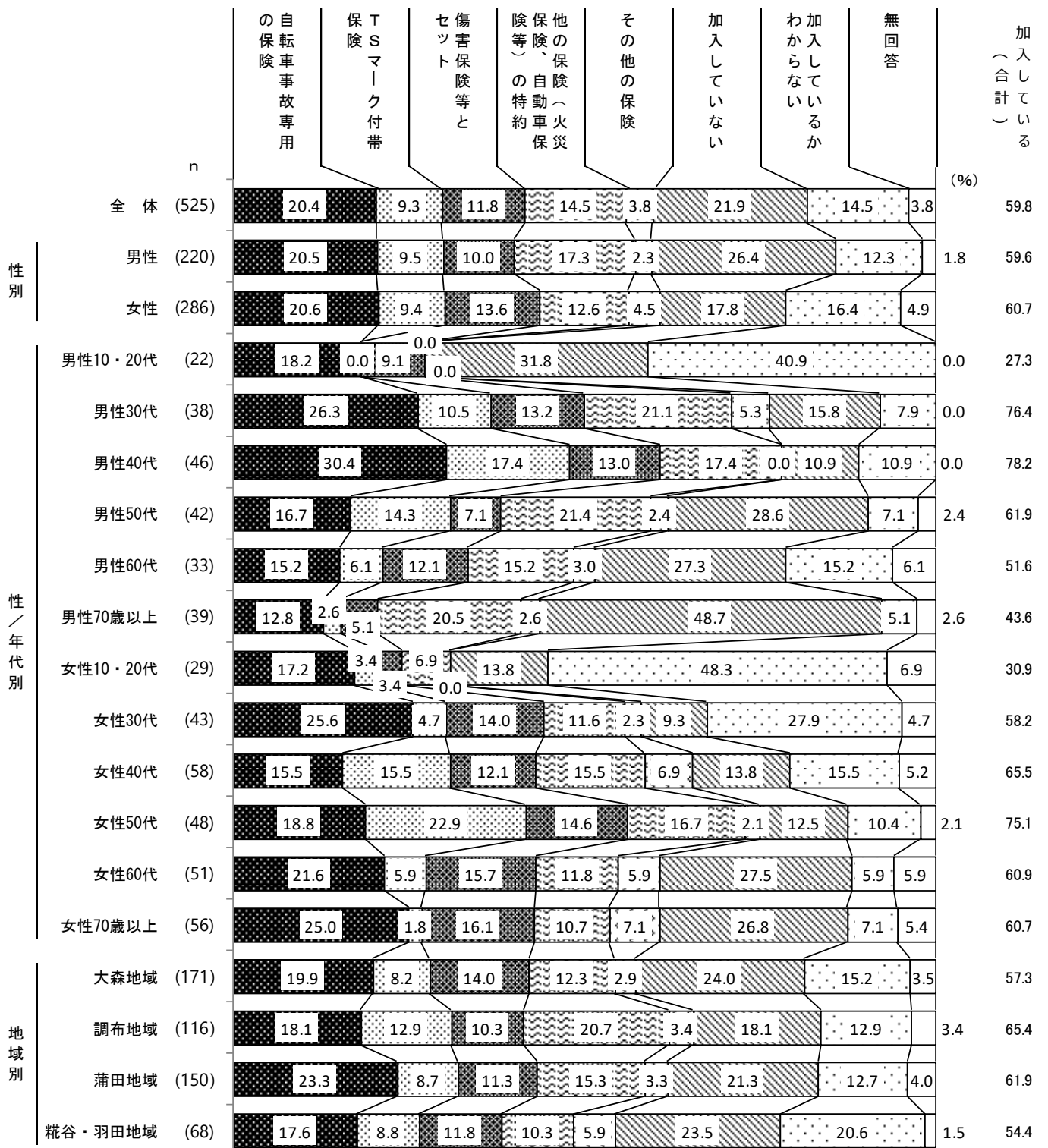


自転車を使う人に自転車事故に係る損害賠償保険へ加入しているか聞いたところ、加入している保険は「自転車事故専用の保険」が20.4%で最も高く、次いで、「他の保険(火災保険、自動車保険等)の特約」(14.5%)、「傷害保険等とセット」(11.8%)などとなっている。《加入している(合計)》は59.8%となっている。

一方、「加入していない」は21.9%、「加入しているかわからない」は14.5%となっている。

(図表 13-10)

図表 13-11 自転車事故に係る損害賠償保険への加入の有無（性・性／年齢別・地域別）



自転車事故に係る損害賠償保険へ加入しているかを性別で見ると、男女ともに《加入している（合計）》は約6割となっている。

性／年代別で見ると、「加入していない」が男性70歳以上で48.7%となっている。「加入しているかわからない」が男性・女性ともに10・20代で4割台となっている。

地域別で見ると、いずれの地域も《加入している（合計）》は5割以上となっている。（図表 13-11）

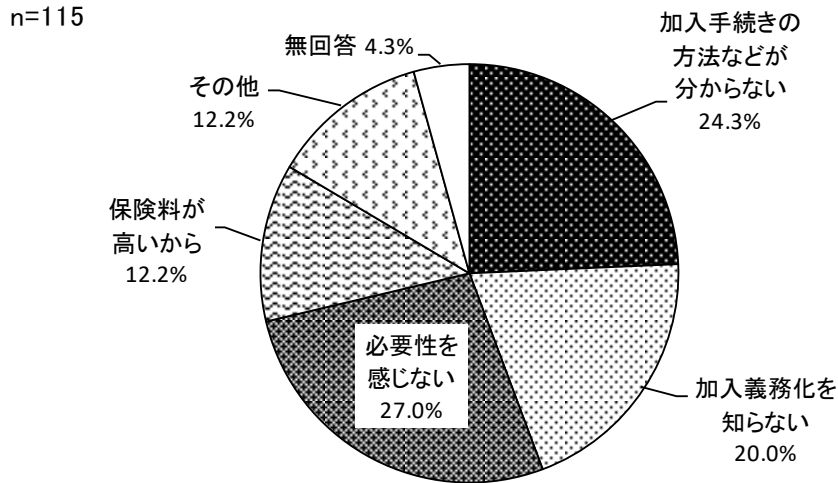
(7) 自転車事故に係る損害賠償保険に加入していない理由

◎「必要性を感じない」が2割後半となっている

【問 32 で「6. 加入していない」と回答された方】

問 32-1 あなたが保険に加入していない理由は、何ですか。(○は1つ)

図表 13-12 自転車事故に係る損害賠償保険に加入していない理由



自転車事故に係る損害賠償保険に加入していない理由について聞いたところ、「必要性を感じない」が27.0%で最も高く、次いで、「加入手続きの方法などが分からない」(24.3%)、「加入義務化を知らない」(20.0%)となっている。(図表 13-12)

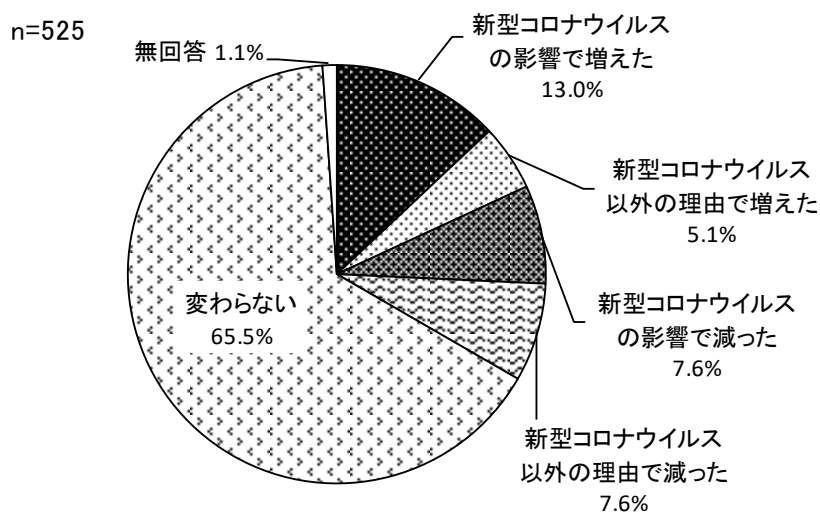
(8) 自転車を使う頻度について

◎「変わらない」が6割半ばとなっている

【問 29 で「1」～「2」(自転車を使う) と回答された方】

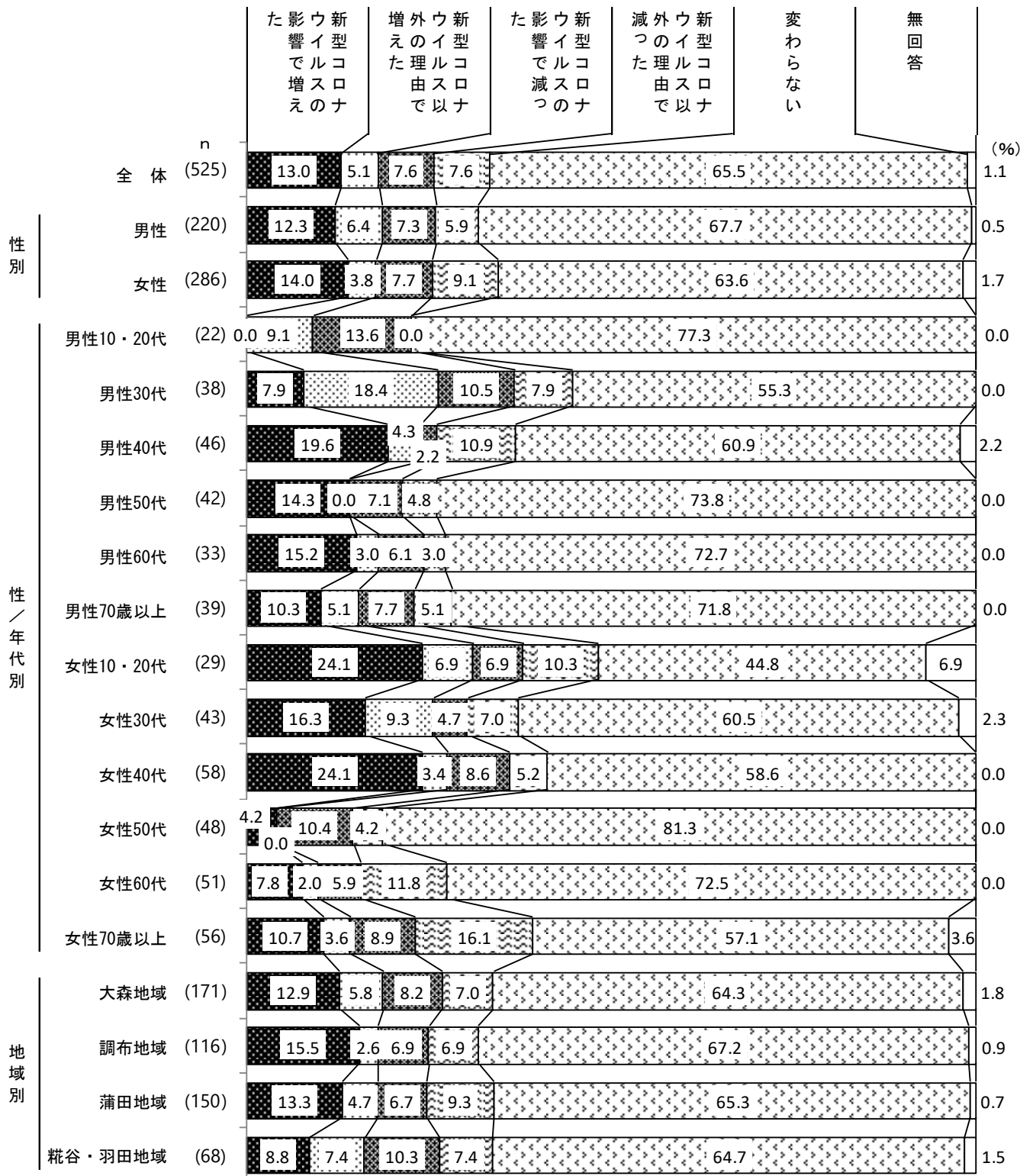
問 33 前年に比べ、自転車を使う機会が増えましたか。(○は1つ)

図表 13-13 自転車を使う頻度について



前年と比べて自転車を使う頻度について聞いたところ、「変わらない」が65.5%で最も高く、次いで、「新型コロナウイルスの影響で増えた」(13.0%)、「新型コロナウイルスの影響で減った」「新型コロナウイルス以外の理由で減った」(ともに7.6%)となっている。(図表 13-13)

図表 13-14 自転車を使う頻度について（性別・性／年代別・地域別）



前年と比べた自転車を使う頻度について、性別で見ると大きな差異は見られなかった。

性／年代別で見ると、女性10・20代、40代で「新型コロナウイルスの影響で増えた」が2割半ばとなっている。

地域別で見ると大きな差異は見られなかった。(図表 13-14)

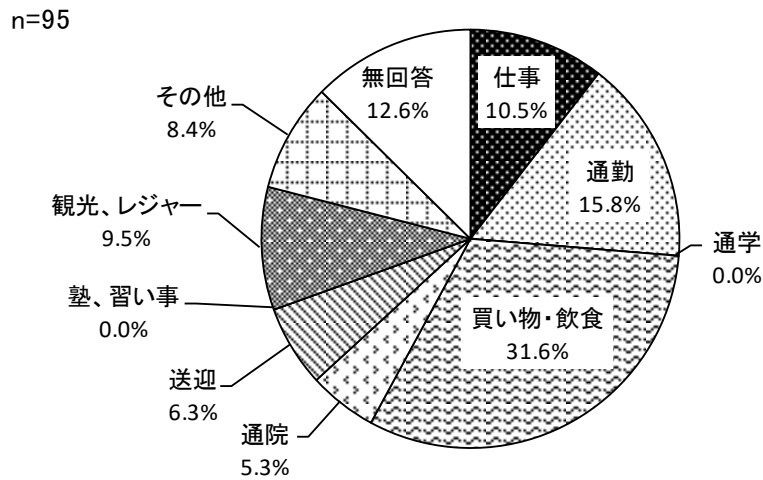
(9) 自転車を使う機会が増えた主な理由

◎「買い物・飲食」が約3割となっている

【問33で「1」～「2」(使う機会が増えた)と回答された方】

問33-1 自転車を使う機会が増えた主な理由は、何ですか。(○は1つ)

図表 13-15 自転車を使う頻度について



自転車を使う機会が増えた主な理由について聞いたところ、「買い物・飲食」が31.6%で最も高く、次いで、「通勤」(15.8%)、「仕事」(10.5%)となっている。(図表13-15)

14 食品ロス・フードドライブについて

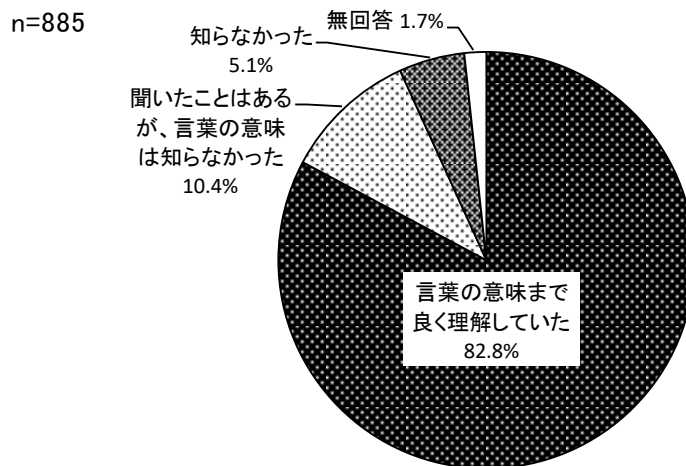
(1) 「食品ロス」の認知度

◎「言葉の意味まで良く理解していた」が8割前半となっている

問 34 あなたは、「食品ロス」という言葉をご存知ですか。(○は1つ)

※食品ロスとは、まだ食べられるのに捨てられてしまう食品

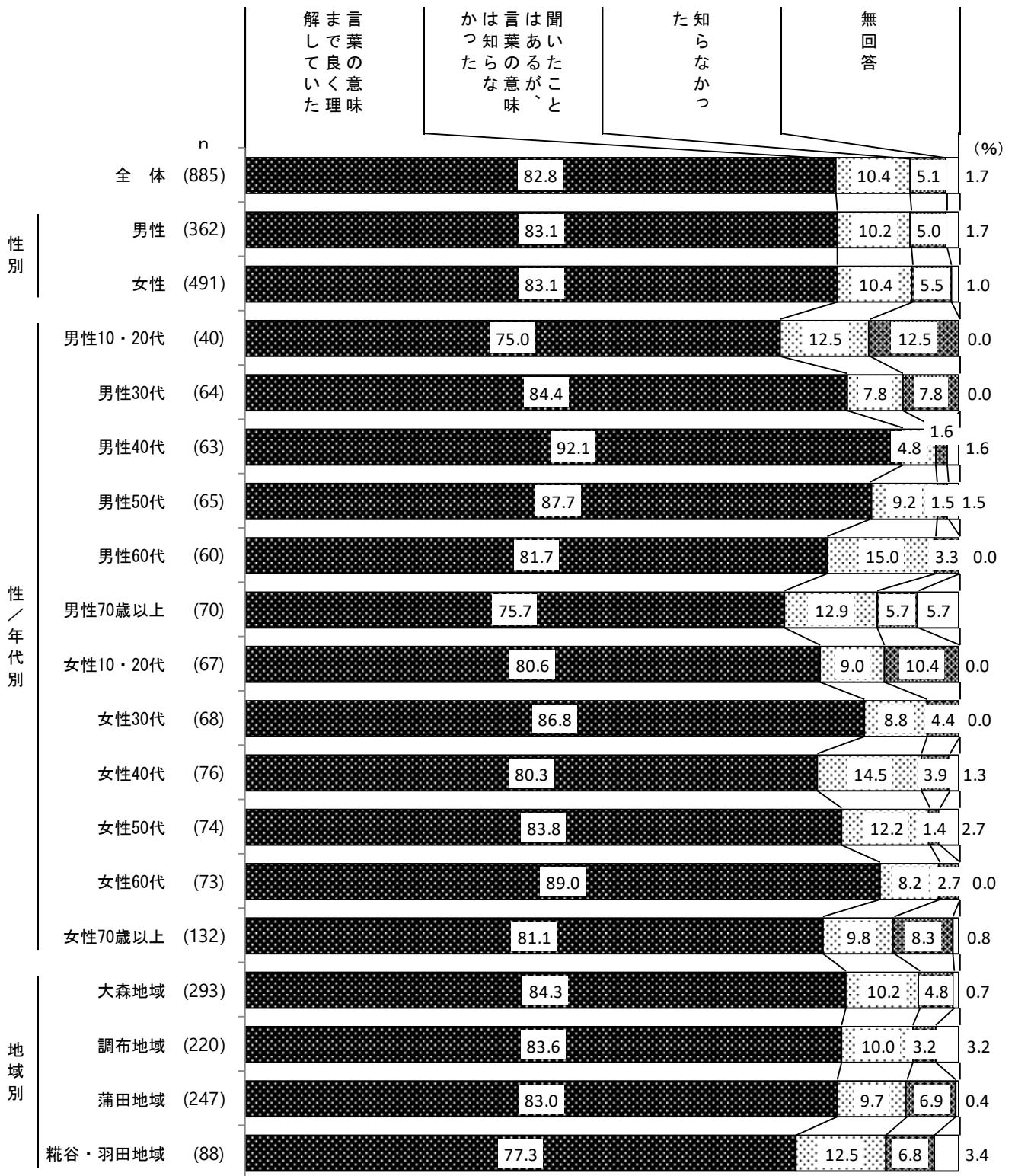
図表 14-1 「食品ロス」の認知度



「食品ロス」の認知度について聞いたところ、「言葉の意味まで良く理解していた」が82.8%、「聞いたことはあるが、言葉の意味は知らなかった」が10.4%、「知らなかった」が5.1%となっている。

(図表 14-1)

図表 14-2 「食品ロス」の認知度（性別・性／年代別・地域別）



「食品ロス」の認知度について、性別でみると大きな差異は見られなかった。

年代別でみると、「言葉の意味まで良く理解していた」は男性40代で9割前半となっている。

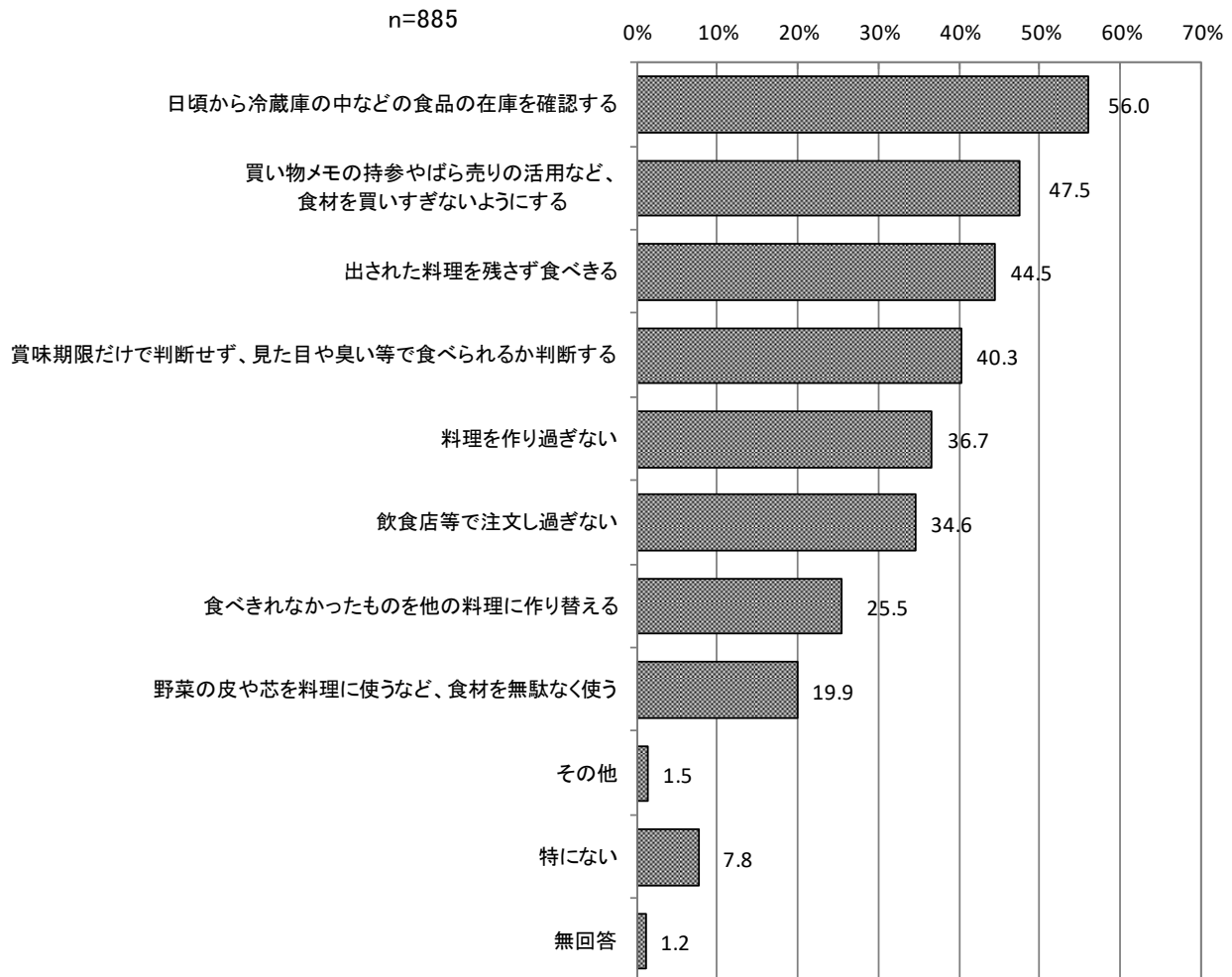
地域別でみると、「言葉の意味まで良く理解していた」は糞谷・羽田地域で7割後半、その他の地域で8割台となっている。(図表 14-2)

(2) 「食品ロス」を減らすための取り組み

◎「日頃から冷蔵庫の中などの食品の在庫を確認する」が5割半ばで最も高くなっている

問 35 あなたは、生活の中で「食品ロス」を減らすために取り組んでいることはありますか。
(○はい/□いいえ)

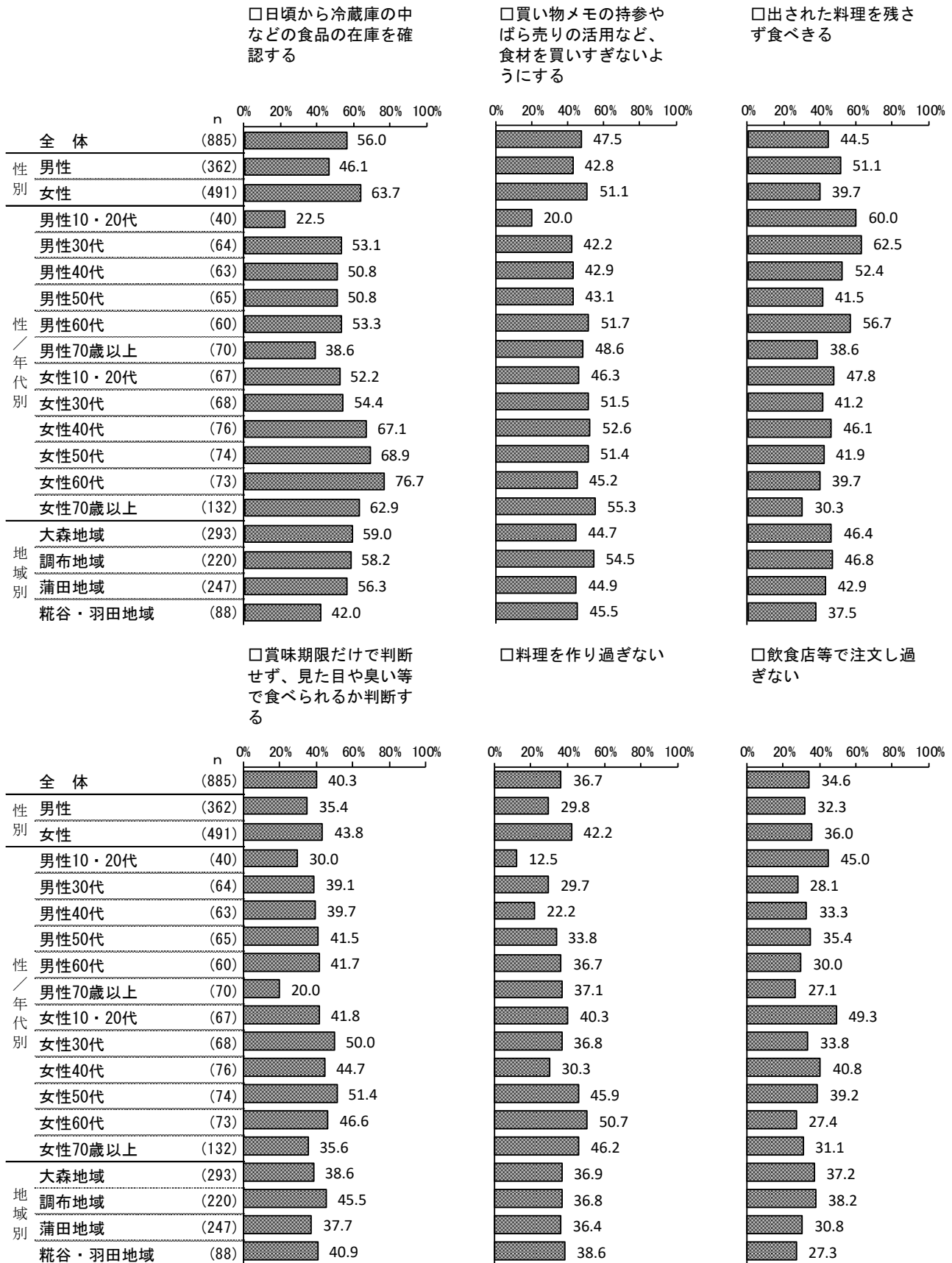
図表 14-3 「食品ロス」を減らすための取り組み



「食品ロス」を減らすために取り組んでいることを聞いたところ、「日頃から冷蔵庫の中などの食品の在庫を確認する」が56.0%で最も高く、次いで、「買い物メモの持参やばら売りの活用など、食材を買いすぎないようにする」(47.5%)、「出された料理を残さず食べきる」(44.5%)となっている。

(図表 14-3)

図表 14-4 「食品ロス」を減らすための取り組み（性別・性/年代別・地域別 上位6項目）



「食品ロス」を減らすための取り組みについて、上位6項目を性別で見ると、男性は「出された料理を残さず食べきる」が、女性は「日頃から冷蔵庫の中などの食品の在庫を確認する」が最も高くなっている。

性／年代別で見ると、女性はすべての年代で「日頃から冷蔵庫の中などの食品の在庫を確認する」が最も高くなっている。男性では10・20代、30代、40代、60代で「出された料理を残さず食べきる」が、50代で「日頃から冷蔵庫の中などの食品の在庫を確認する」が、70歳以上で「買い物メモの持参やばら売りの活用など、食材を買い過ぎないようにする」が最も高くなっている。

地域別で見ると、糀谷・羽田地域で「買い物メモの持参やばら売りの活用など、食材を買い過ぎないようにする」が、その他の地域で「日頃から冷蔵庫の中などの食品の在庫を確認する」が最も高くなっている。(図表14-4)

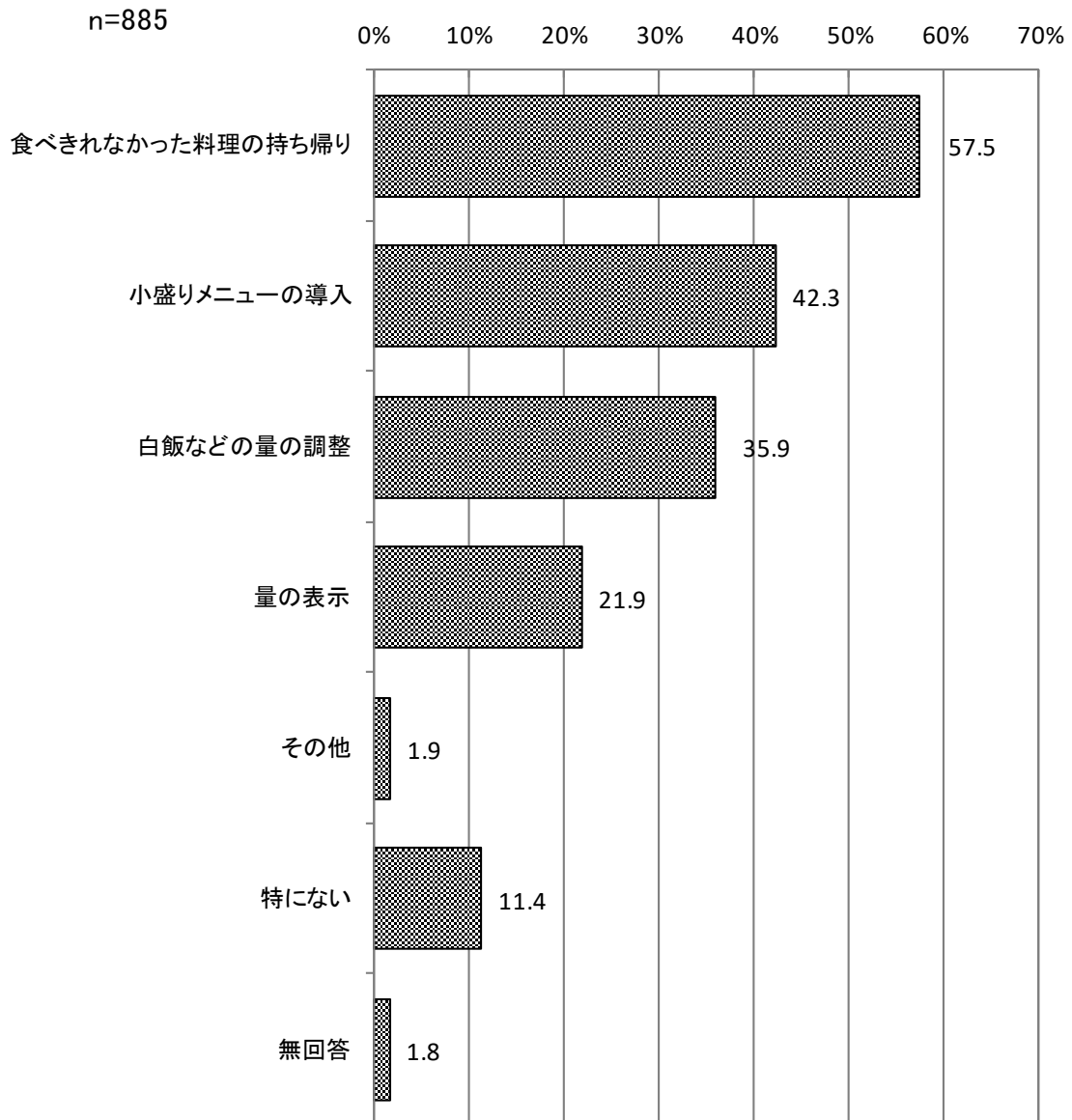
(3) 食べ残しをしないためにお店にして欲しいこと

◎「食べきれなかった料理の持ち帰り」が5割後半で最も高くなっている

問 36 外食をするとき、食べ残しをしないためにお店にして欲しいことは何ですか。

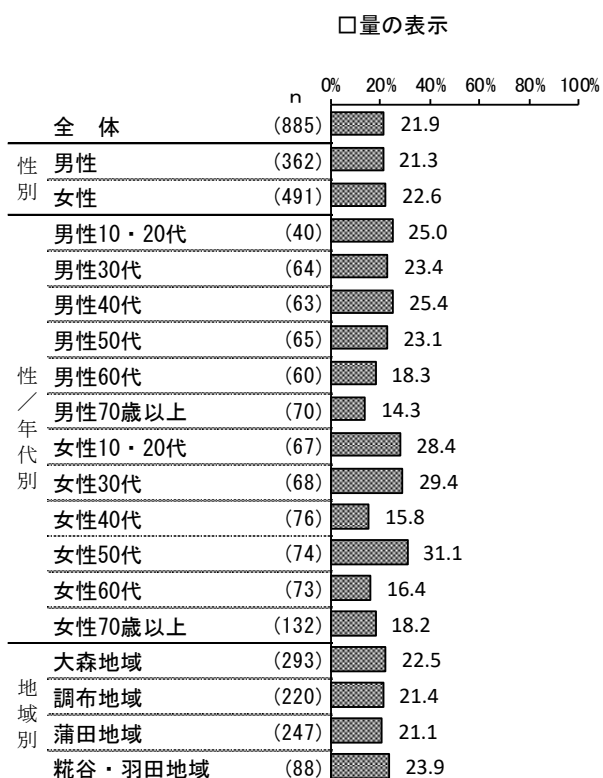
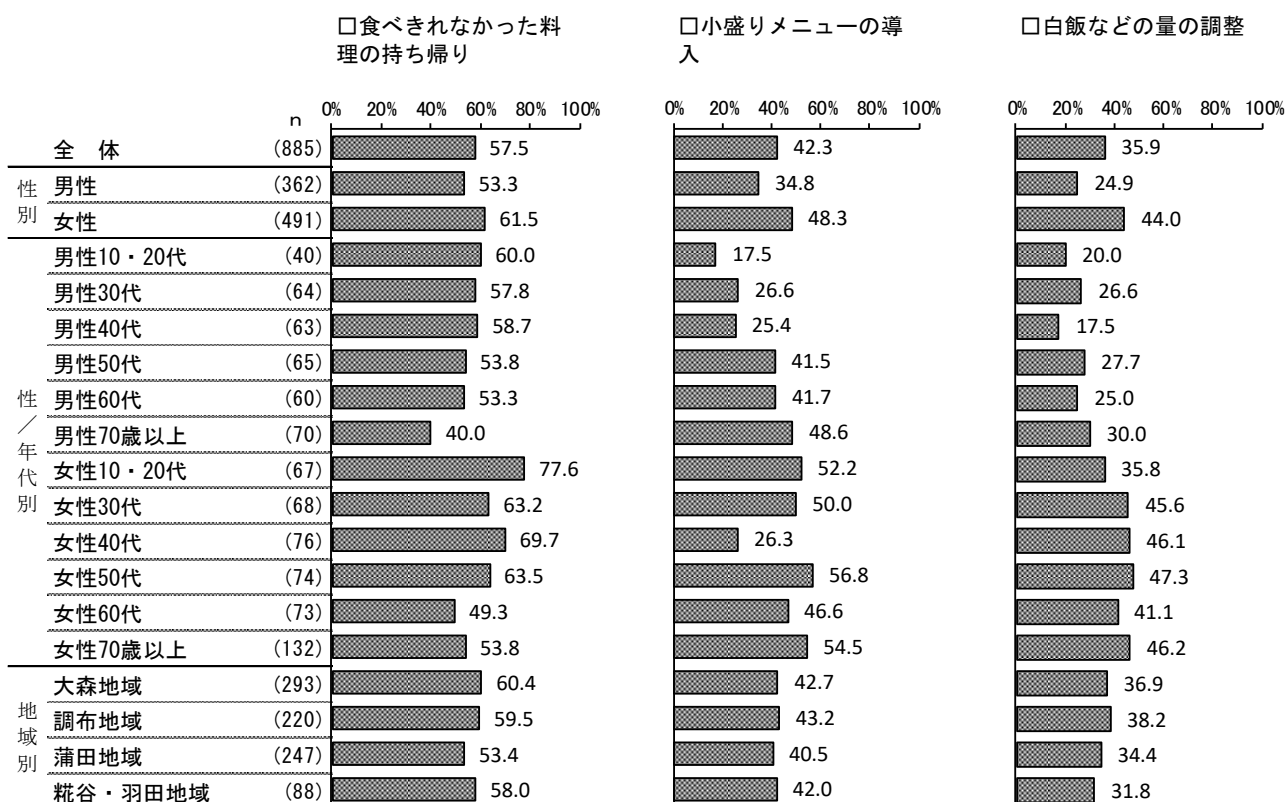
(○はいくつでも)

図表 14-5 食べ残しをしないためにお店にして欲しいこと



食べ残しをしないためにお店にして欲しいことについて聞いたところ、「食べきれなかった料理の持ち帰り」が57.5%で最も高く、次いで、「小盛りメニューの導入」(42.3%)、「白飯などの量の調整」(35.9%)となっている。(図表 14-5)

図表 14-6 食べ残しをしないためにお店にして欲しいこと（性別・性／年代別・地域別 上位4項目）



食べ残しをしないためにお店にして欲しいことを性別で見ると、男女ともに「食べきれなかった料理の持ち帰り」が最も高くなっている。「小盛りメニューの導入」で女性（48.3%）が男性（34.8%）を13.5ポイント、「白飯などの量の調整」で女性（44.0%）が男性（24.9%）を19.1ポイント上回っている。

性／年代別で見ると、男女ともに70歳以上で「小盛りメニューの導入」が、その他の性／年代では「食べきれなかった料理の持ち帰り」が最も高くなっている。

地域別で見ると、すべての地域で「食べきれなかった料理の持ち帰り」が最も高くなっている。

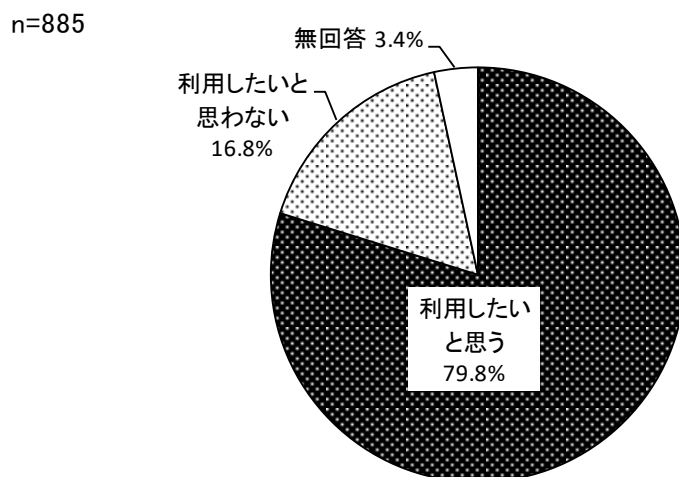
（図表14-6）

(4) 「食品ロス」削減に取り組むお店の利用の希望

◎「利用したいと思う」が約8割となっている

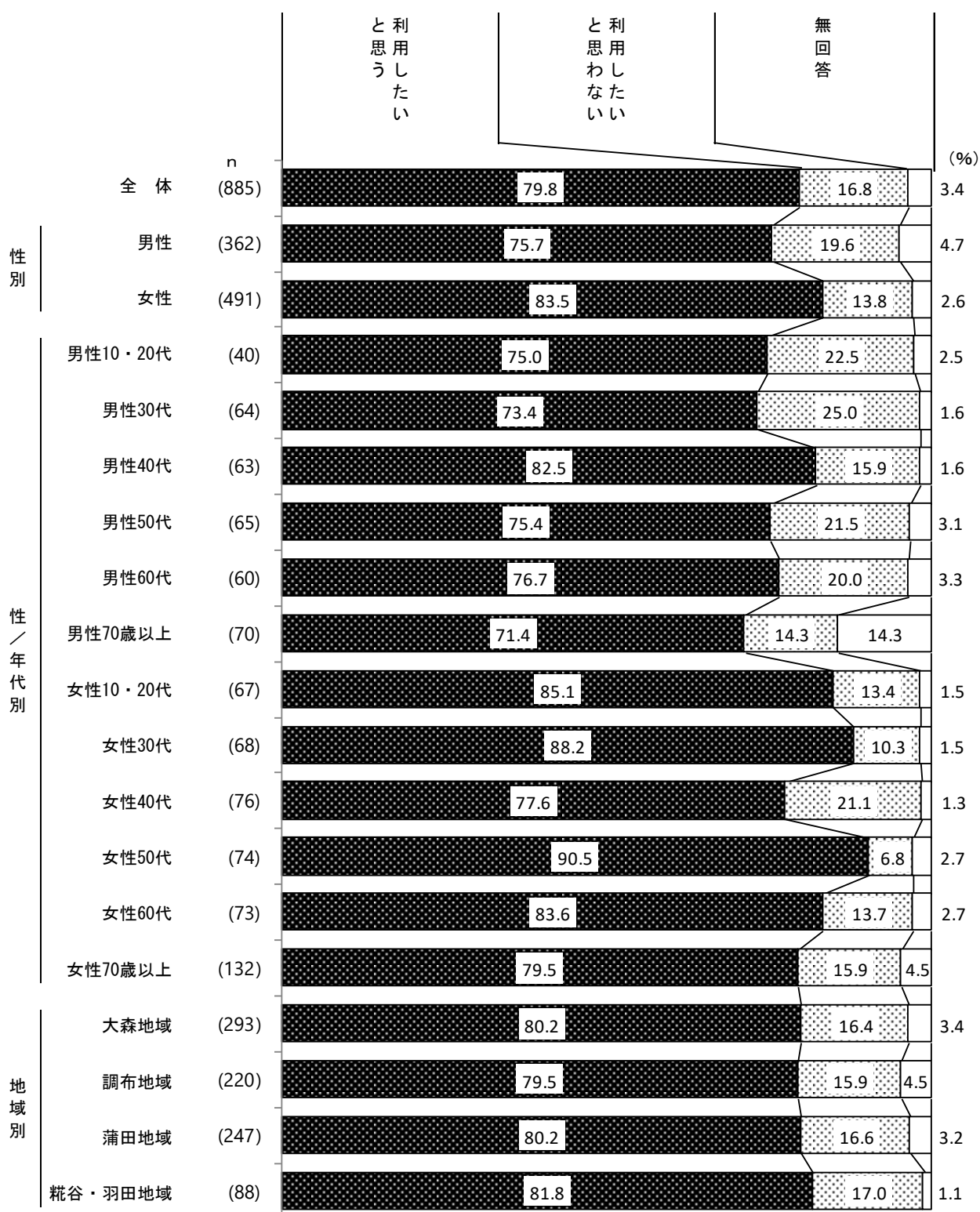
問 37 食品ロス削減に取り組む飲食店や食料品小売店等の情報があれば、そのお店を利用したいと思いますか。(〇は1つ)

図表 14-7 「食品ロス」削減に取り組むお店の利用の希望



食品ロス削減に取り組むお店の情報があれば、そのお店を利用したいか聞いたところ、「利用したいと思う」が79.8%、「利用したいと思わない」が16.8%となっている。(図表14-7)

図表 14-8 「食品ロス」削減に取り組むお店の利用の希望（性別・性／年代別・地域別）



「食品ロス」削減に取り組むお店の利用の希望を性別で見ると、「利用したいと思う」は女性(83.5%)が男性(75.7%)を7.8ポイント上回っている。

性／年代別にみると、「利用したいと思う」は女性50代で約9割となっている。

地域別で見ると、「利用したいと思う」はすべての地域で約8割となっている。(図表14-8)

(5) 「フードドライブ」への提供について

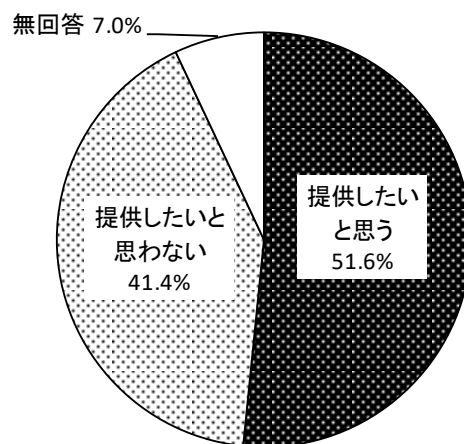
◎「提供したいと思う」が約5割となっている

問 38 ご家庭の未利用食品を集めて、必要としている団体等に提供する活動を「フードドライブ」といいます。あなたの家で未利用食品が出た際、フードドライブに提供したいと思いますか。
(○は1つ)

※フードドライブに提供できる食品…主に米などの穀類、調味料、缶詰、インスタント食品など

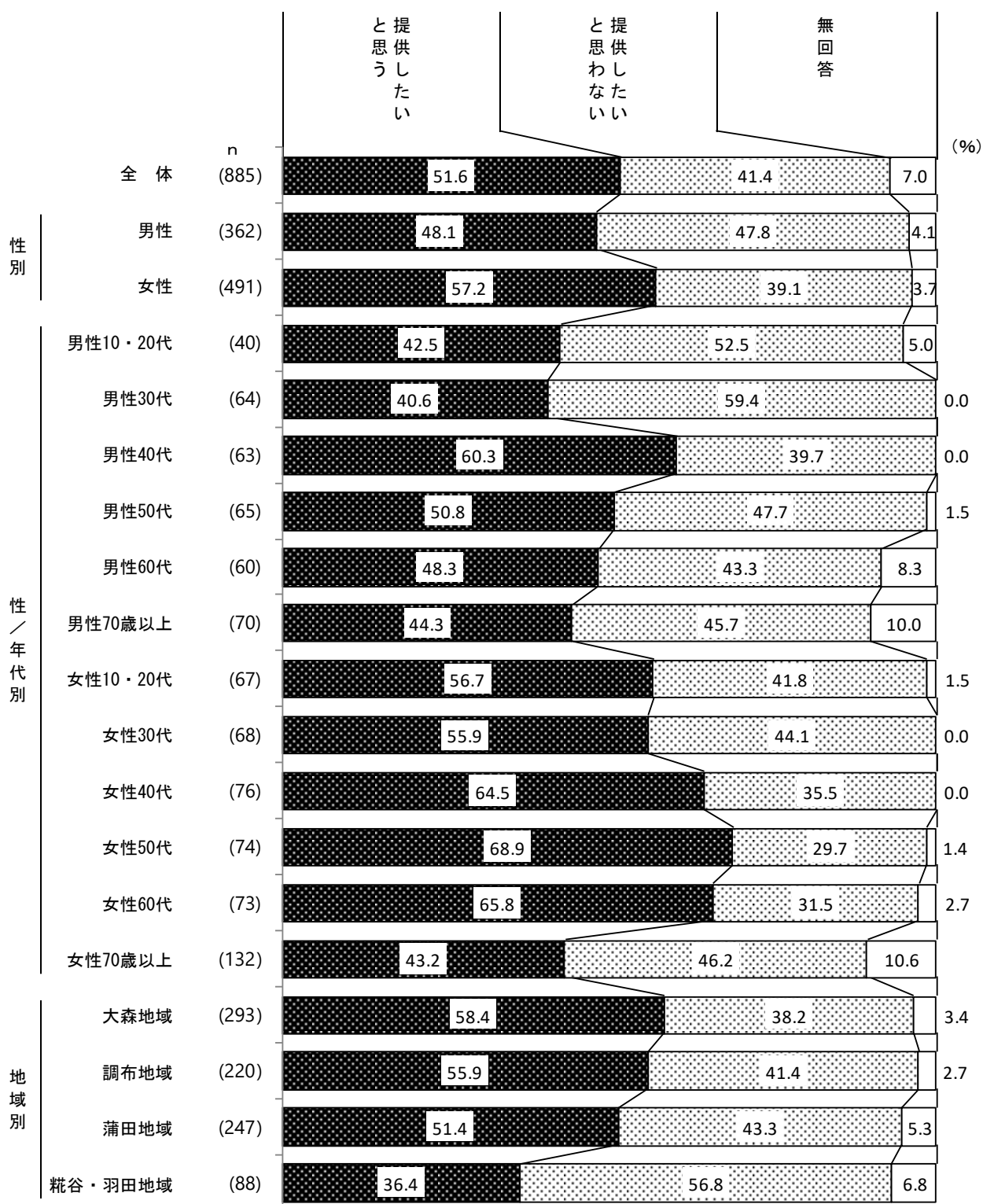
図表 14-9 「フードドライブ」への提供について

n=885



「フードドライブ」への提供について聞いたところ、「提供したいと思う」が51.6%、「提供したいと思わない」が41.4%となっている。(図表 14-9)

図表 14-10 「フードドライブ」への提供について（性・性／年齢別・地域別）



「フードドライブ」への提供について性別でみると、「提供したいと思う」は女性（57.2%）が男性（48.1%）を9.1ポイント上回っている。

性／年代別でみると、「提供したいと思う」は男性40代、女性40代～60代で6割台となっている。地域別でみると、大森地域、調布地域、蒲田地域では「提供したいと思う」が5割台となっている。（図表14-10）

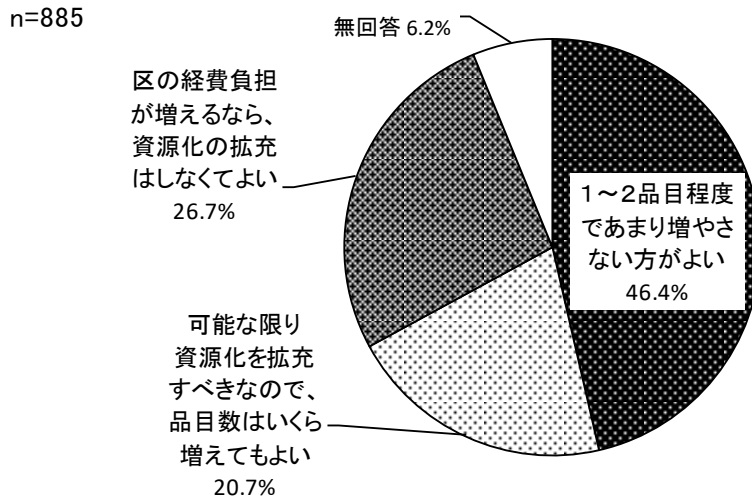
15 プラスチック容器の回収について

(1) 資源化のために適当な品目数について

◎「1～2品目程度であまり増やさない方がよい」が4割半ばで最も高くなっている

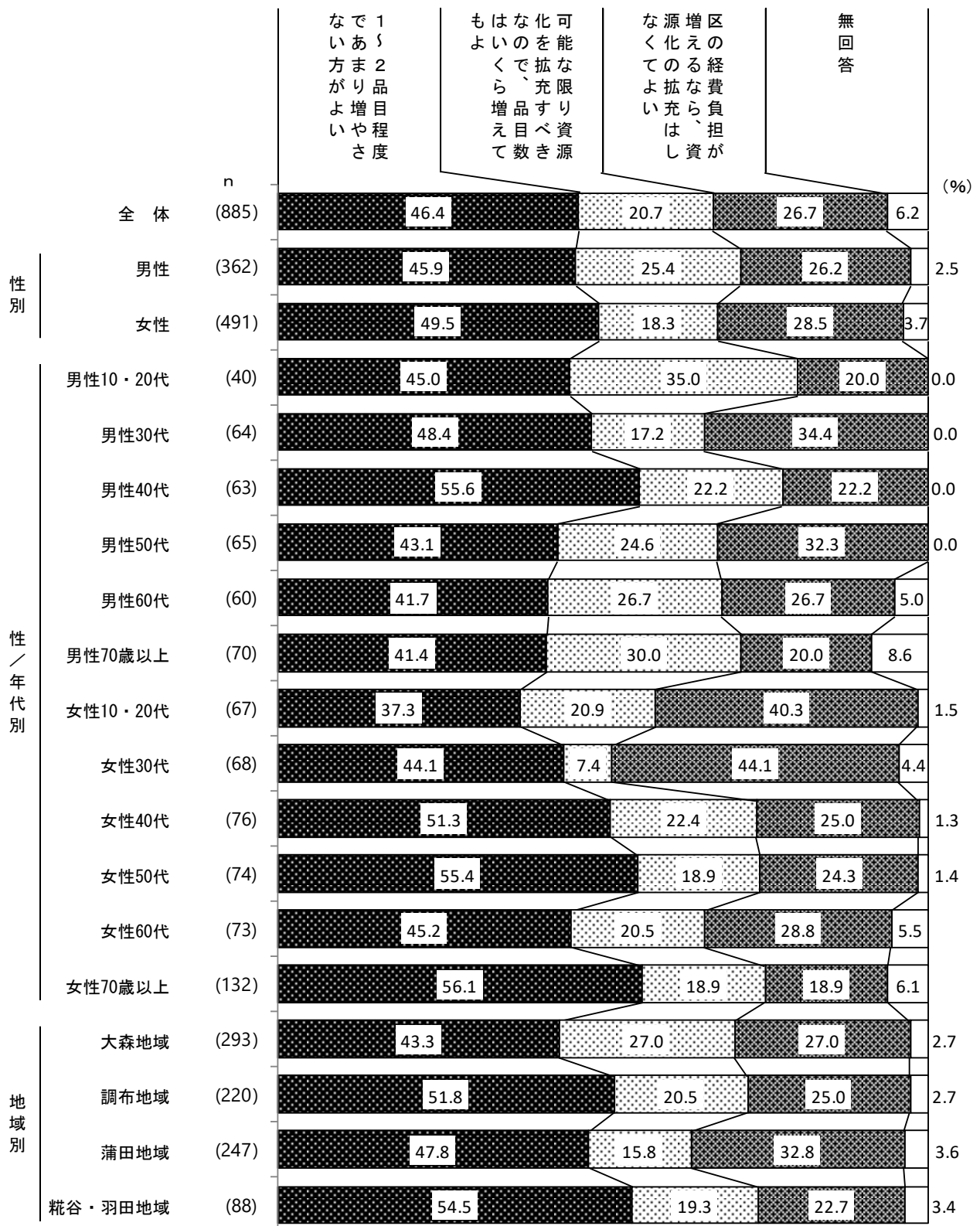
問 39 今まで可燃ごみとして出していたプラスチック製の容器や包装材を、今後資源として回収することになった場合、どの程度品目を増やすことが適当だと考えますか。(最も近いもの1つに○) ※資源化が拡充されますが、その分区の経費負担は増加します。

図表 15-1 資源化のために適当な品目数について



プラスチック容器の資源化のために適当な品目数について聞いたところ、「1～2品目程度であまり増やさない方がよい」が46.4%で最も高く、次いで、「区を経費負担が増えるなら、資源化の拡充はしなくてよい」(26.7%)、「可能な限り資源化を拡充すべきなので、品目数はいくら増えてもよい」(20.7%)となっている。(図表 15-1)

図表 15-2 資源化のために適当な品目数について（性別・性／年代別・地域別）



プラスチック容器の資源化のために適当な品目数について、性別でみると大きな差異は見られなかった。

性／年代別でみると、男性はすべての年代で「1～2品目程度であまり増やさない方がよい」が最も高くなっている。女性は40代以上で「1～2品目程度であまり増やさない方がよい」が、10・20代で「区の経費負担が増えるなら、資源化の拡充はしなくてよい」が、30代で「1～2品目程度であまり増やさない方がよい」と「区の経費負担が増えるなら、資源化の拡充はしなくてよい」が同率で最も高くなっている。

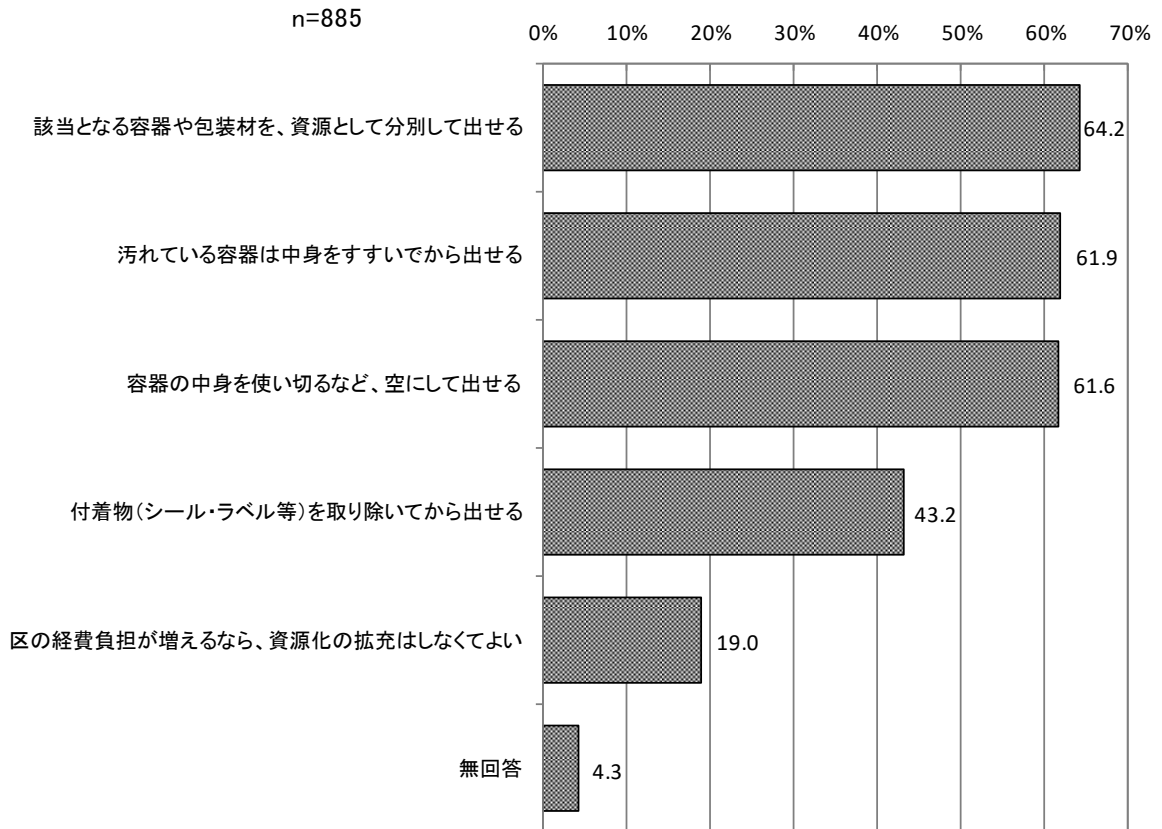
地域別でみると、すべての地域が「1～2品目程度であまり増やさない方がよい」が最も高くなっている。(図表 15-2)

(2) 資源化のために、どこまで手間をかけられるか

◎「該当となる容器や包装材を、資源として分別して出せる」、「汚れている容器は中身をすすいでから出せる」、「容器の中身を使い切るなど、空にして出せる」が6割台となっている

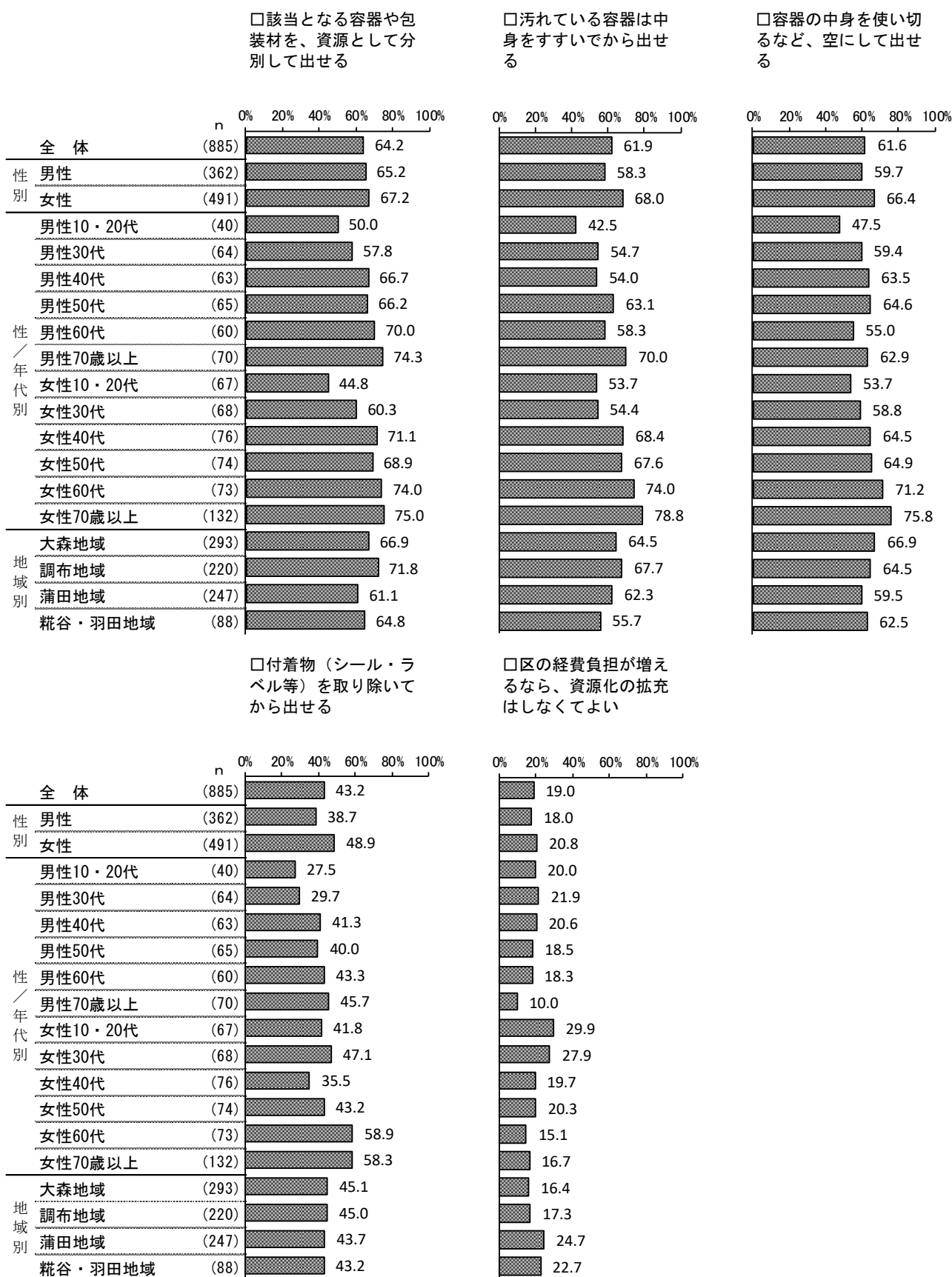
問 40 今まで可燃ごみとして出していたプラスチック製の容器や包装材を、今後資源として回収することになった場合、どこまでなら手間をかけることができますか。(〇はいくつでも)
※資源化拡充のため経費は増えますが、かける手間が多くなると、区の経費負担は抑制されます。

図表 15-3 資源化のために、どこまで手間をかけられるか



プラスチック容器の資源化のために、どこまで手間をかけられるかについて聞いたところ、「該当となる容器や包装材を、資源として分別して出せる」が64.2%で最も高く、次いで、「汚れている容器は中身をすすいでから出せる」(61.9%)、「容器の中身を使い切るなど、空にして出せる」(61.6%)となっている。(図表 15-3)

図表 15-4 資源化のために、どこまで手間をかけられるか（性別・性/年代別・地域別 上位5項目）



プラスチック容器の資源化のために、どこまで手間をかけられるかについて、上位5項目を性別で見ると、「付着物（シール・ラベル等）を取り除いてから出せる」は女性（48.9%）が男性（38.7%）を10.2ポイント、「汚れている容器は中身をすすいでから出せる」は女性（68.0%）が男性（58.3%）を9.7ポイント上回っている。

性／年代別で見ると、「該当となる容器や包装材を、資源として分別して出せる」、「汚れている容器は中身をすすいでから出せる」は男女ともに概ね年代が上がるにつれ高くなっている。

地域別で見ると、「該当となる容器や包装材を、資源として分別して出せる」、「汚れている容器は中身をすすいでから出せる」、「容器の中身を使い切るなど、空にして出せる」はいずれの地域でも5割以上となっている。（図表15-4）